



中部電力

浜岡原子力発電所
基準津波の策定のうち
プレート間地震の津波評価について
(コメント回答) データ集

2021年5月12日

目次

1	検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細	
1-1	検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定	3
1-2	検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定	27
1-3	検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定	59
1-4	検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定	91
1-5	検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定	119
2	痕跡再現モデルの波源モデルの詳細	
2-1	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定	147
2-2	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定	164
2-3	南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定	178
2-4	南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定	190

・検討波源モデルA、B-1のパラメータスタディモデルの設定については、第717回審査会合 机上配布資料に記載

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

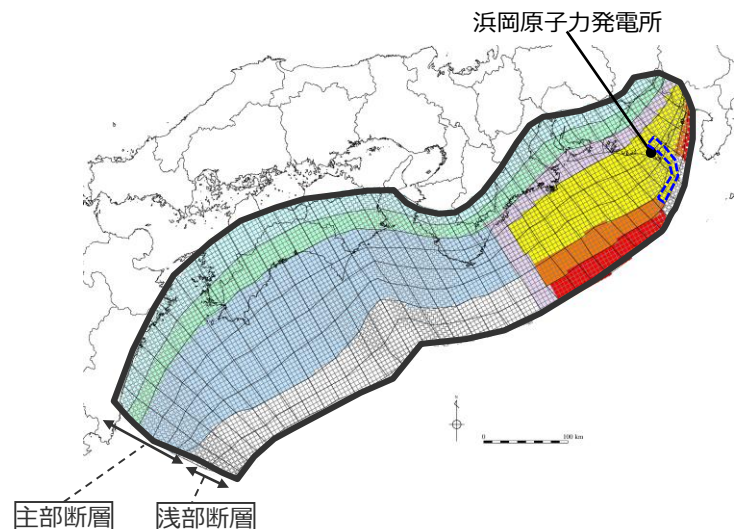
1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.6

- 津波断層域
 - 分岐断層
 - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
 - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
 - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
 - 背景領域
 - 深い背景領域
 - 最も深い背景領域
 - 遷移領域
 - (色なし) すべり量が0(ゼロ)の領域
- } 津波断層域の
全面積の約20%

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
陸側⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.3	3.2	3.1	3.0	3.0	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.6	2.3	2.3	2.0	2.0	1.6	1.6	1.6	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	
	20km↓	2	7.7	7.7	7.4	7.4	7.2	7.2	6.5	6.3	6.3	6.2	6.0	6.0	5.8	5.7	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.2	5.2	5.1	5.1	4.9	5.3	5.3	4.6	4.6	3.9	3.9	3.9	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8	2.0		
		3	15.3	15.3	14.8	14.8	14.4	14.4	13.1	13.1	12.7	12.3	12.3	12.1	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	10.3	9.6	11.5	11.1	11.1	11.9	11.9	10.5	10.5	8.9	8.9	8.9	7.0	7.0	6.3	6.3	4.6	
海溝軸側⇄	10km↓	4	15.3	15.3	14.8	14.8	14.4	14.4	13.1	13.1	12.7	12.7	12.3	12.1	12.1	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.3	10.3	14.1	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1		
		5	15.3	15.3	14.8	14.8	14.4	14.4	14.4	13.1	13.1	12.7	12.3	12.3	12.1	12.1	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.3	14.1	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	9.8	
	0km↓	6	15.3	15.3	14.8	14.8	14.4	14.4	14.4	13.1	13.1	12.7	12.7	12.3	12.1	12.1	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.3	14.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	9.8	9.8	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	16.4	14.7	14.7	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	0.0	0.0	0.0	21.9	19.6	19.6		

- ・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

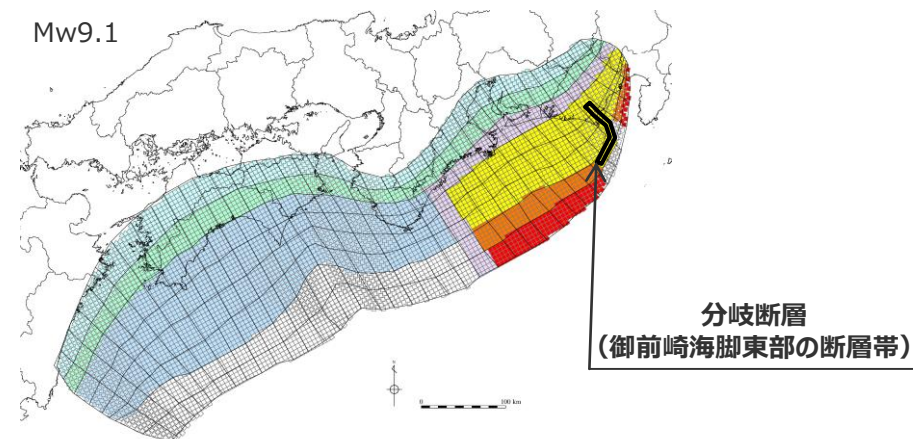
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.8×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.6
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.3×10^{22}
	平均すべり量 ※3 (m)	27.4
	最大すべり量 (m)	41.7

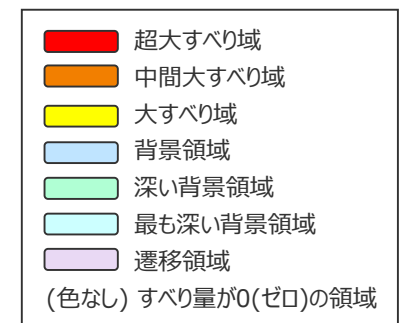
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,301km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,576km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

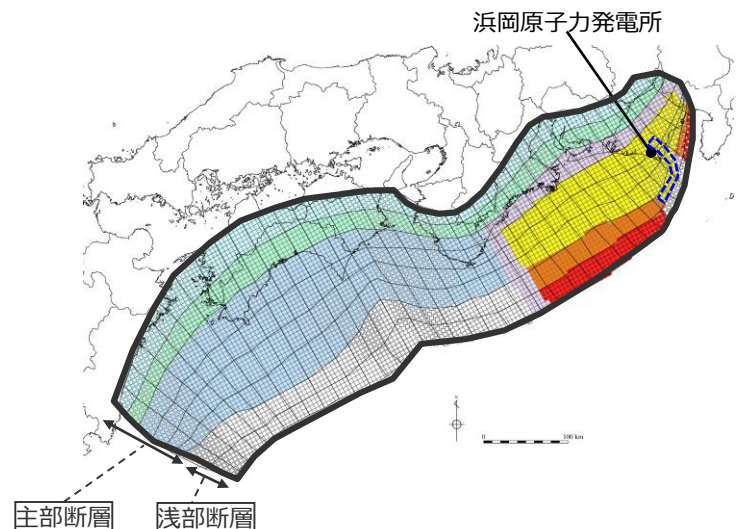
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

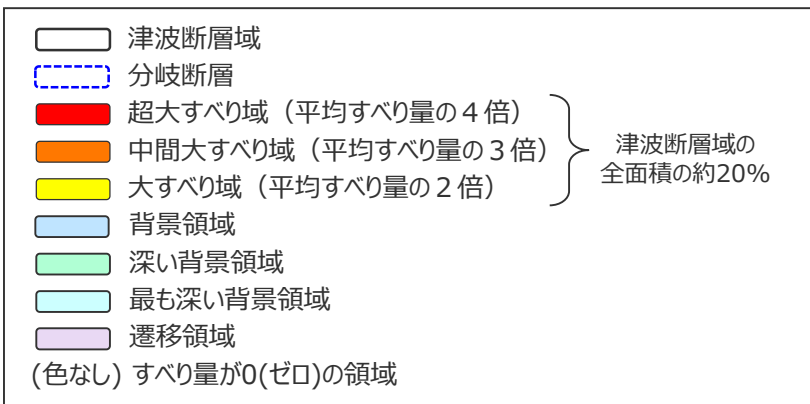
(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)」の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯) の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.7



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯) の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯) の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																																										
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																					
陸側	40km	w	e	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w	w																					
	30km	1	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.3	3.3	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	2.3	2.3	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.0	1.0	1.0	1.0		
海溝軸側	20km	2	7.6	7.6	7.6	7.4	7.4	7.4	7.2	7.2	7.2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.1	6.1	6.0	6.0	6.0	5.8	5.8	5.6	5.6	5.5	5.5	5.5	5.5	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	5.2	5.2	5.2	5.2	4.6	4.6	4.6	4.6	3.9	3.9	3.9	3.9	3.1	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8	2.8	2.0	2.0				
	10km	3	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.3	14.3	14.3	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	9.6	9.6	11.5	11.1	11.1	11.1	11.1	11.9	11.9	11.9	10.5	10.5	10.5	8.9	8.9	8.9	8.9	7.0	7.0	7.0	6.3	6.3	6.3	4.5	4.5			
	5km	4	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.3	14.3	14.3	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	14.1	14.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	9.8	9.8	7.1	4.9		
	2km	5	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.3	14.3	14.3	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	14.3	14.3	14.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	9.8	9.8	7.1	4.9	
	1km	6	15.2	15.2	15.2	14.7	14.7	14.7	14.3	14.3	14.3	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	14.4	14.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	9.8	9.8	7.1	4.9
	0.5km	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	14.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	9.8	9.8	7.1	4.9	
	0km	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	14.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	9.8	9.8	7.1	4.9	

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

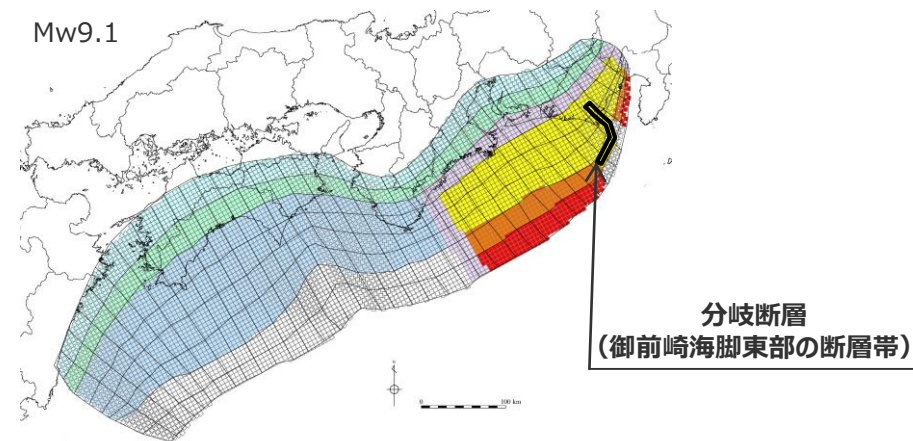
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.9×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.4×10^{22}
	平均すべり量 ※3 (m)	27.7
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,854km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(12,129km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

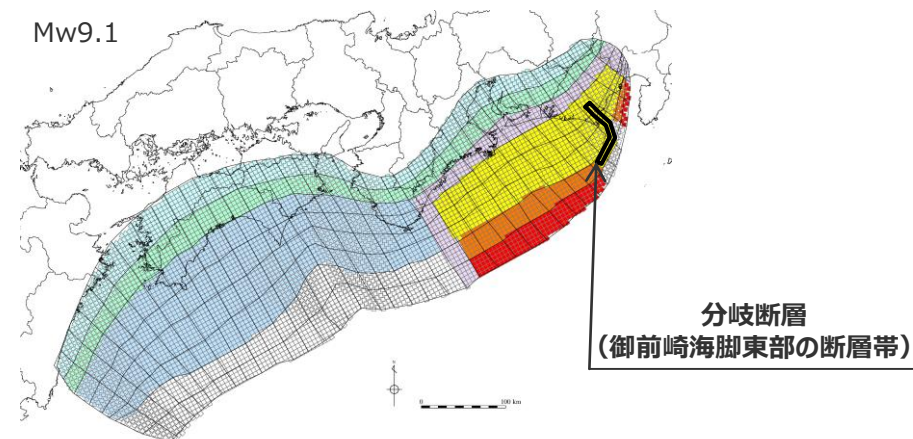
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.9×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.4×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	27.8
	最大すべり量 (m)	41.7

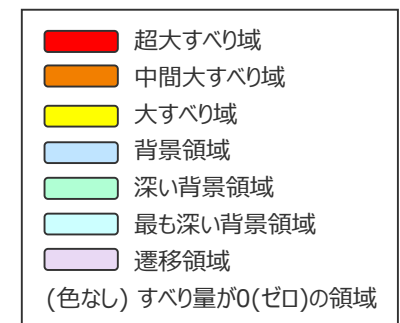
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(122,407km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(12,682km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

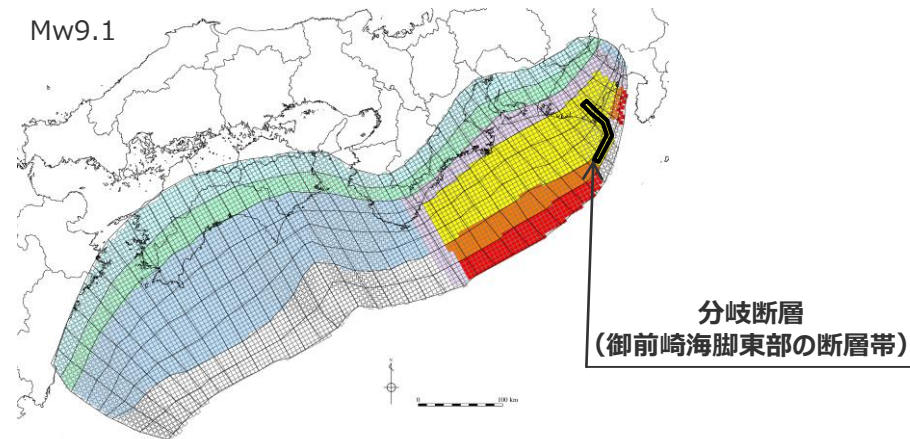
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.0×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.0
最大すべり量 (m)		20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
	平均すべり量 ※3 (m)	27.9
	最大すべり量 (m)	41.7

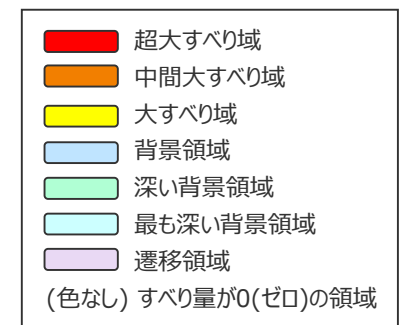
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(122,960km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,235km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

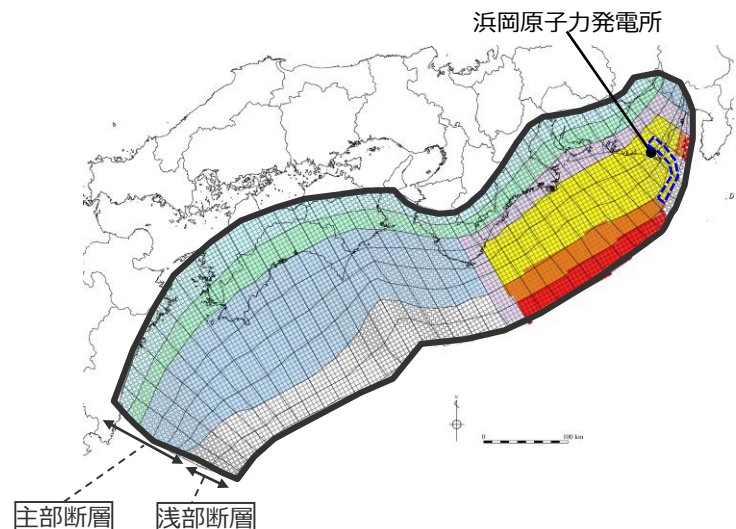
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

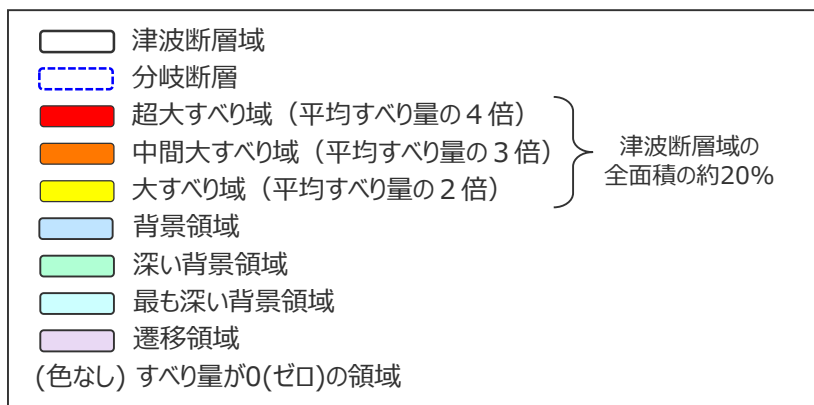
(大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.0



検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇄	深度40km↓	1	3.8	3.8	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.0	3.0	3.0	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.3	2.3	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	1.0	
	20km↓	2	7.5	7.5	7.3	7.3	7.1	7.1	6.4	6.2	6.2	6.0	5.9	5.9	5.7	5.6	5.4	5.4	5.4	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1	5.0	5.0	4.8	5.2	5.2	4.5	4.5	3.9	3.9	3.9	3.1	3.1	3.1	2.7	2.7	2.0
海溝軸側⇄	10km↓	3	15.0	15.0	14.5	14.5	14.1	14.1	12.8	12.8	12.4	12.1	12.1	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.5	10.5	14.3	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	7.4	4.0
	0km↓	4	15.0	15.0	14.5	14.5	14.1	14.1	14.1	12.8	12.8	12.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.5	14.3	18.1	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	10.9	10.9	8.2	5.5
⇄	0km↓	5	15.0	15.0	14.5	14.5	14.1	14.1	14.1	12.8	12.8	12.4	12.4	12.1	11.8	11.8	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	14.3	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	10.9	8.2	5.5	
	8	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	16.4	8.2	5.5	
⇄	8	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	37.5	36.3	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	0.0	0.0	0.0	21.9	8.2	5.5	

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	28.0
	最大すべり量 (m)	41.7

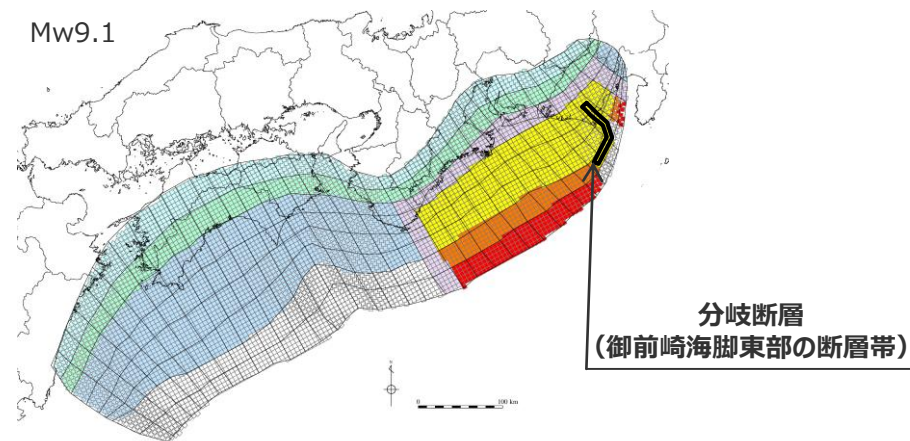
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,563km²)に基づき算出

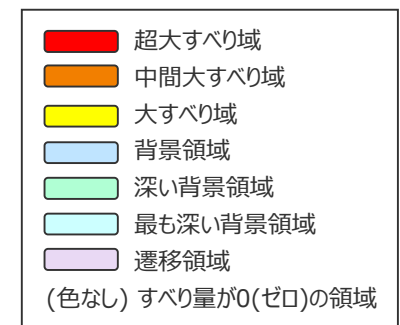
※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,838km²)に基づき算出

主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース



1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

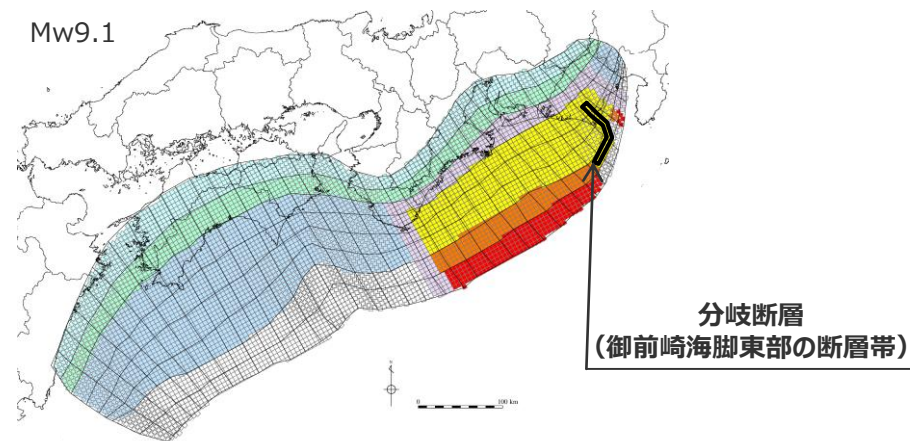
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.0
最大すべり量 (m)		20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	27.9
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,814km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,089km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

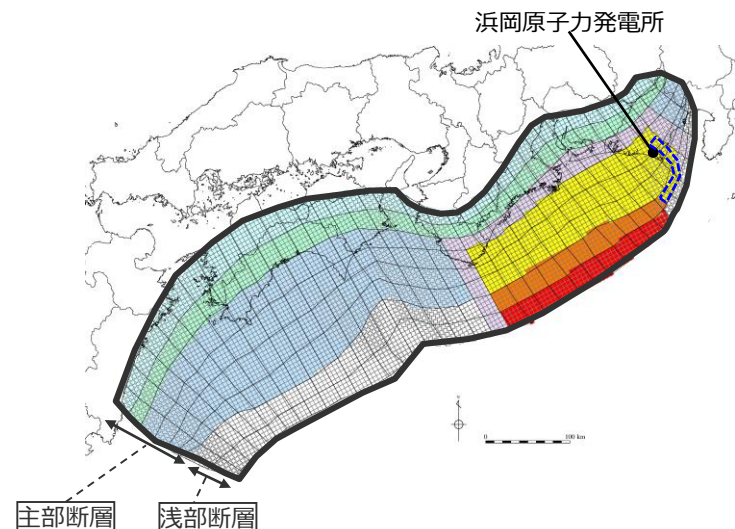
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）」の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

- 津波断層域
 - 分岐断層
 - 超大すべり域（平均すべり量の4倍）
 - 中間大すべり域（平均すべり量の3倍）
 - 大すべり域（平均すべり量の2倍）
 - 背景領域
 - 深い背景領域
 - 最も深い背景領域
 - 遷移領域
 - (色なし) すべり量が0(ゼロ)の領域
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇄	深度40km↓		3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.2	2.2	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	1.0	
	30km↓	1	7.4	7.4	7.2	7.2	7.0	7.0	6.3	6.1	6.1	6.0	5.8	5.8	5.6	5.5	5.3	5.3	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	5.1	5.1	4.5	4.5	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	3.0	2.7	2.7	2.0	
海溝軸側⇄	20km↓	3	14.8	14.8	14.4	14.4	14.0	14.0	12.7	12.7	12.3	11.9	11.9	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.4	10.4	11.7	11.6	11.6	11.4	11.0	11.0	11.8	11.8	10.4	10.4	8.8	8.8	8.8	7.0	7.0	6.8	5.4	3.9
		4	14.8	14.8	14.4	14.4	14.0	14.0	12.7	12.7	12.3	12.3	11.9	11.7	11.7	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	10.4	14.3	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	8.2	5.4	3.9
	10km↓	5	14.8	14.8	14.4	14.4	14.0	14.0	14.0	12.7	12.7	12.3	11.9	11.9	11.7	11.7	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	14.7	18.8	18.1	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	10.9	8.2	5.4	5.4
		6	14.8	14.8	14.4	14.4	14.0	14.0	14.0	12.7	12.7	12.3	12.3	11.9	11.7	11.7	11.3	11.0	11.0	11.0	10.7	10.7	14.7	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	9.6	5.4	5.4
⇄	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	9.6	0.0	0.0	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	37.5	37.5	36.3	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	0.0	0.0	0.0	9.6	0.0	0.0

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

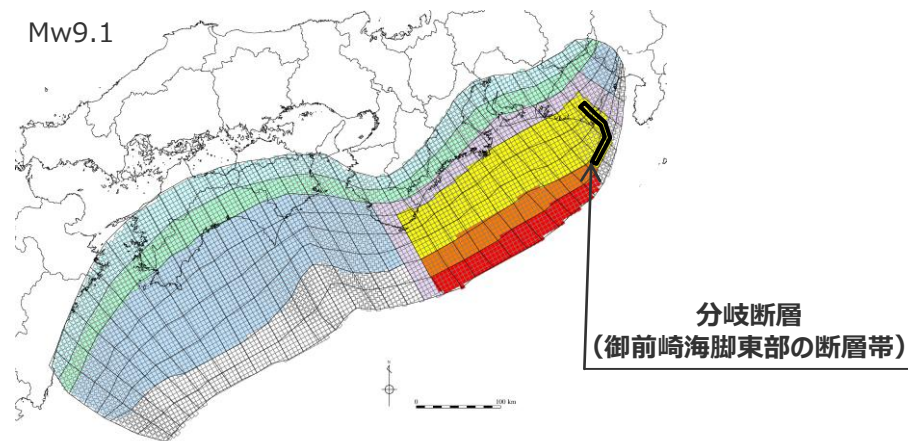
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	28.8
	最大すべり量 (m)	41.7

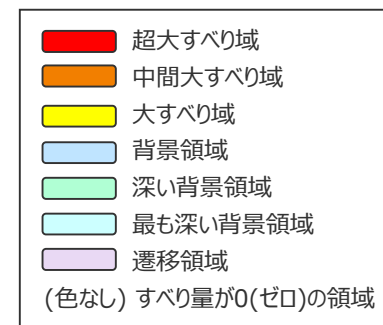
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,157km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,433km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

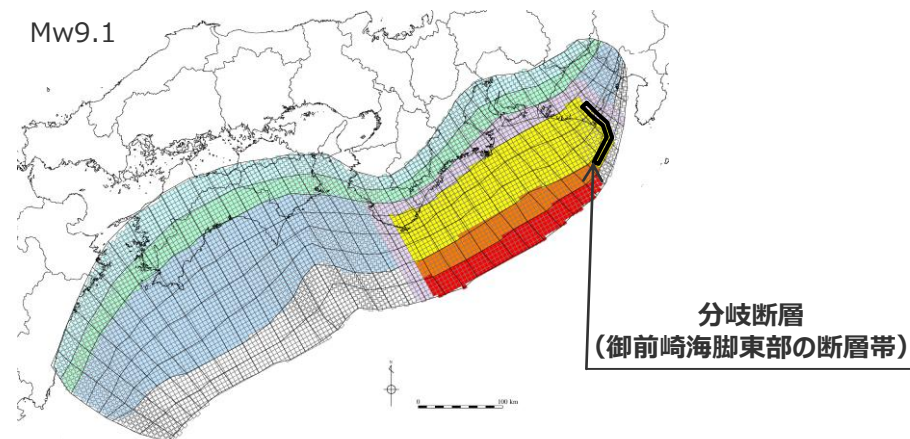
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.0
最大すべり量 (m)		20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	29.3
	最大すべり量 (m)	41.7

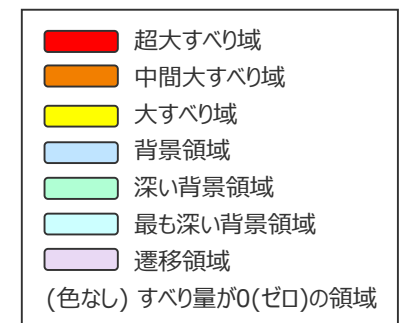
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,451km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,727km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

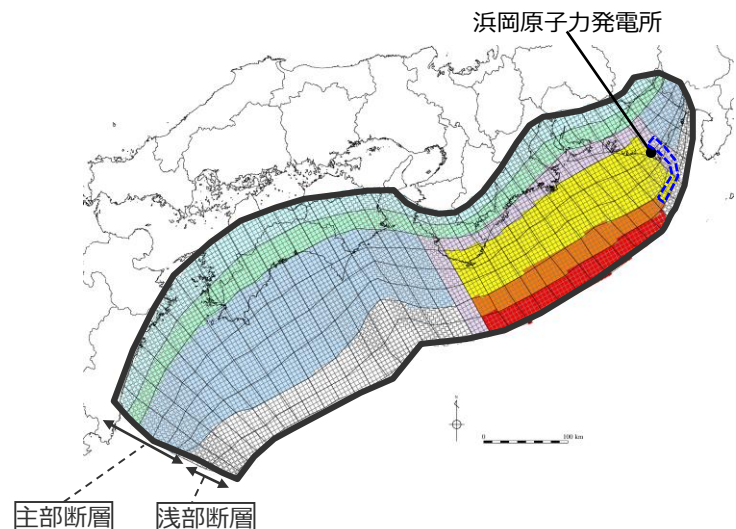
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.3

- 津波断層域
 - 分岐断層
 - 超大すべり域（平均すべり量の4倍）
 - 中間大すべり域（平均すべり量の3倍）
 - 大すべり域（平均すべり量の2倍）
 - 背景領域
 - 深い背景領域
 - 最も深い背景領域
 - 遷移領域
 - (色なし) すべり量が0(ゼロ)の領域
- } 津波断層域の
全面積の約20%

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
陸側⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.1	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.5	2.2	2.2	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.0	1.0
	20km↓	2	7.3	7.3	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.0	6.0	5.9	5.7	5.7	5.5	5.4	5.2	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	5.0	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	3.7	3.0	3.0	3.0	2.6	2.6	1.9	
		3	14.5	14.5	14.1	14.1	13.7	13.7	12.4	12.4	12.0	11.7	11.7	11.5	11.0	11.0	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	10.5	14.6	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	5.3	3.8
	10km↓	4	14.5	14.5	14.1	14.1	13.7	13.7	12.4	12.4	12.0	11.7	11.5	11.5	11.0	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	10.5	14.6	18.8	18.8	18.1	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	10.9	10.9	5.3	5.3	
		5	14.5	14.5	14.1	14.1	13.7	13.7	13.7	12.4	12.4	12.0	11.7	11.7	11.5	11.5	11.0	10.8	10.8	10.5	10.5	14.6	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	5.3	5.3
	0km↓	6	14.5	14.5	14.1	14.1	13.7	13.7	13.7	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.5	11.5	11.0	10.8	10.8	10.8	10.5	14.6	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	5.3	5.3
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	29.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	38.8	37.5	37.5	36.3	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

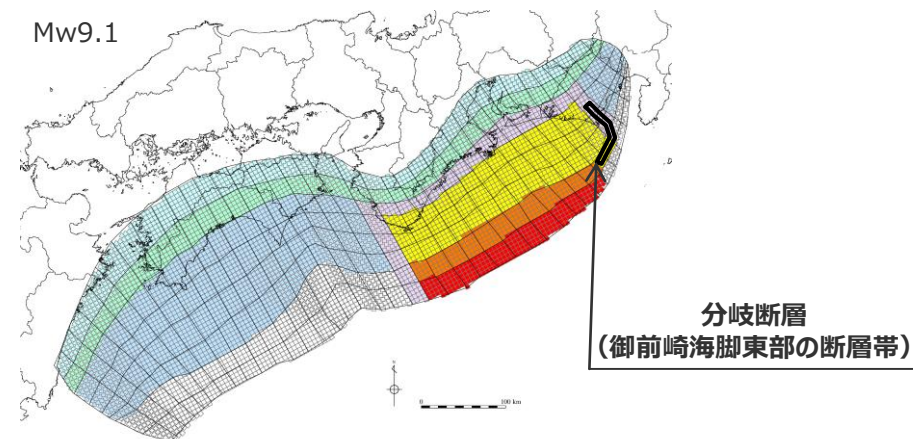
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.3×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.3
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	29.7
	最大すべり量 (m)	41.7

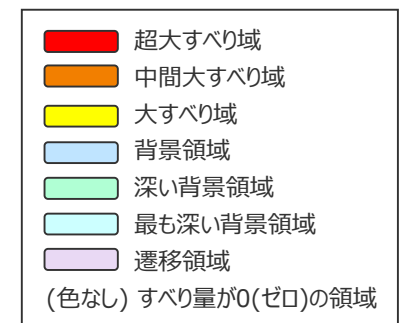
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,645km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,920km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

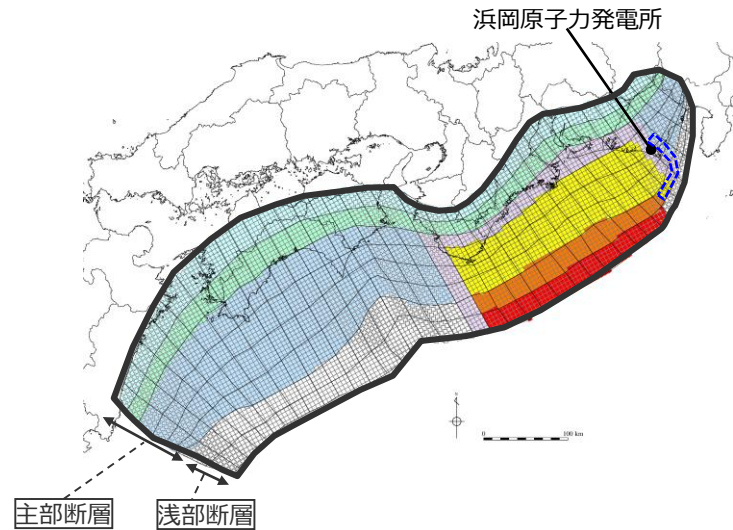
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)」の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.3

- 津波断層域
 - 分岐断層
 - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
 - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
 - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
 - 背景領域
 - 深い背景領域
 - 最も深い背景領域
 - 遷移領域
 - (色なし) すべり量が0(ゼロ)の領域
- 津波断層域の
全面積の約20%

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東																																			
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																				
陸側⇄ 海溝軸側⇄	40km	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																				
	30km	1	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.2	2.2	2.2	1.9	1.9	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0													
	20km	2	7.3	7.3	7.3	7.1	7.1	7.1	6.9	6.9	6.9	6.3	6.3	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.8	5.8	5.8	5.6	5.6	5.4	5.4	5.3	5.3	5.3	5.3	5.1	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	4.4	4.4	4.4	4.4	3.8	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.7	2.7	1.9	1.9														
	10km	3	14.6	14.6	14.6	14.2	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.4	11.4	11.0	11.0	11.0	11.8	11.8	10.4	10.4	10.4	8.8	8.8	8.8	8.8	7.0	7.0	7.0	6.0	5.3	5.3	5.3	3.9	3.9														
	0km	4	14.6	14.6	14.6	14.2	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	14.7	14.7	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	6.0	6.0	5.3	5.3	5.3								
	0km	5	14.6	14.6	14.6	14.2	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	14.7	14.7	18.8	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	6.0	6.0	5.3	5.3	5.3							
	0km	6	14.6	14.6	14.6	14.2	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.1	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.6	10.6	14.7	14.7	18.8	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	6.0	6.0	5.3	5.3	5.3						
	0km	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	14.7	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	27.2	27.2	27.2	26.9	26.9	26.9	26.9	25.9	25.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	27.7	27.7	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0km	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	14.7	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	27.2	27.2	27.2	26.9	26.9	26.9	26.9	25.9	25.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	27.7	27.7	16.3	16.3	16.3	13.8	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。各列はw,eに2列に分割。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

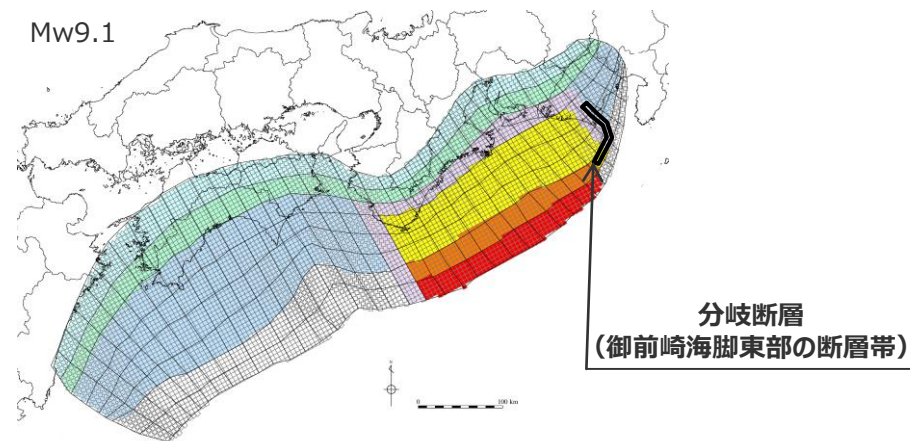
検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.3×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.3
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量 ※3 (m)	29.6
	最大すべり量 (m)	41.7

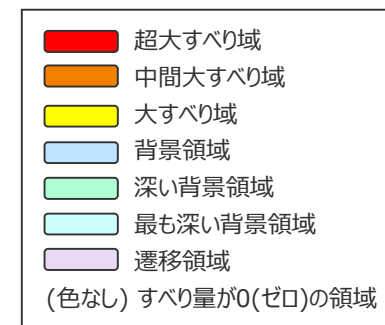
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,645km²)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,920km²)に基づき算出



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

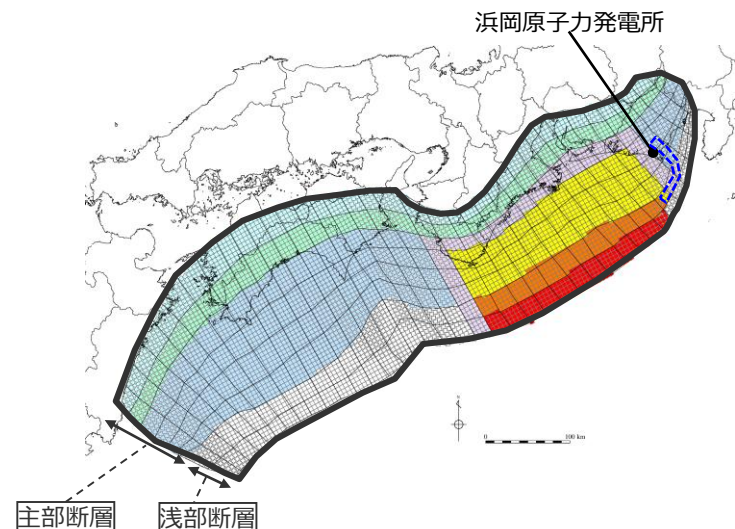
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.3

- 津波断層域
- 分岐断層
- 超大すべり域（平均すべり量の4倍）
- 中間大すべり域（平均すべり量の3倍）
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）
- 背景領域
- 深い背景領域
- 最も深い背景領域
- 遷移領域
- (色なし) すべり量が0(ゼロ)の領域

} 津波断層域の
全面積の約20%

検討波源モデルB-2
(プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデルB-2（プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
陸側⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	3.7	3.7	3.5	3.5	3.4	3.4	3.1	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.5	2.2	2.2	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.0	1.0	
海溝軸側⇄	20km↓	2	7.3	7.3	7.1	7.1	6.9	6.9	6.3	6.1	6.1	5.9	5.8	5.8	5.6	5.4	5.3	5.3	5.3	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	5.0	5.0	4.4	4.4	3.8	3.8	3.8	3.0	3.0	3.0	2.7	2.7	1.9	
		3	14.6	14.6	14.2	14.2	13.8	13.8	12.5	12.5	12.1	11.8	11.8	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	10.5	14.7	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	6.0	5.3
⇄	10km↓	4	14.6	14.6	14.2	14.2	13.8	13.8	12.5	12.5	12.1	12.1	11.8	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	14.7	18.8	18.8	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	6.0	5.3	3.9	
		5	14.6	14.6	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.1	11.8	11.8	11.5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	14.7	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	15.1	13.8	6.0	5.3	5.3	
⇄	0km↓	6	14.6	14.6	14.2	14.2	13.8	13.8	13.8	12.5	12.5	12.1	12.1	11.8	11.5	11.1	10.8	10.8	10.8	10.5	14.7	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	16.3	16.3	15.1	13.8	6.0	5.3	5.3		
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	29.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	38.8	37.5	37.5	36.3	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

・すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

分岐断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-1 検討波源モデルB-2のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.3×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.3
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	20.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量※3 (m)	29.5
	最大すべり量 (m)	41.7

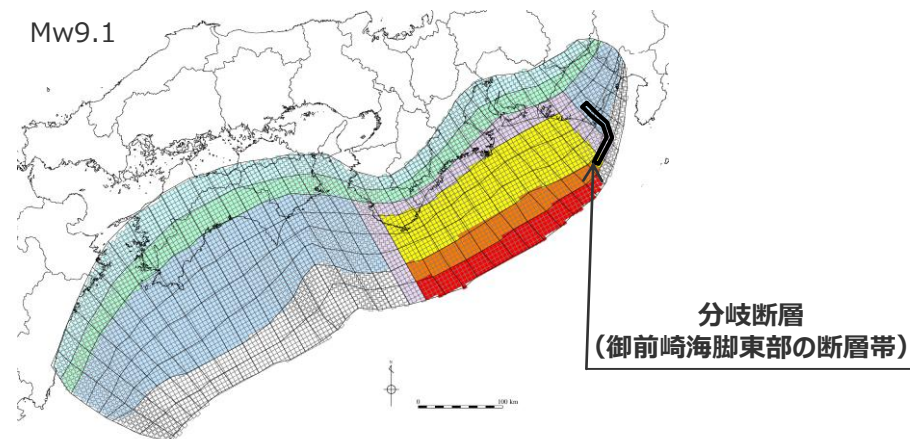
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,645km²)に基づき算出

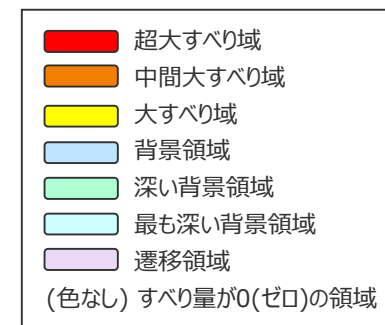
※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,920km²)に基づき算出

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



検討波源モデルB-2 (プレート境界面浅部・御前崎海脚東部の断層帯)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース



余 白

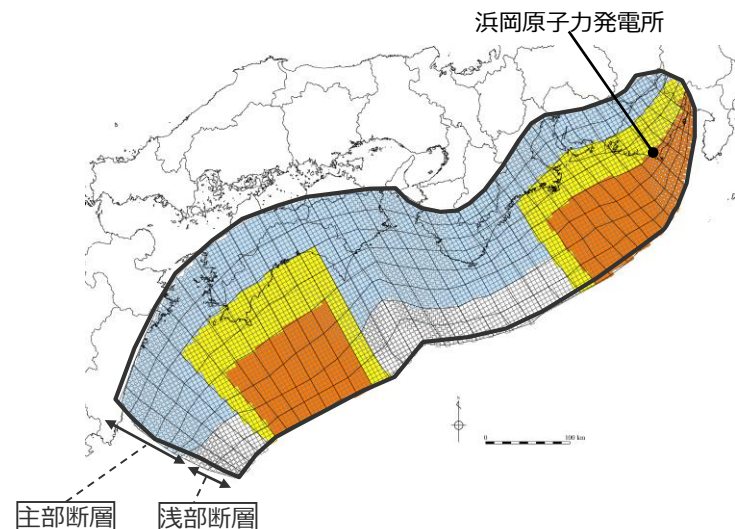
1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.2

	津波断層域	} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大
	超大すべり域（平均すべり量の3倍）	
	大すべり域（平均すべり量の1.4倍）	
	背景領域	
(色なし)	すべり量が0(ゼロ)の領域	

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	深度40km↓	1	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.0	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	2.8	2.8	2.4	2.4	1.9	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	1.2	1.2	
	30km↓	2	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.0	3.9	3.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.2	3.2	2.8	2.8	2.4	2.4	1.9	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	1.2	1.2
海溝軸側⇕	20km↓	3	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.0	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
		4	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
	10km↓	5	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	12.1	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	14.7	
		6	4.7	4.7	4.5	4.5	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	12.5	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	14.7	14.7	
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	14.7	14.7		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	14.7	14.7		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

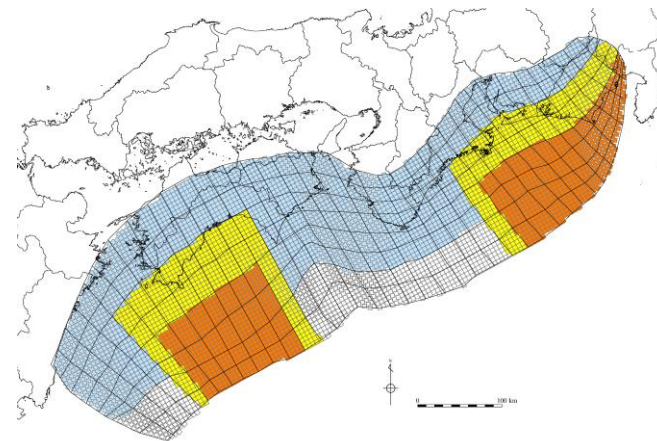
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.4×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.2
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

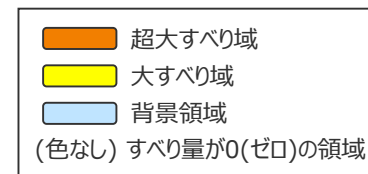
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,822km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,098km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

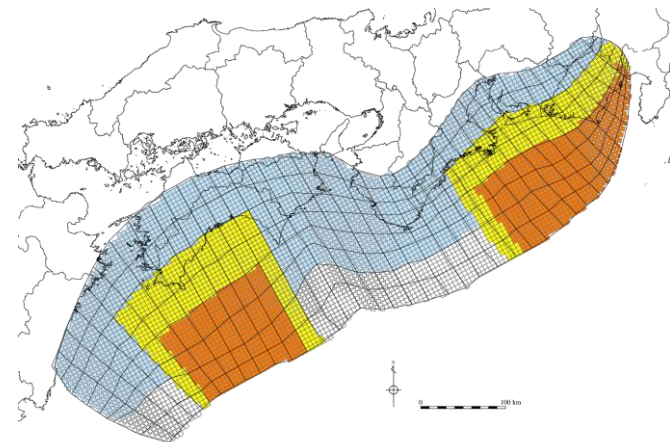
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.4×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.3
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.0×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

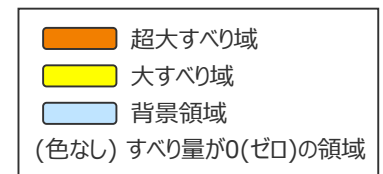
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,400km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,675km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

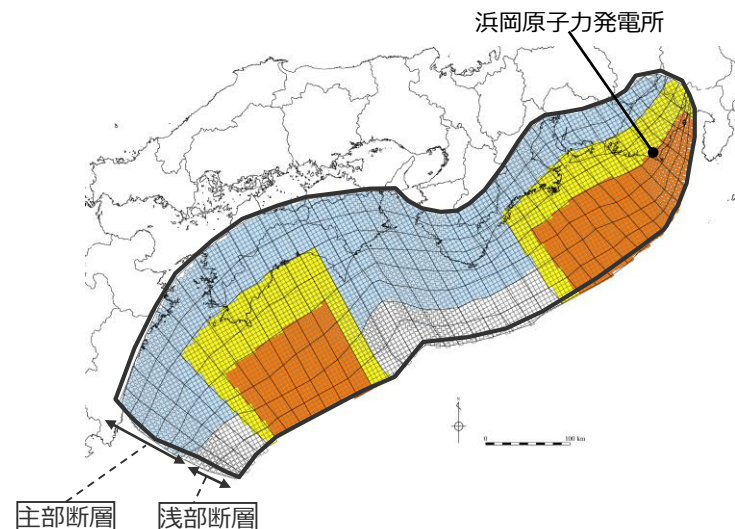
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.4

	津波断層域	} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大
	超大すべり域（平均すべり量の3倍）	
	大すべり域（平均すべり量の1.4倍）	
	背景領域	
(色なし)	すべり量が0(ゼロ)の領域	

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側	深度40km↓	1	4.2	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.5	2.5	2.1	2.1	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5	1.5	1.1	1.1		
	30km↓	2	4.2	4.2	4.0	4.0	3.9	3.9	3.6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.5	2.5	2.1	2.1	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5	1.5	1.1	1.1	
海溝軸側	20km↓	3	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
		4	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	5.0
	10km↓	5	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.5	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	6.8		
		6	4.2	4.2	4.0	4.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	12.5	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	14.7	6.8		
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	14.7	6.8		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	14.7	6.8		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

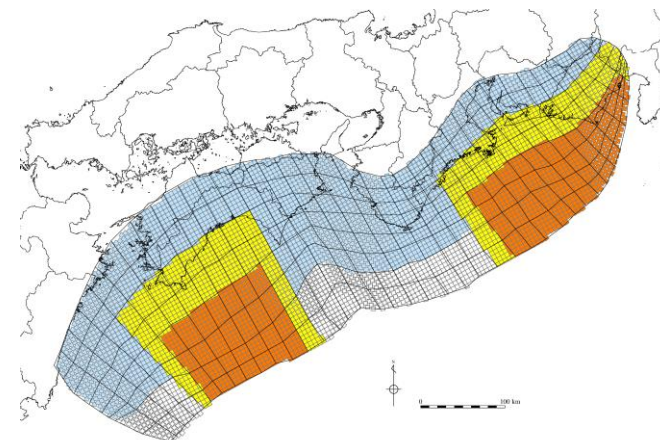
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.5×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.0×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	26.9
	最大すべり量 (m)	38.0

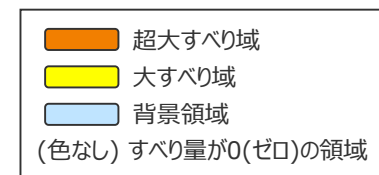
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(128,027km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(18,303km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

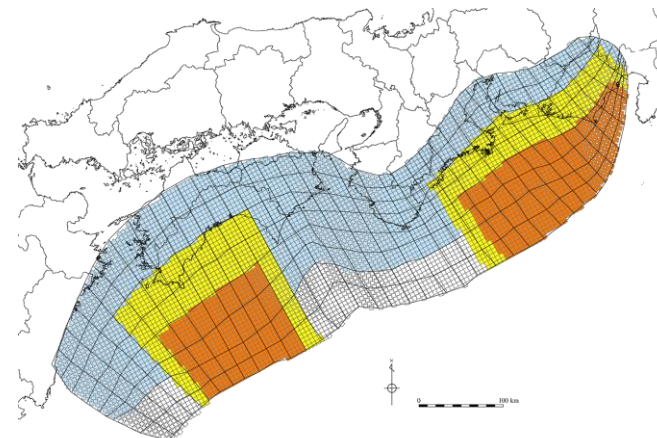
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.6×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	26.9
	最大すべり量 (m)	38.0

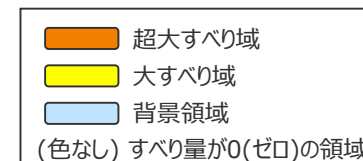
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(128,598km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(18,873km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

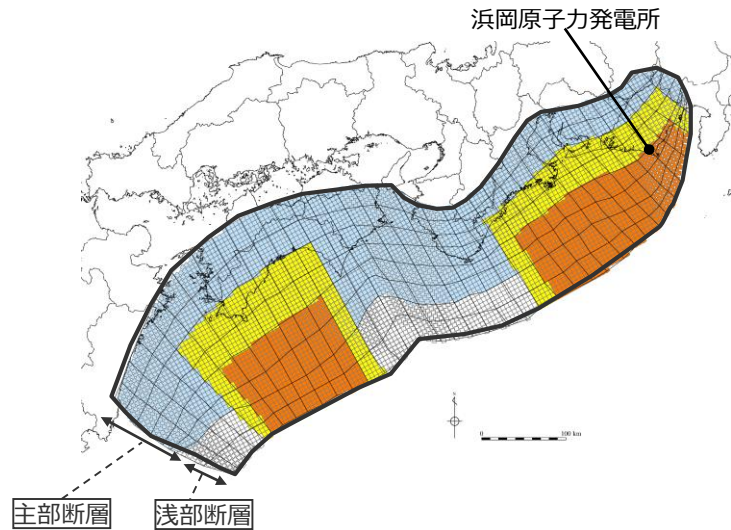
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.5

	津波断層域	} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大
	超大すべり域（平均すべり量の3倍）	
	大すべり域（平均すべり量の1.4倍）	
	背景領域	
(色なし)	すべり量が0(ゼロ)の領域	

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側	深度40km↓	1	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.3	2.3	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	1.0		
	30km↓	2	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.6	2.3	2.3	1.9	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.0	
海溝軸側	20km↓	3	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	6.8	1.0	
	10km↓	4	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	1.0	
⇄	0km↓	5	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	12.5	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	6.8	1.4	
	0km↓	6	3.7	3.7	3.6	3.6	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	6.8	0.0	
	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	16.4	6.8	0.0	
	0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	16.4	6.8	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

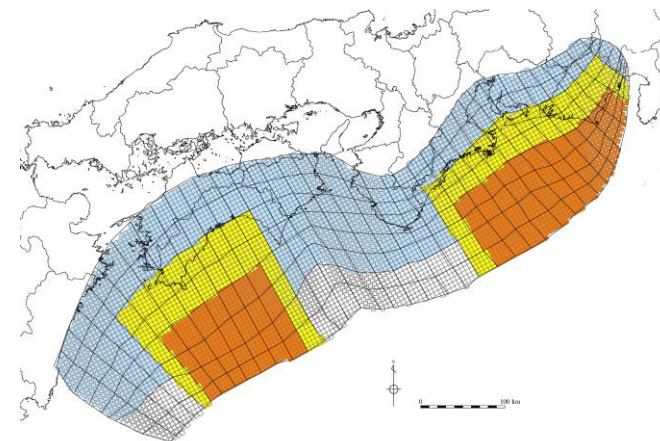
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.6×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.5
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	38.0

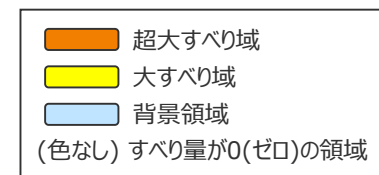
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(129,091km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(19,366km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

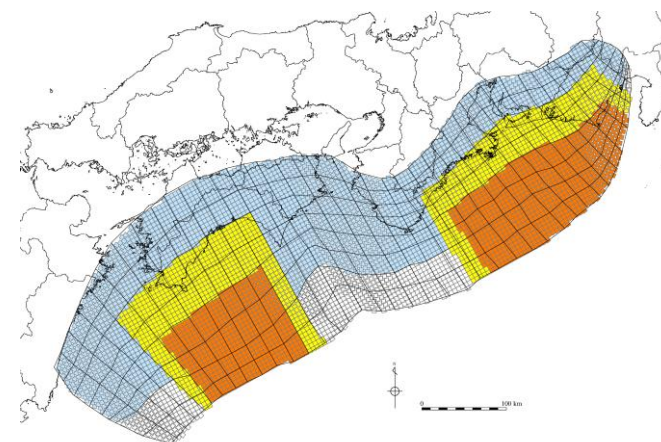
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.7×10 ²²
	Mw	9.1
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.6
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10 ²²
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10 ²²
	平均すべり量*3 (m)	27.1
	最大すべり量 (m)	38.0

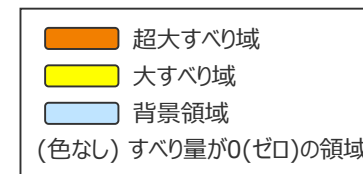
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(129,534km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(19,810km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

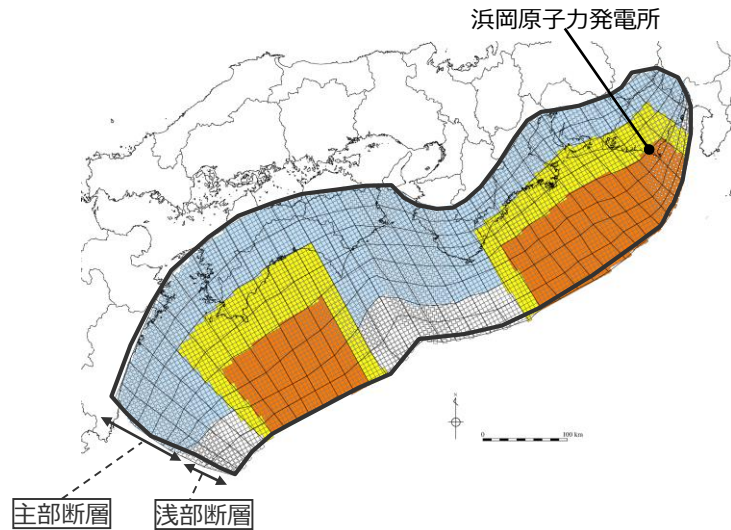
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.6

	津波断層域	} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大
	超大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の1.4倍)	
	背景領域	
(色なし)	すべり量が0(ゼロ)の領域	

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
				30km↓	1	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9
		20km↓	2	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	
			3	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	6.8	1.2
		10km↓	4	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	1.2	0.9
			5	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	12.7	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	7.7	1.2	1.2
		0km↓	6	3.4	3.4	3.3	3.3	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	12.7	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	7.7	1.2	1.2
			7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	7.7	0.0	0.0
			8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	20.7	7.7	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

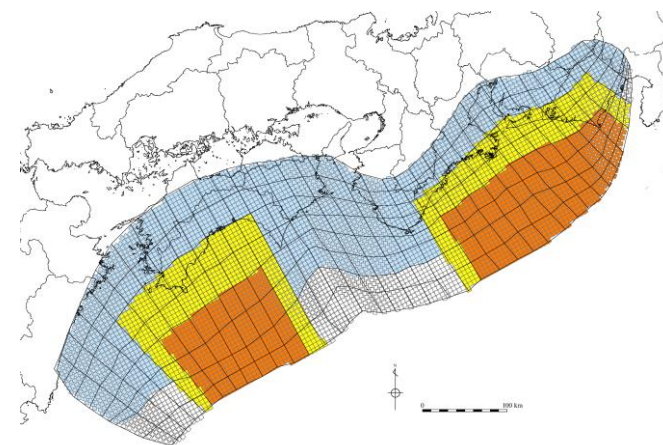
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.6
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.2
	最大すべり量 (m)	38.0

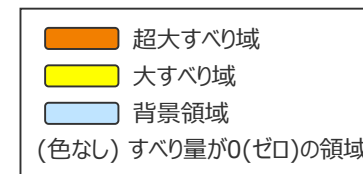
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(129,927km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(20,202km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

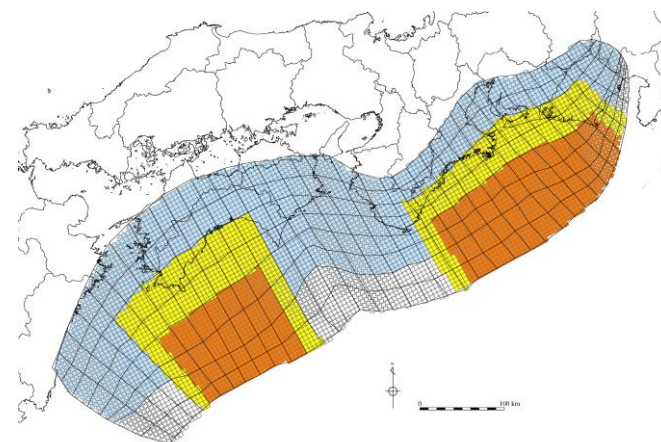
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.3
	最大すべり量 (m)	38.0

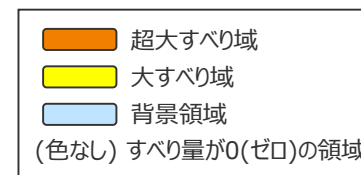
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,296km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(20,571km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

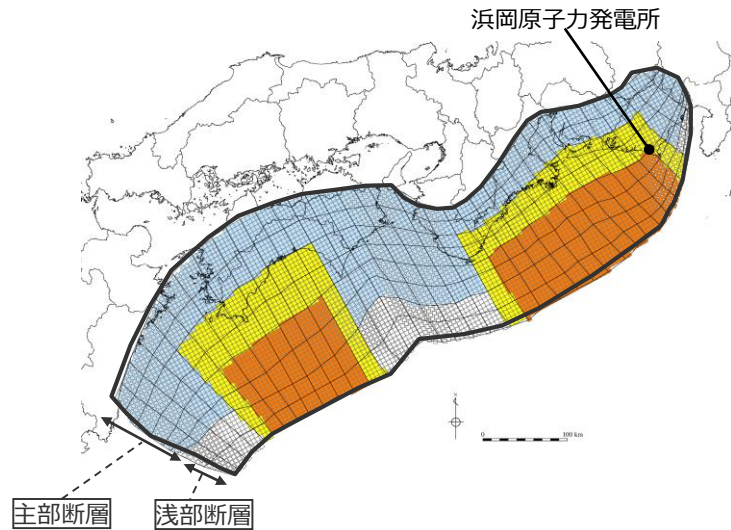
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

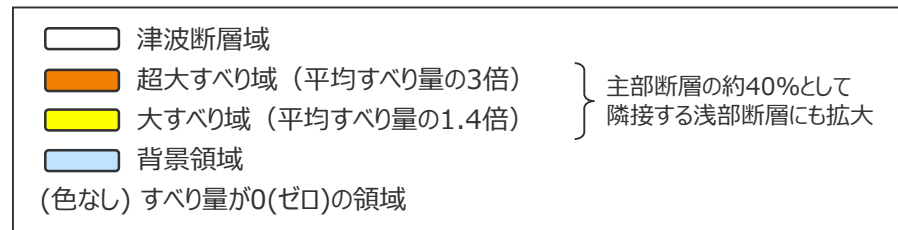
(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.7



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8
	20km↓	2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	
		3	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	7.7	7.7	1.1	1.1	0.8
	10km↓	4	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	7.7	1.2	1.1	0.8
		5	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	7.7	1.2	1.1	1.1
	0km↓	6	3.1	3.1	3.0	3.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	32.5	14.8	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	13.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	9.7	1.2	1.1	1.1	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	9.7	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

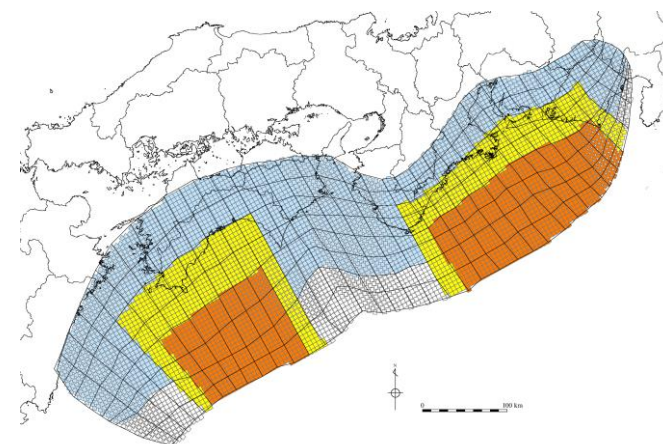
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.3
	最大すべり量 (m)	38.0

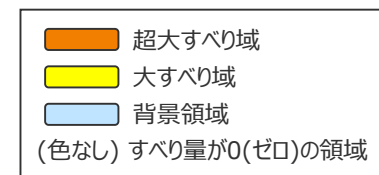
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,639km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(20,915km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

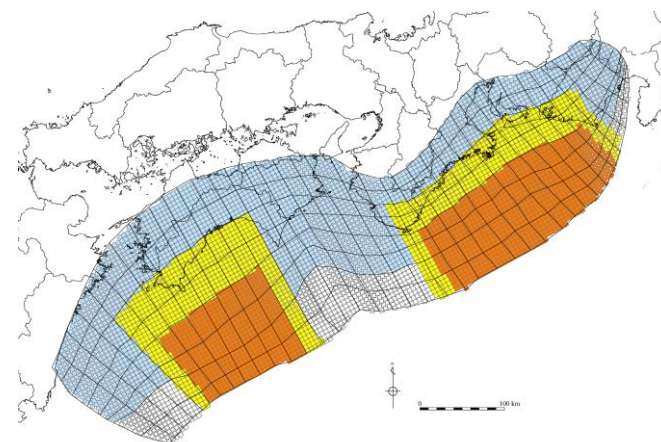
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.4
	最大すべり量 (m)	38.0

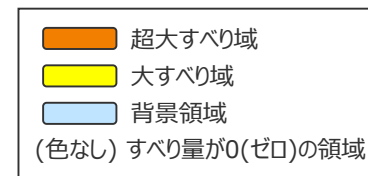
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,961km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(21,237km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

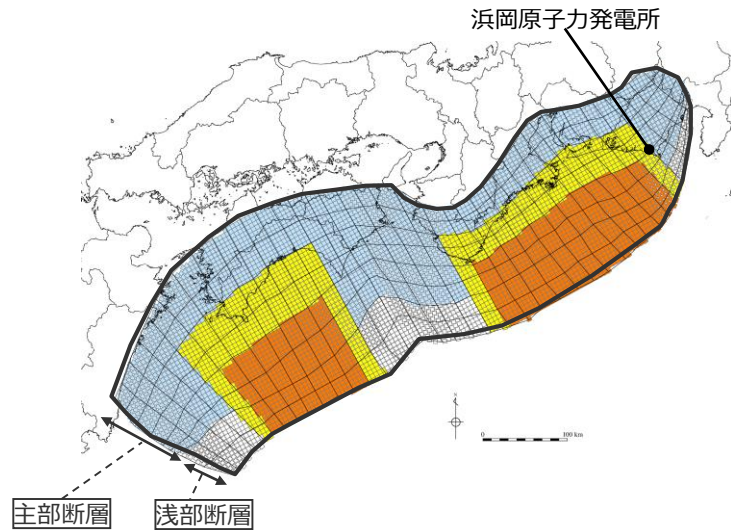
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

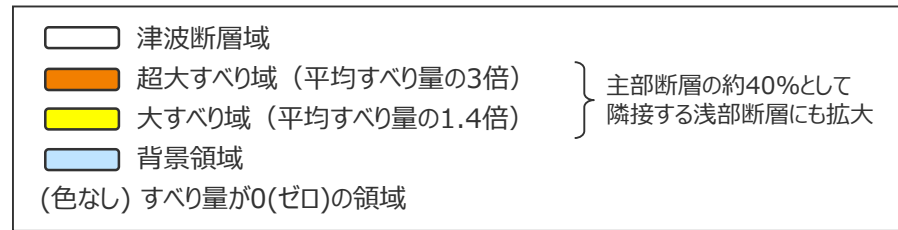
(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.8



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7
20km↓	2	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	
	3	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.1	1.0	1.0	0.7
10km↓	4	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	9.7	1.1	1.1	1.0	0.7
	5	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	13.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	9.7	1.1	1.1	1.0	1.0
0km↓	6	2.8	2.8	2.7	2.7	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	1.4	1.1	1.0	1.0
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
⇄	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

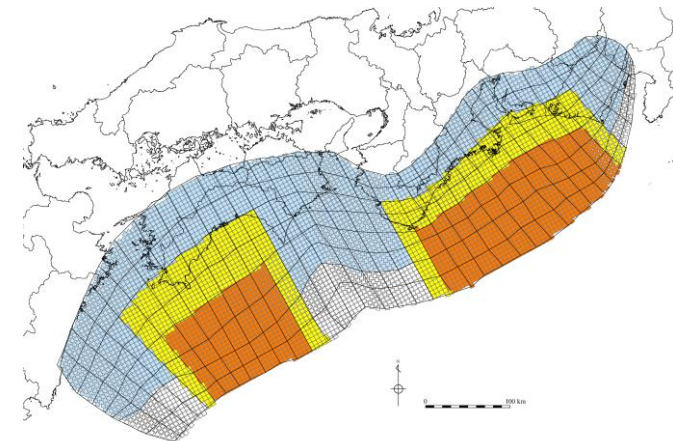
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

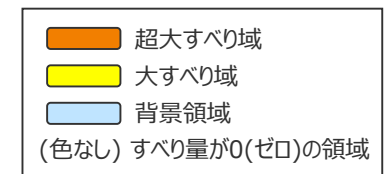
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(131,156km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(21,432km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

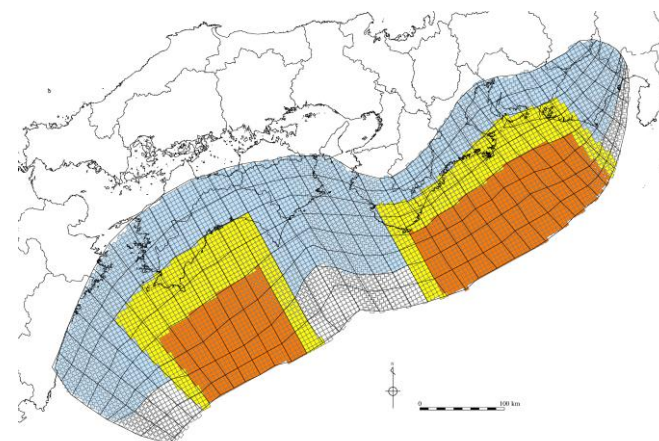
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

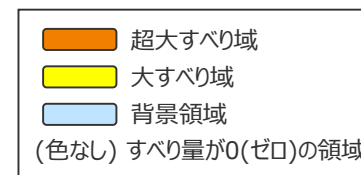
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,901km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(21,176km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

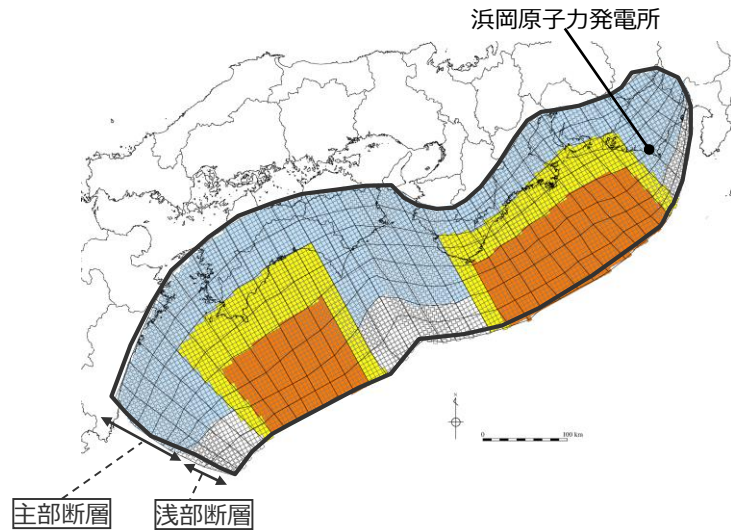
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

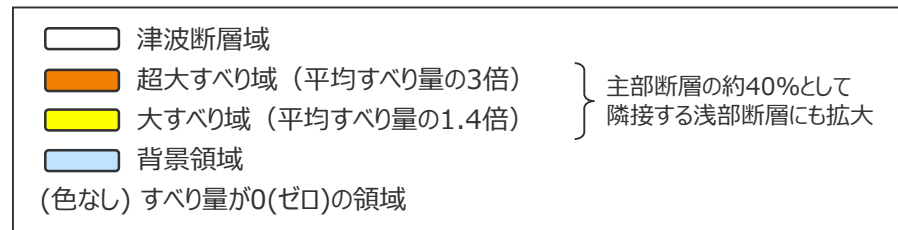
(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.8



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8
	20km↓	2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8		
		3	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	9.7	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8
	10km↓	4	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	9.7	1.6	1.3	1.3	1.2	0.8	
		5	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	13.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	9.7	1.6	1.3	1.3	1.2	1.2	
	0km↓	6	3.2	3.2	3.1	3.1	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	13.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	24.4	11.4	1.6	1.6	1.3	1.2	1.2	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	27.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

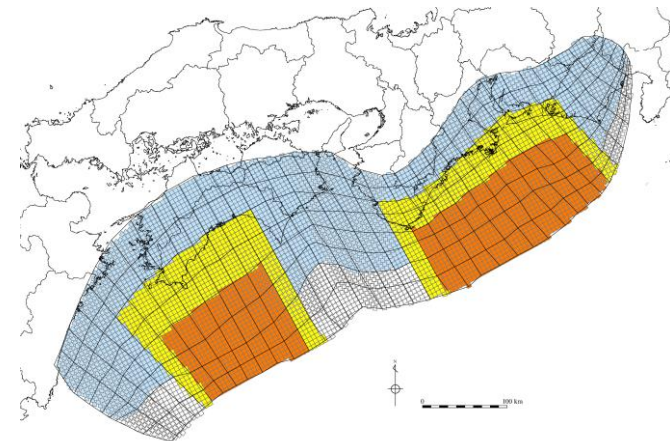
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,620km²)に基づき算出

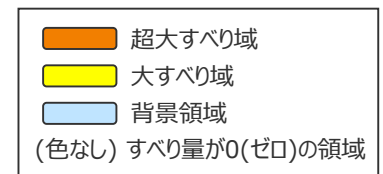
※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(20,896km²)に基づき算出

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース



1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

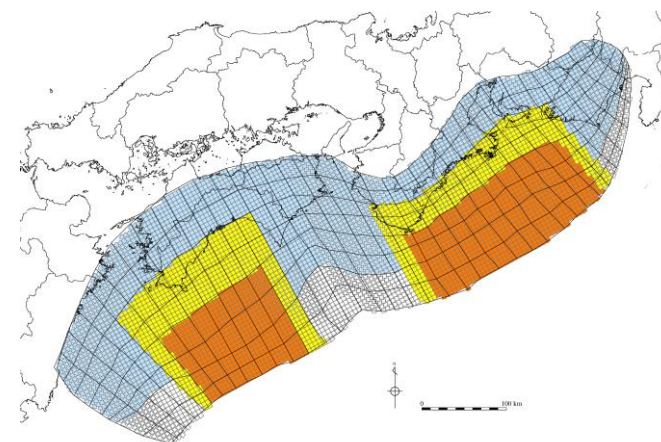
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	38.0

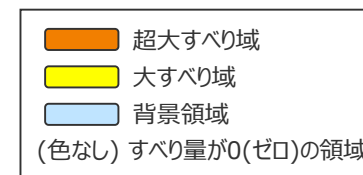
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,844km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(21,120km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

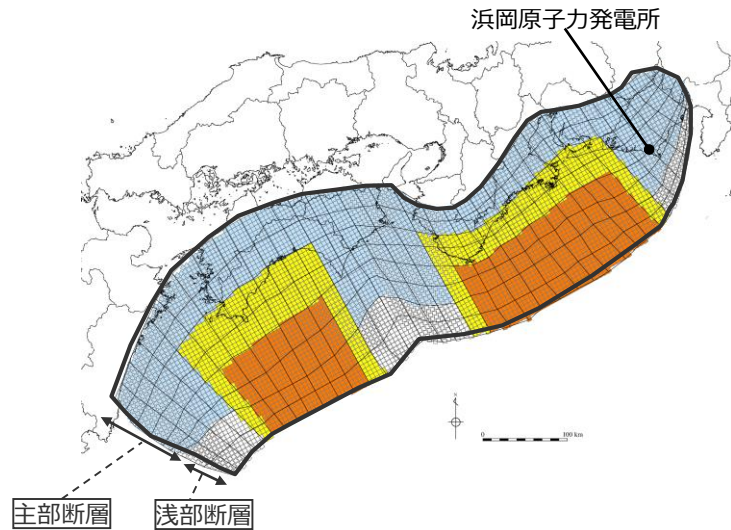
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

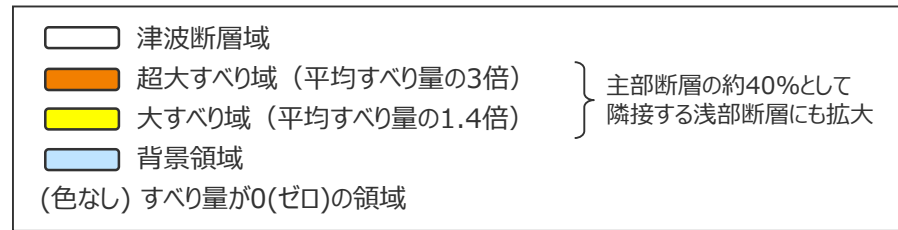
(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.0	12.8



検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデルC（土木学会(2016)手法）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東		
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	20km↓	2	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8		
		3	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.2	15.2	14.8	14.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	13.1	13.1	12.7	12.7	12.5	12.1	12.1	12.9	12.9	11.4	11.4	9.7	9.7	1.6	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	
	10km↓	4	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	17.7	16.1	16.1	15.6	15.6	15.2	14.8	14.8	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	13.1	13.1	12.7	12.7	12.5	12.5	12.1	14.6	12.9	12.9	11.4	9.7	9.7	1.6	1.6	1.2	1.2	1.1	0.8	
		5	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	32.5	32.5	14.8	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	13.6	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	11.4	1.6	1.6	1.2	1.2	1.1	1.1	
	0km↓	6	3.0	3.0	2.9	2.9	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	29.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	11.4	1.8	1.6	1.6	1.2	1.1	1.1
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	38.0	38.0	34.4	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	29.1	28.1	27.2	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	38.0	38.0	38.0	34.4	34.4	33.3	33.3	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	29.1	28.1	28.1	27.2	27.2	26.9	25.9	25.9	31.3	31.3	31.3	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-2 検討波源モデルCのパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

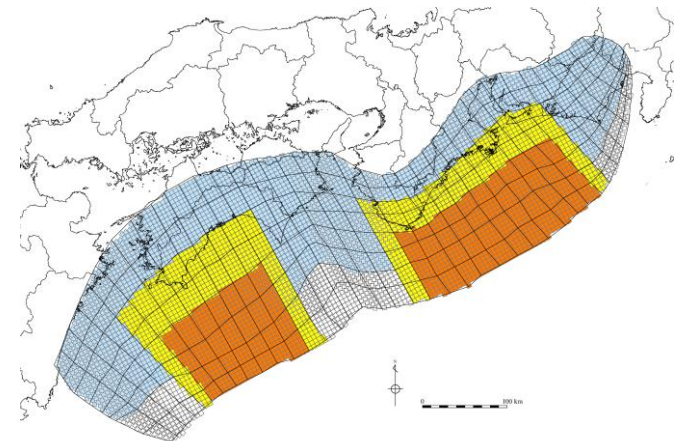
検討波源モデルC
(土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.9×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量*1 (MPa)	3.0
	平均すべり量*2 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	38.0
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.0
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量*3 (m)	27.7
	最大すべり量 (m)	38.0

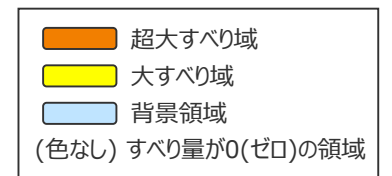
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(130,993km²)に基づき算出

※3 すべり量が0 m(ゼロ)でない領域の断層面積(21,269km²)に基づき算出



検討波源モデルC (土木学会(2016)手法)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

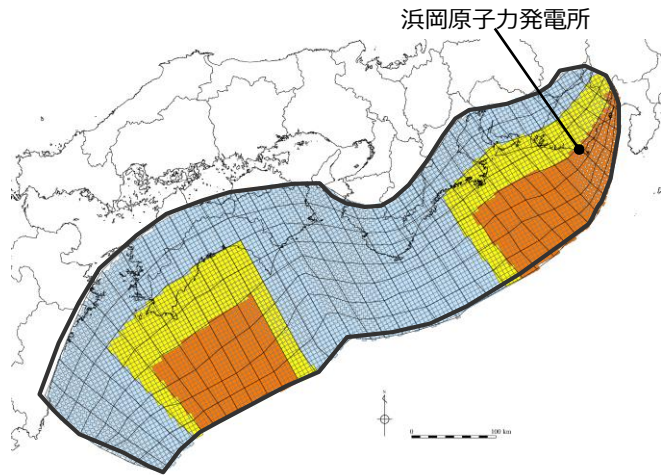
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

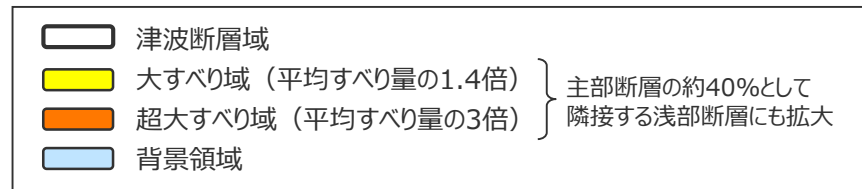
(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	10.7



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
陸側⇄	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1			
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
海溝軸側⇄	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8	4.8	
		4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8	4.8	
	10km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.8	2.8	11.7	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	14.1	14.1	14.1	14.1	
		6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
0km↓	7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

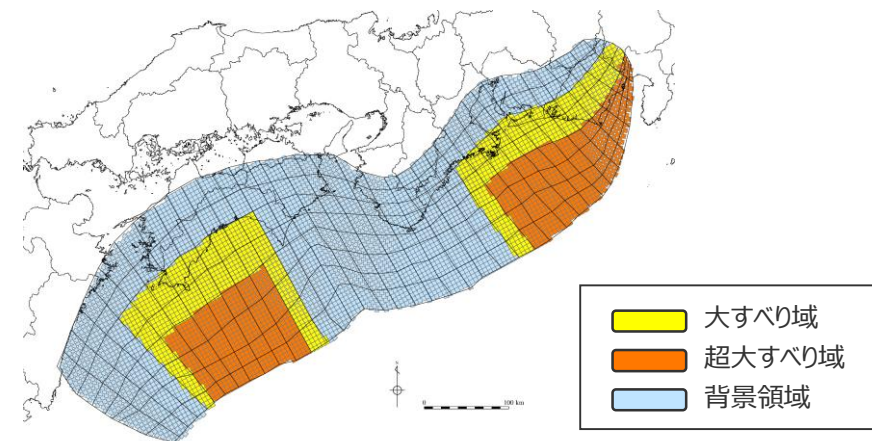
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	10.7
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.5
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

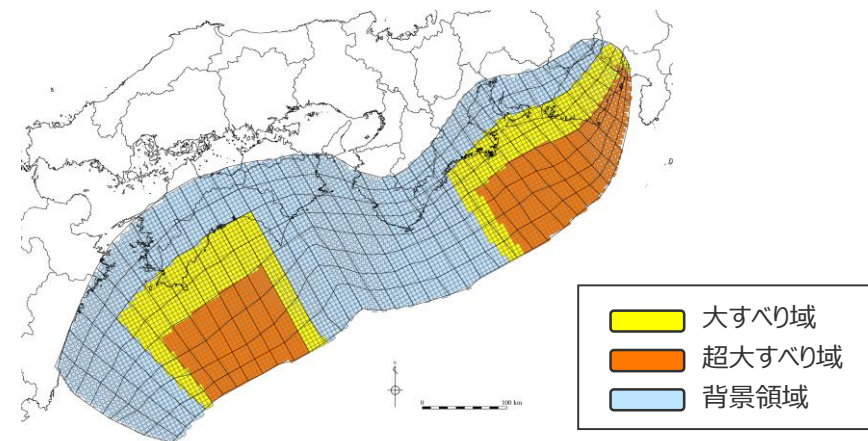
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	10.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	9.6
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.9
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

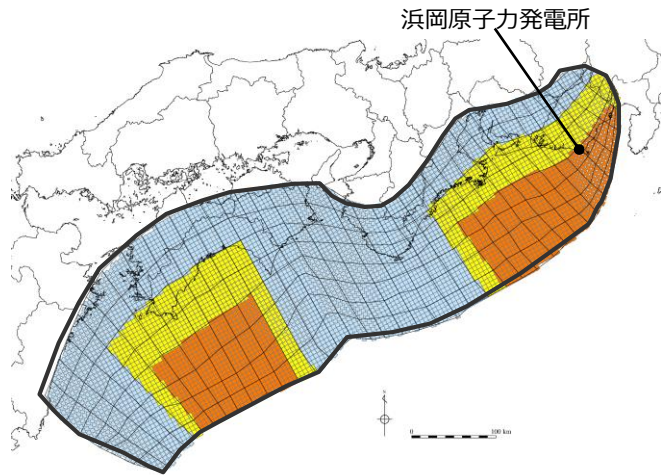
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

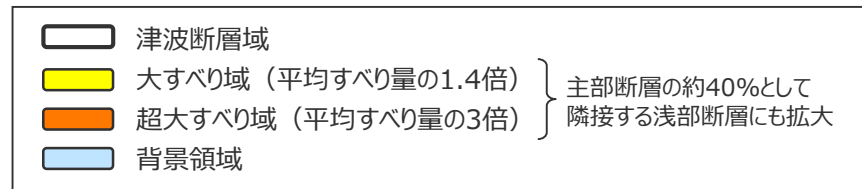
(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	11.0



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8	4.8
		4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	4.8
	10km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.8	12.1	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	14.1	6.6	6.6
		6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	14.1	6.6	6.6
	0km↓	7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	12.1	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	14.1	6.6	6.6
		8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	14.1	6.6	6.6

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

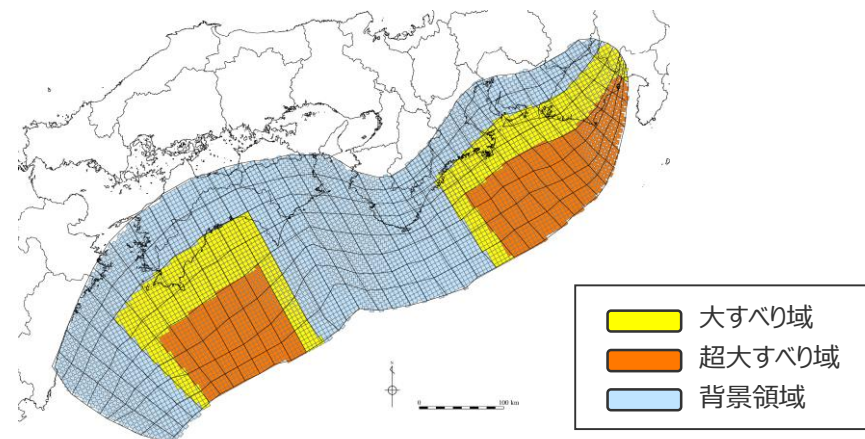
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.0×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10 ²²
	平均すべり量 (m)	9.7
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10 ²²
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

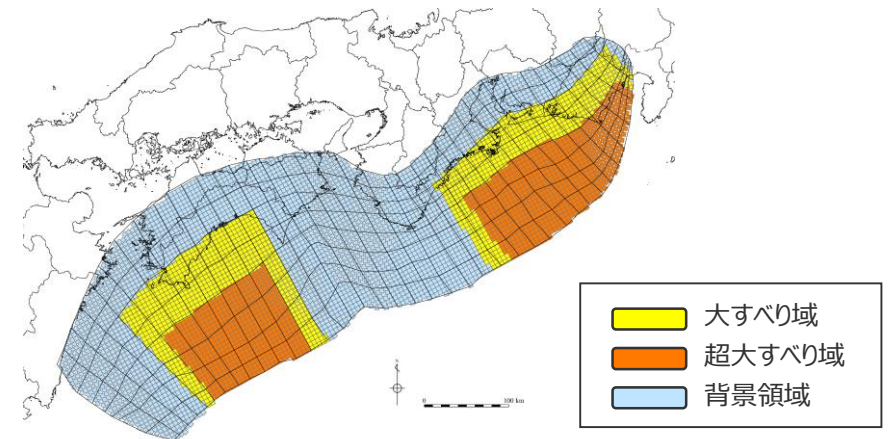
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.1×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.2
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.4×10 ²²
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10 ²²
	平均すべり量 (m)	15.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

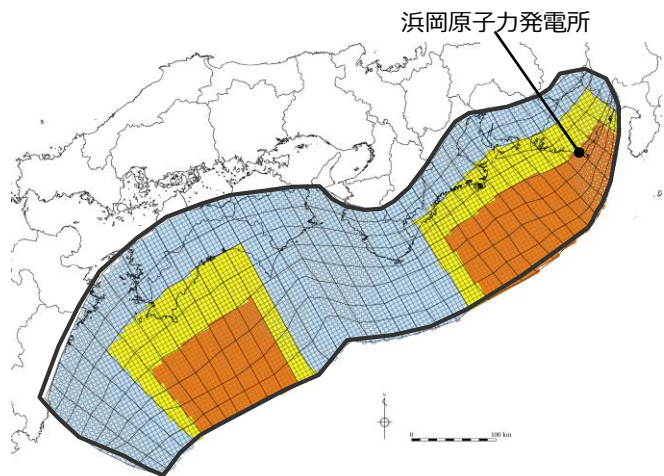
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

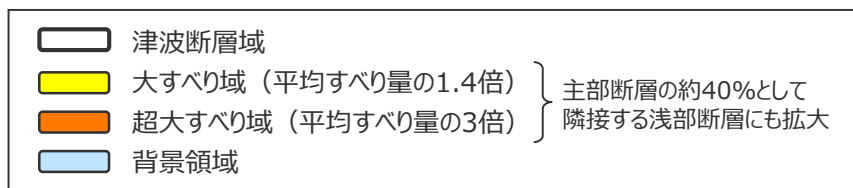
(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	11.4



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
海溝軸側	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	1.1	
		4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	6.6	1.1
	10km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.1	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	15.8	6.6	6.6	1.6
		6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	6.6	6.6	1.6
0km↓	7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	12.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	15.8	6.6	6.6	1.6	
	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	15.8	6.6	6.6	1.6	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

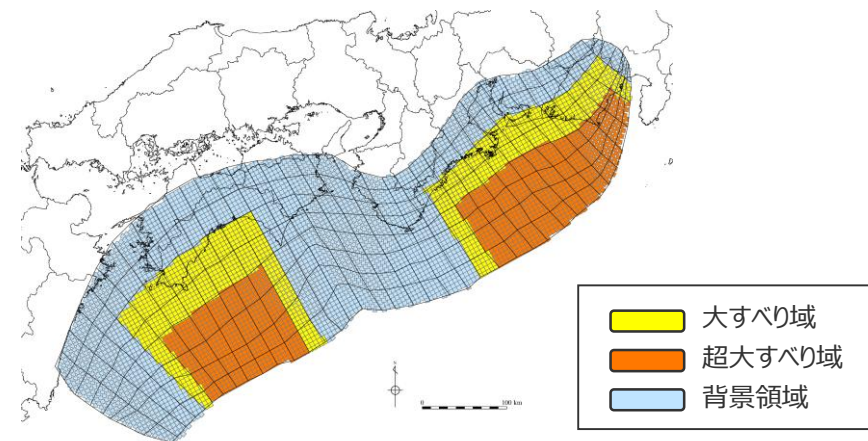
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.2×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.4×10 ²²
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10 ²²
	平均すべり量 (m)	16.0
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

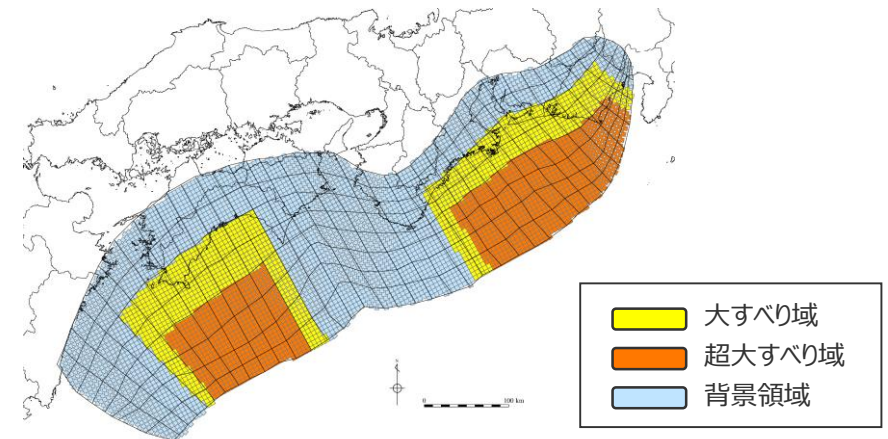
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.3×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.5
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10 ²²
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10 ²²
	平均すべり量 (m)	16.4
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

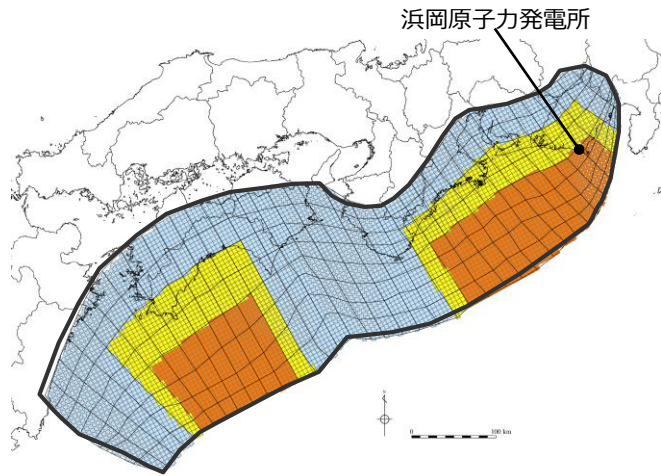
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

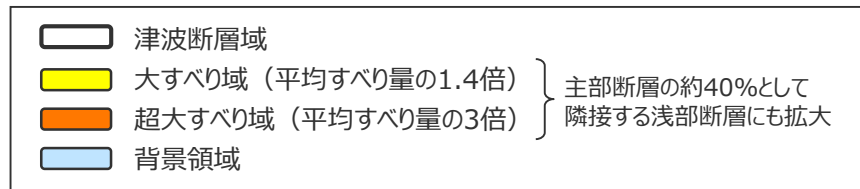
(大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	11.6



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	6.6	1.6	1.1	
		4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	1.6	1.1	
	10km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	12.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	15.8	7.4	1.6	1.6
		6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	12.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	7.4	1.6	1.6
	0km↓	7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	7.4	1.6	1.6
		8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.7	26.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	20.0	7.4	1.6	1.6

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

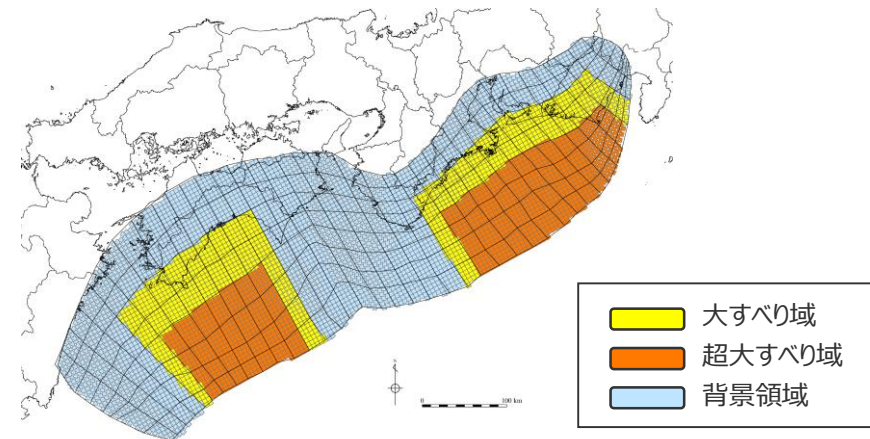
検討波源モデル①

(日本海溝の津波評価手法①)

の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.4×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.6
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	16.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

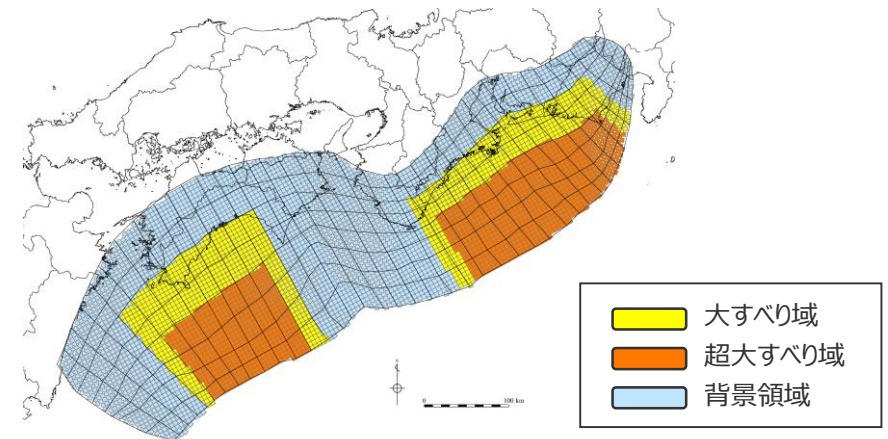
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.5×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.1
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.0
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

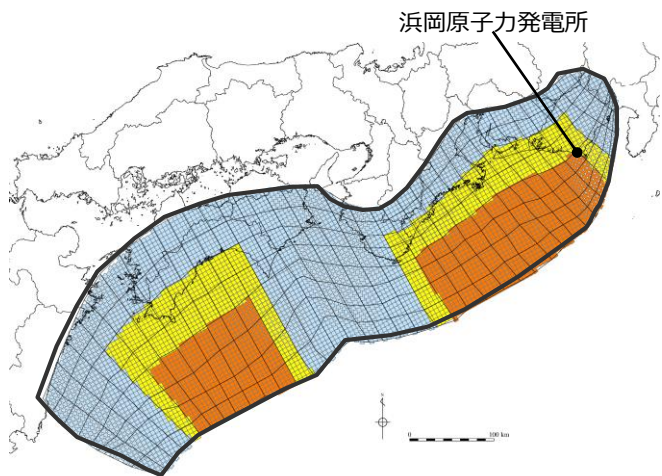
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	11.9

	津波断層域	} 主部断層の約40%として隣接する浅部断層にも拡大
	大すべり域（平均すべり量の1.4倍）	
	超大すべり域（平均すべり量の3倍）	
	背景領域	

検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄海溝軸側⇄	深度40km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	30km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	20km↓	3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	7.4	1.6	1.6	1.1	1.1
	10km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	7.4	1.7	1.6	1.1	1.1
	0km↓	5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	20.0	7.4	1.7	1.6	1.6	1.6
		6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.7	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6
		7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6
		8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	9.3	1.7	1.6	1.6	1.6

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

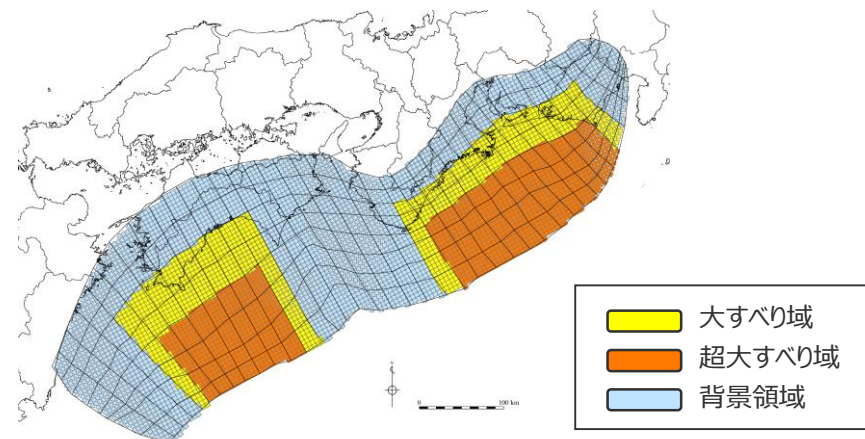
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10 ²²
平均すべり量 (m)		10.2
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10 ²²
	平均すべり量 (m)	17.2
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

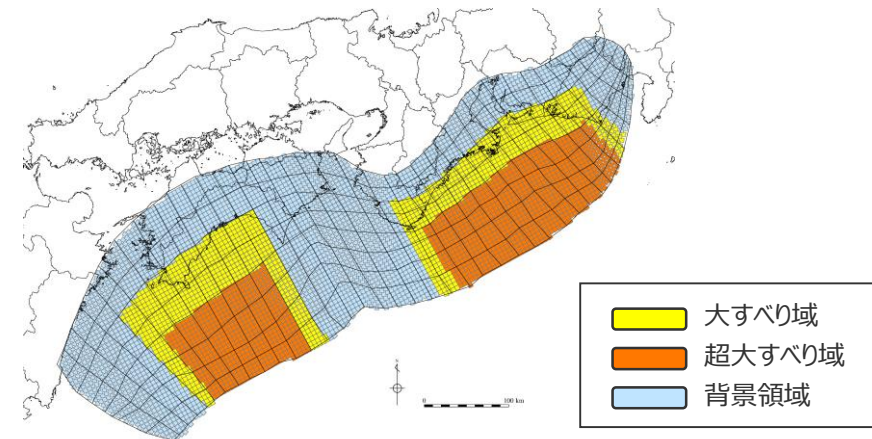
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

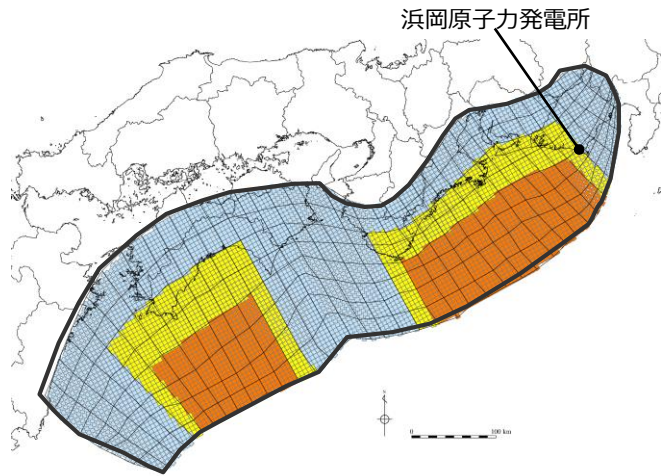
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

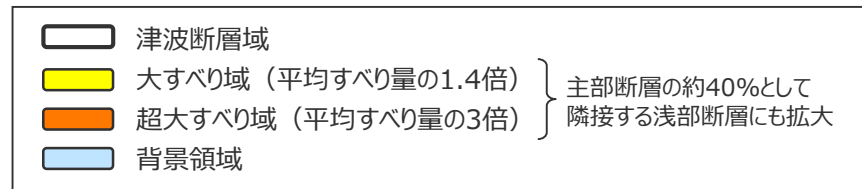
(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	12.1



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	7.4	1.7	1.6	1.6	1.1	
	10km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	9.3	1.7	1.7	1.6	1.1	
		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	20.0	9.3	1.7	1.7	1.6	1.6	
	0km↓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	2.2	1.7	1.6	1.6	
		7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	11.0	2.2	1.7	1.6	1.6	
	8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.2	1.7	1.6	1.6		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

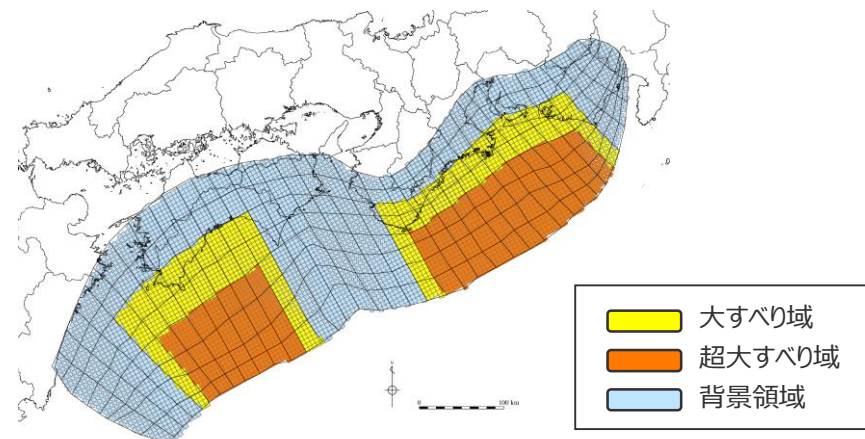
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.7×10 ²²
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	12.1
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10 ¹⁰
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10 ²²
	平均すべり量 (m)	10.3
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10 ²²
	平均すべり量 (m)	17.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

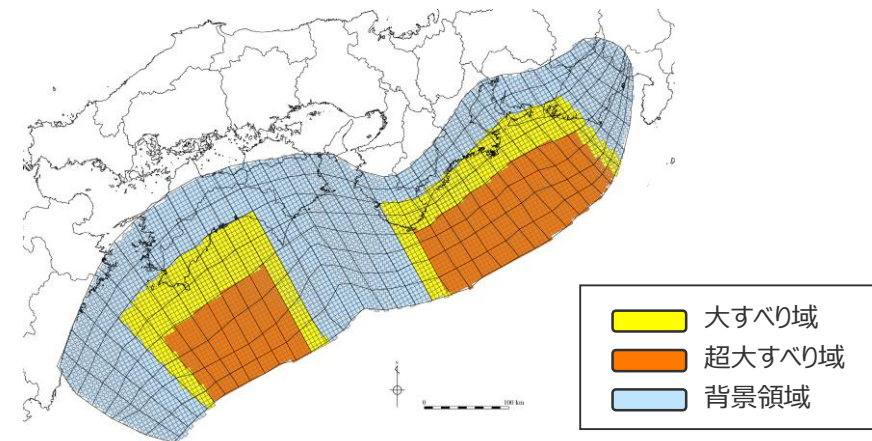
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.2
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

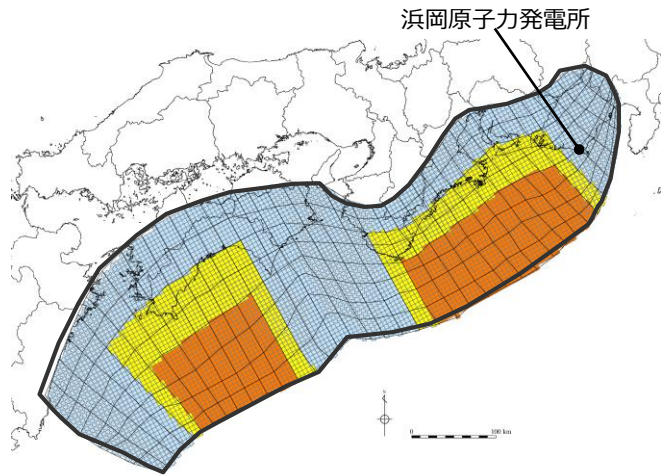
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

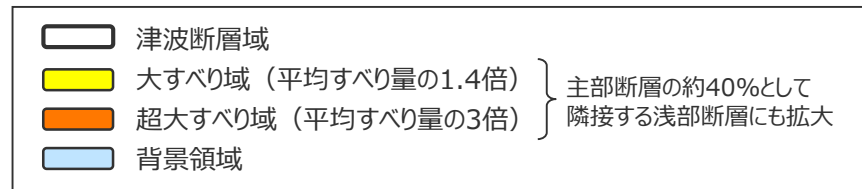
(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	11.8



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓		4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	9.3	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	10km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	23.5	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	0km↓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	12.7	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	23.5	11.0	2.2	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	30.1	30.1	30.1	26.7	12.5	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

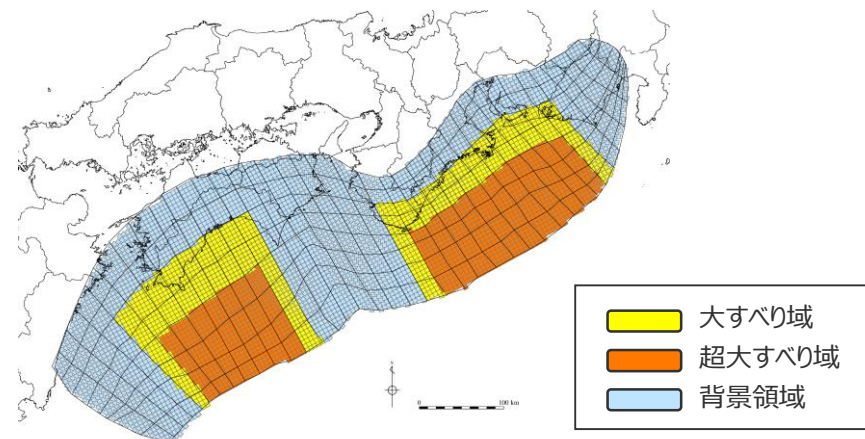
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.4
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

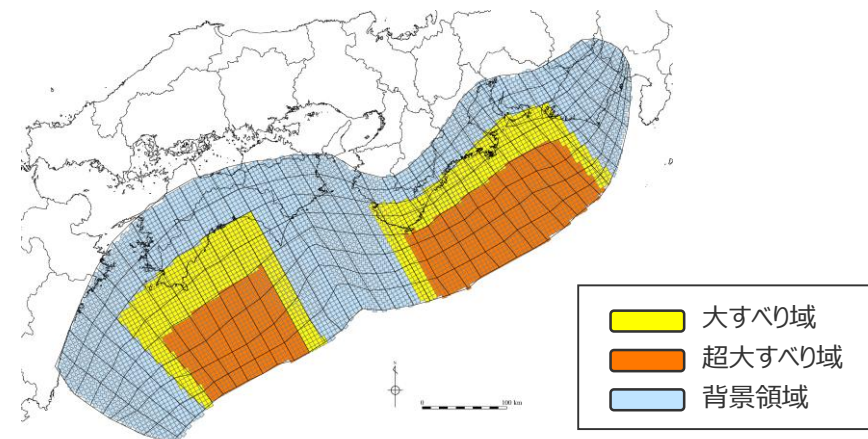
1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル①
 (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	11.9
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.5
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

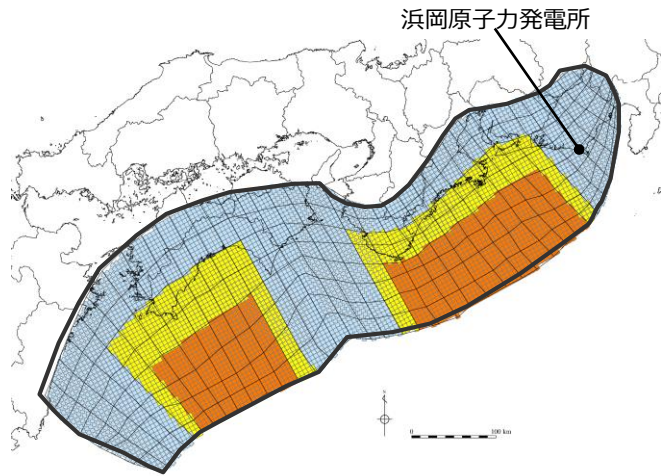
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

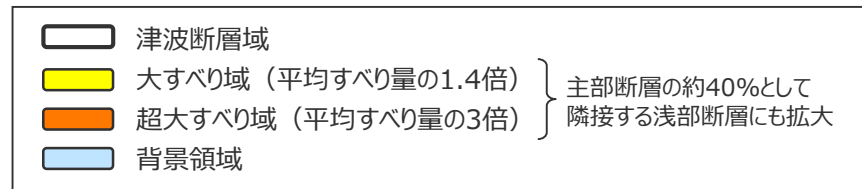
(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.6	12.0



検討波源モデル①
(日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデル①（日本海溝の津波評価手法①）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ← → 東																																								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓		4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		
	30km↓	1	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	20km↓	2	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.6	2.6	2.2	2.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
		3	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	14.6	14.6	14.3	13.8	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	12.7	12.7	12.2	12.2	12.1	11.7	11.7	12.5	12.5	11.0	11.0	9.3	9.3	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1	
	10km↓	4	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	17.1	15.5	15.5	15.0	15.0	14.6	14.3	14.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	12.7	12.7	12.2	12.2	12.1	12.1	11.7	14.1	12.5	12.5	11.0	9.3	9.3	2.2	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		5	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	31.3	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	26.7	26.7	23.5	11.0	2.2	2.2	1.7	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
	0km↓	6	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	31.3	14.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	13.1	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	30.1	30.1	26.7	26.7	11.0	2.6	2.2	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
		7	4.3	4.3	4.1	4.1	17.1	36.6	36.6	33.2	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	13.1	28.0	27.1	26.2	26.2	25.9	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	26.7	12.5	2.6	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1
8	4.3	4.3	4.1	4.1	17.5	36.6	36.6	36.6	33.2	33.2	32.1	32.1	14.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	13.1	28.0	27.1	27.1	26.2	26.2	25.9	25.0	25.0	30.1	30.1	30.1	12.5	2.9	2.6	2.2	1.7	1.6	1.6	1.1	1.1		

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-3 検討波源モデル①のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

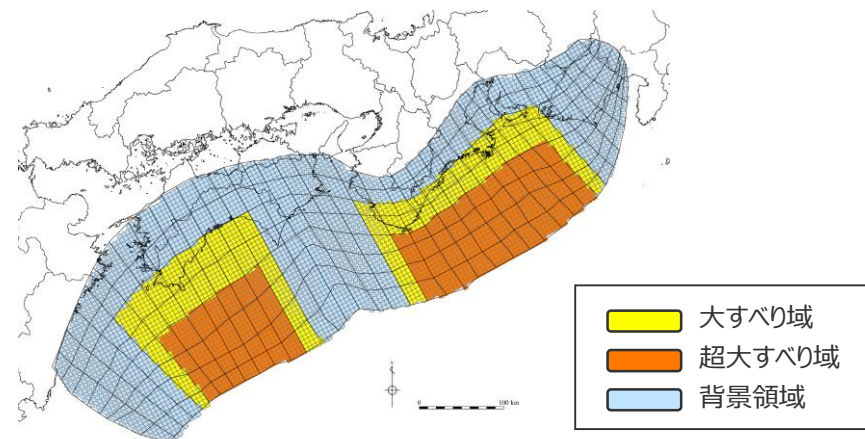
検討波源モデル①

(日本海溝の津波評価手法①)

の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	36.6
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		5.6×10^{22}
平均すべり量 (m)		10.2
最大すべり量 (m)		36.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.7
	最大すべり量 (m)	36.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル① (日本海溝の津波評価手法①)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

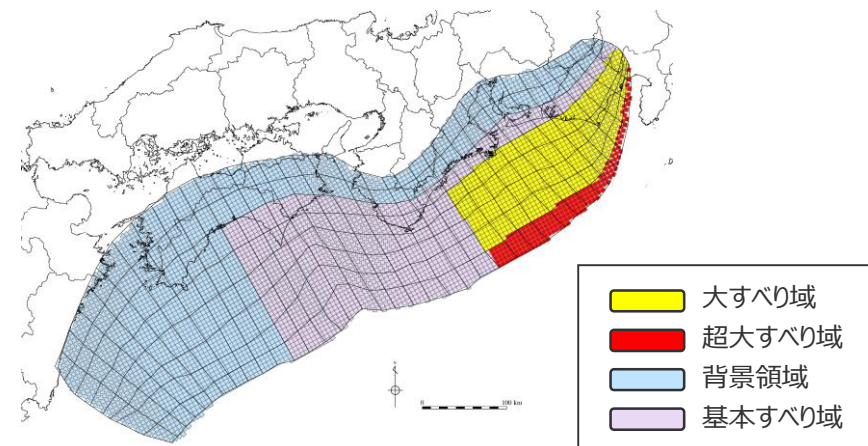
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.1×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.5
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

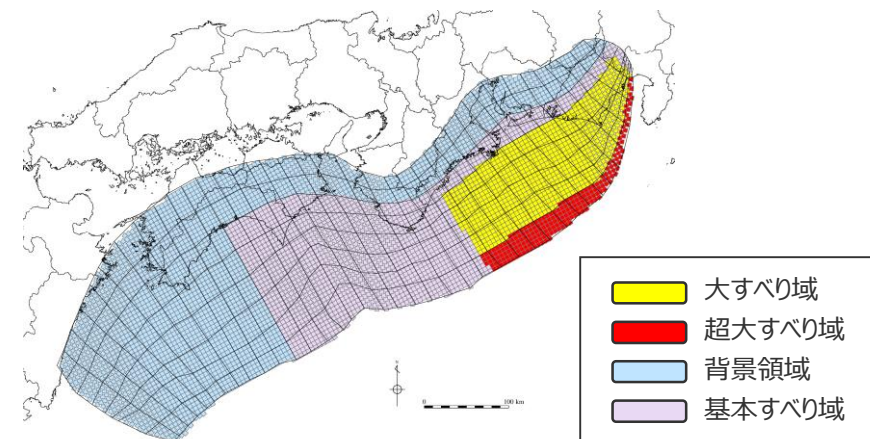
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.1×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.4
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

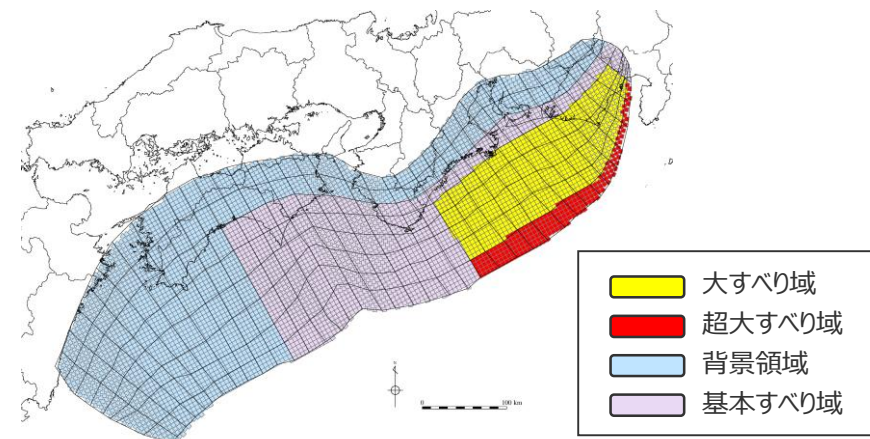
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.0×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.4
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.2
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

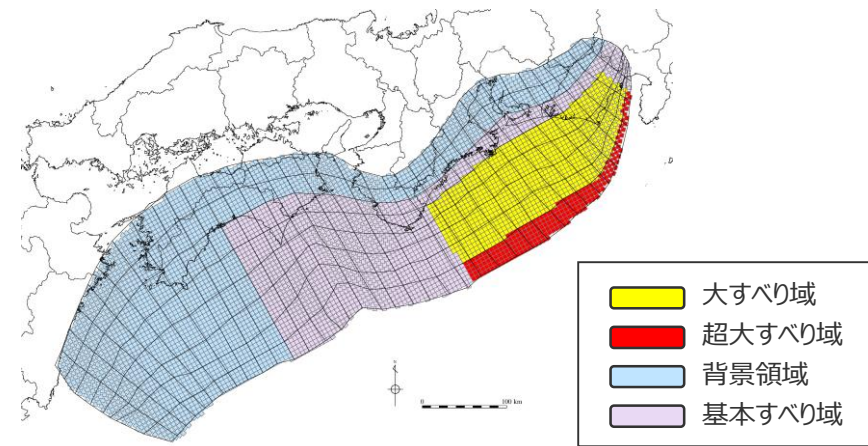
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.3
	最大すべり量 (m)	16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層 : 深さ10km以深の断層
 浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

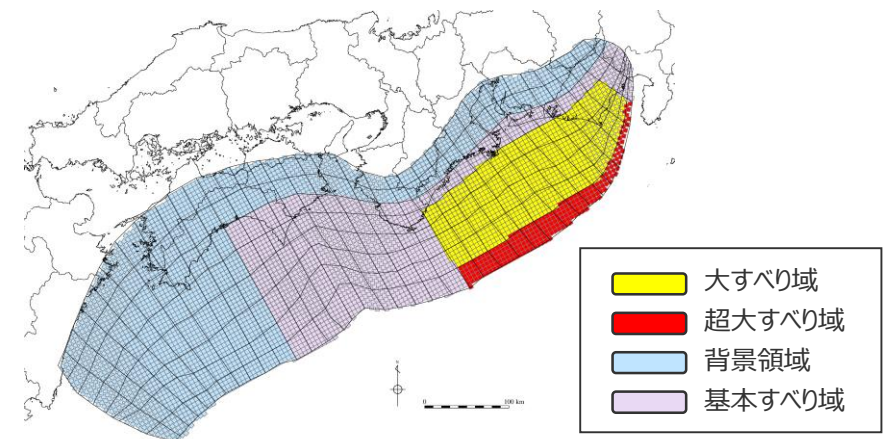
検討波源モデル②

(日本海溝の津波評価手法②)

の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.0×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.3
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.5
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

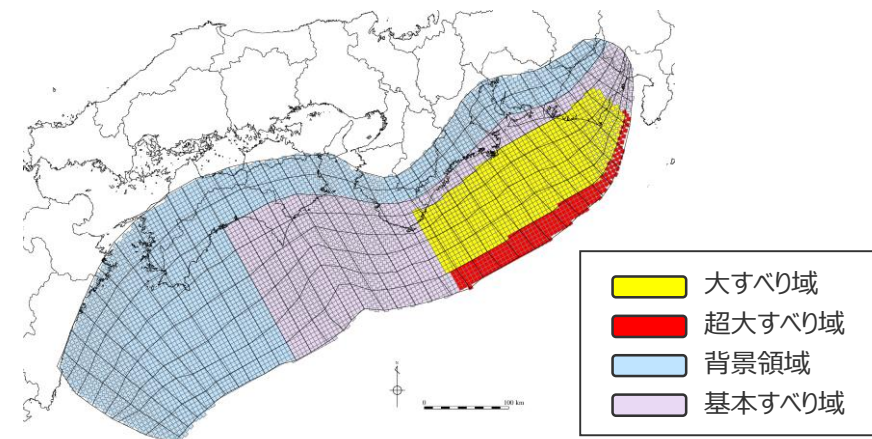
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.0×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.2
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

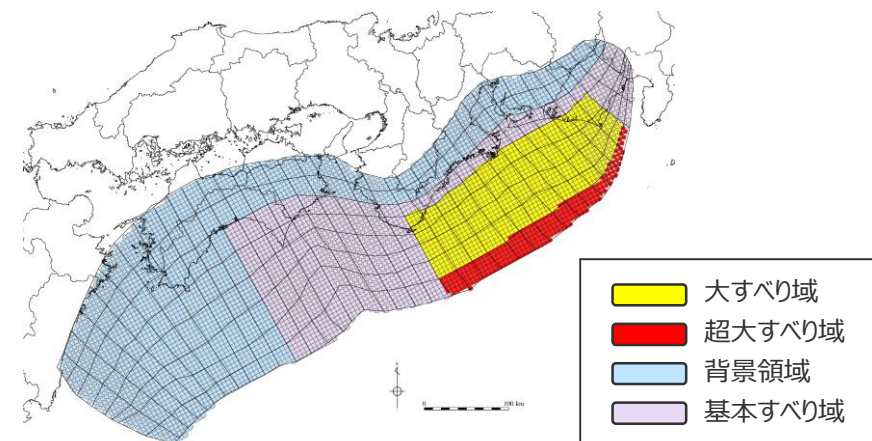
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.2
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.9
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

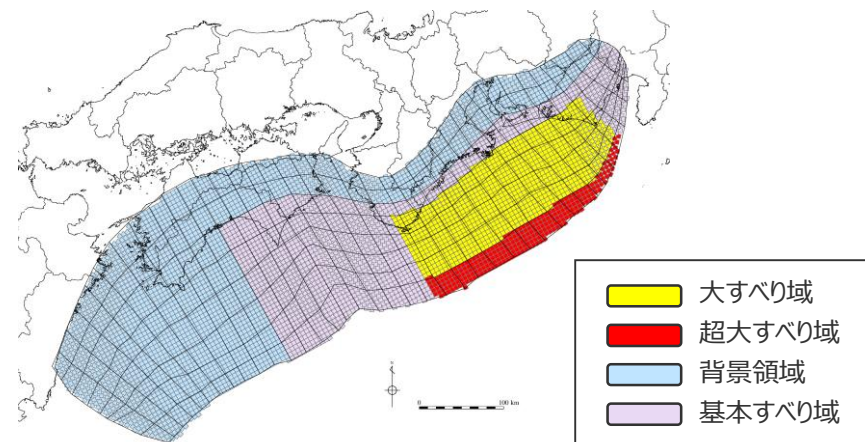
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.1
	最大すべり量 (m)	16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.0
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

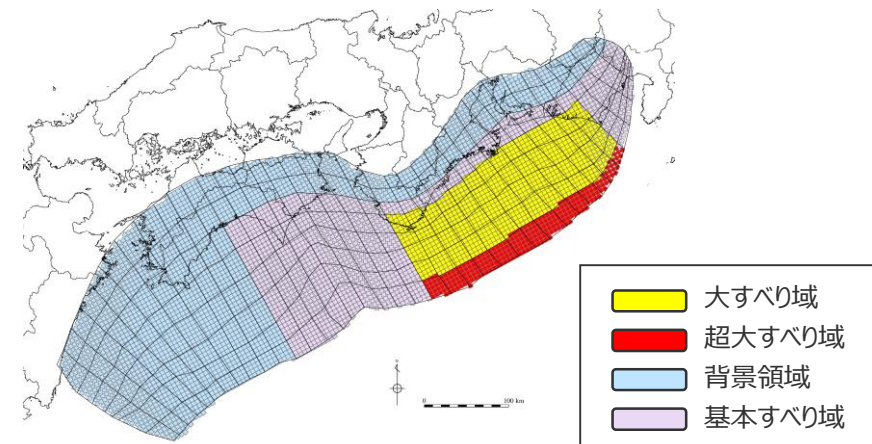
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.1
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.1
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

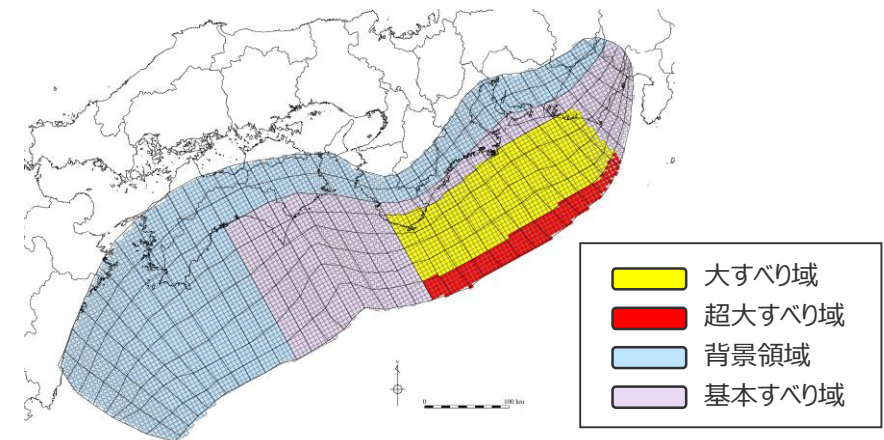
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.1
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.1
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

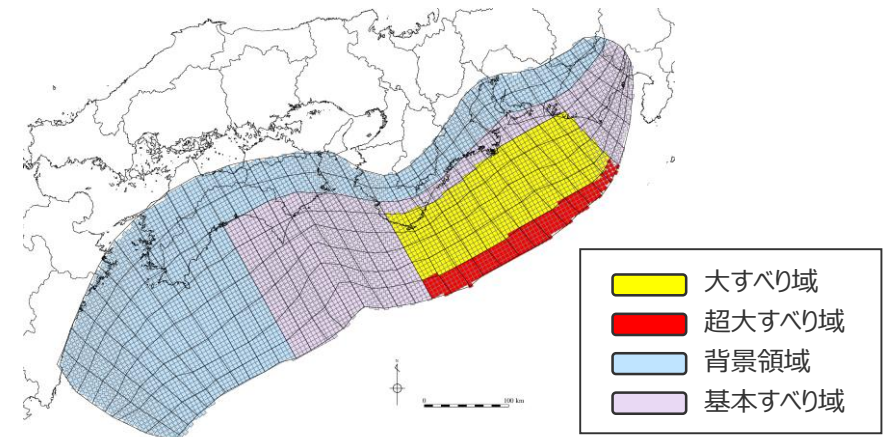
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.1
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.0
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

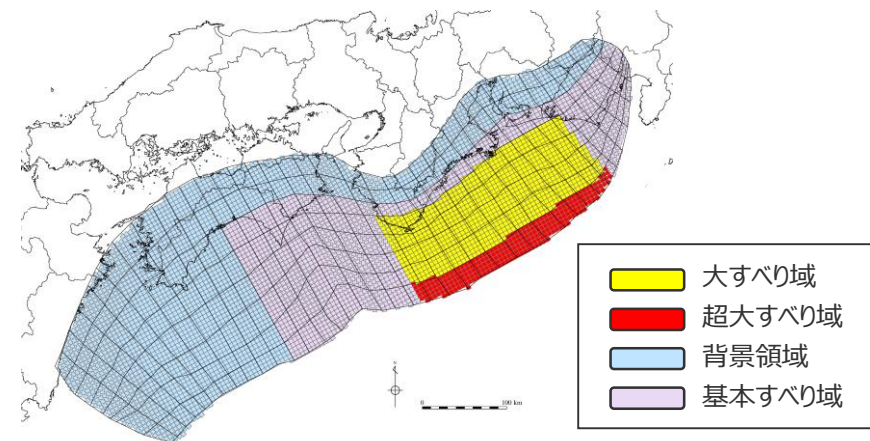
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.1
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.1
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

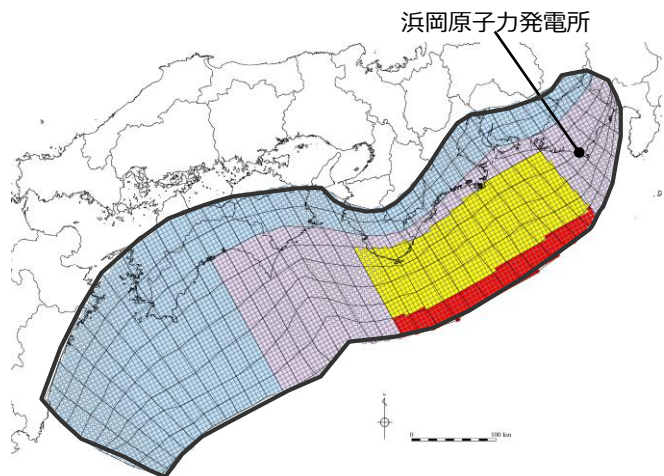
主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

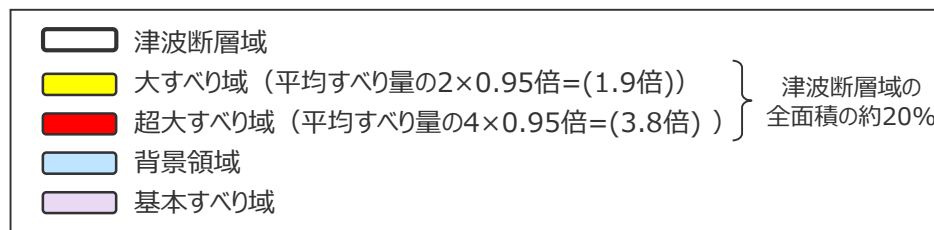
(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデル②（日本海溝の津波評価手法②）」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデル②（日本海溝の津波評価手法②）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
33.8	8.5



検討波源モデル②
(日本海溝の津波評価手法②)
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

検討波源モデル②（日本海溝の津波評価手法②）
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓	1	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4	3.9	3.9	3.3	3.3	2.6	2.6	2.6	2.6	2.3	2.3	1.7	1.7		
	30km↓	2	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.5	5.3	5.3	5.1	5.0	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4	4.4	3.9	3.9	3.3	3.3	3.3	2.6	2.6	2.6	2.6	2.3	2.3	1.7	1.7	
		3	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.5	5.5	5.3	5.1	5.1	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	7.8	7.8	7.6	7.6	7.6	7.3	7.3	7.3	7.0	7.0	7.5	7.5	6.6	6.6	5.6	5.6	5.6	4.4	4.4	4.0	4.0	2.9	2.9	
	20km↓	4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.5	5.5	5.3	5.3	5.1	8.6	8.6	8.3	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	15.2	15.2	14.7	14.7	14.5	14.5	14.0	16.9	15.0	15.0	13.2	11.2	11.2	5.6	5.6	4.4	4.4	4.0	4.0	2.9	2.9
		5	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	5.5	5.5	5.3	5.1	8.8	8.6	8.6	8.3	8.1	8.1	7.8	7.8	15.7	15.2	15.2	14.7	14.5	14.5	14.0	14.0	16.9	15.0	15.0	13.2	13.2	5.6	5.6	4.4	4.4	4.0	4.0	4.0	4.0
	10km↓	6	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	5.5	5.5	5.3	5.3	8.8	8.6	8.6	8.3	8.1	8.1	8.1	7.8	15.7	15.2	15.2	14.7	14.7	14.5	14.5	14.0	16.9	16.9	15.0	15.0	13.2	6.6	6.6	5.6	5.6	4.4	4.0	4.0	4.0
		7	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	5.5	5.5	5.5	5.3	9.0	8.8	8.6	8.3	8.3	8.1	8.1	8.1	15.7	15.7	15.2	14.7	14.7	14.5	14.5	14.0	14.0	16.9	16.9	15.0	15.0	6.6	6.6	5.6	5.6	4.4	4.0	4.0	4.0
	0km↓	8	6.4	6.4	6.2	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	5.5	5.5	5.3	9.0	8.8	8.6	8.3	8.3	8.3	8.1	8.1	31.4	31.4	30.4	30.4	29.4	29.4	29.0	28.0	28.0	33.8	33.8	33.8	30.0	7.5	6.6	5.6	4.4	4.0	4.0	4.0	

- すべり量分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定。

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

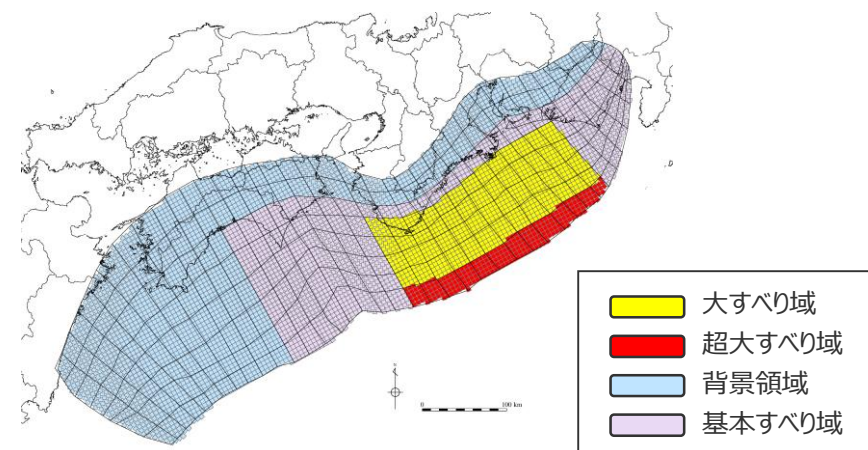
1-4 検討波源モデル②のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル②
 (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	33.8
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		3.9×10^{22}
平均すべり量 (m)		7.1
最大すべり量 (m)		16.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.2
	最大すべり量 (m)	33.8

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル② (日本海溝の津波評価手法②)
 の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

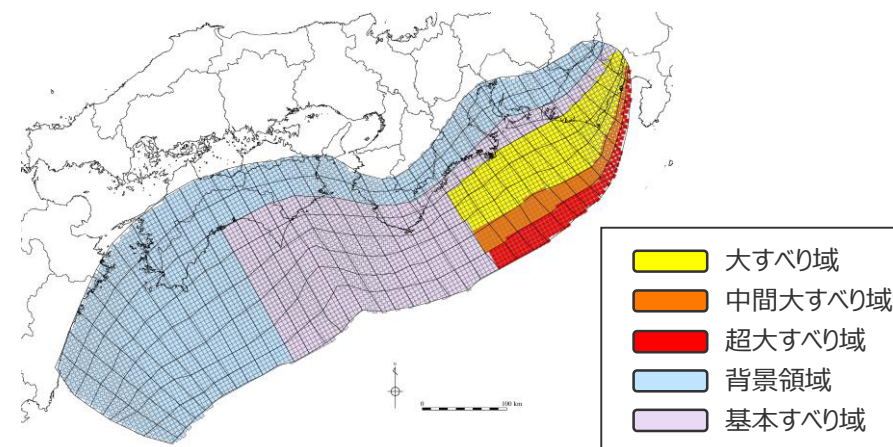
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.3
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

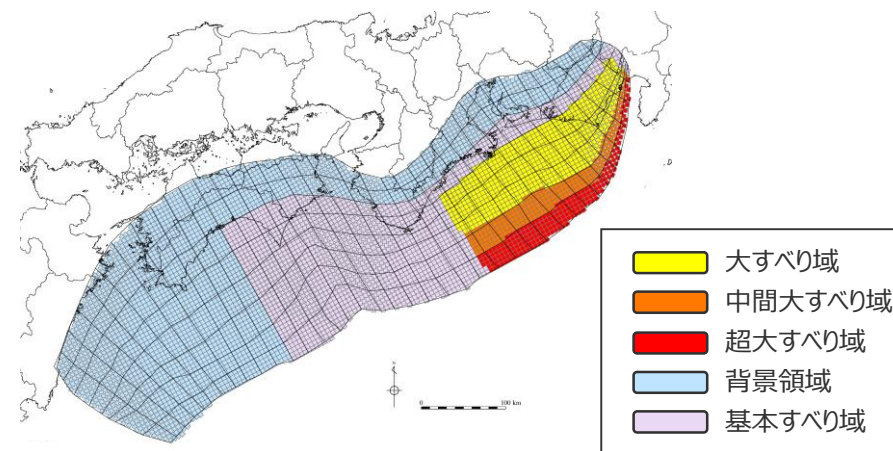
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.2
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.7
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

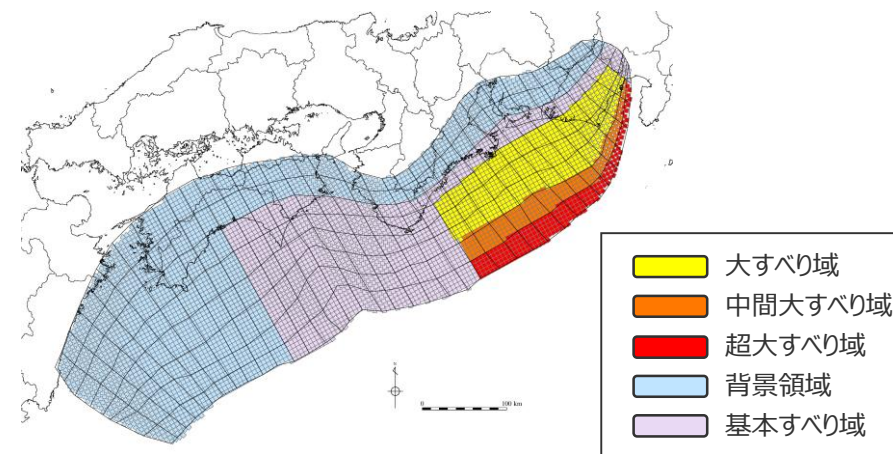
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.2
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.9
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

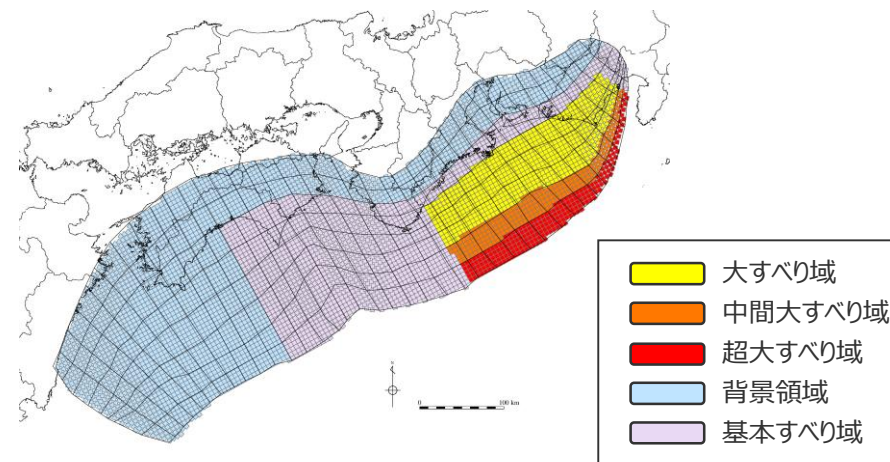
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.1
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.1
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

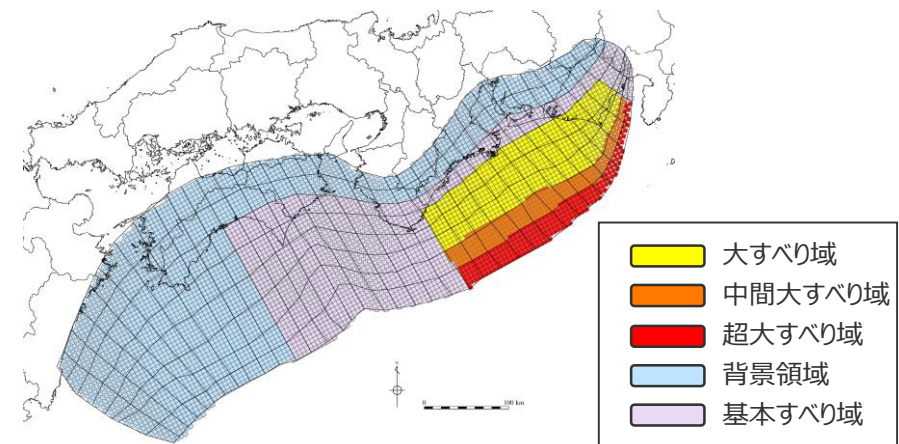
検討波源モデル③

(日本海溝の津波評価手法③)

の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.0
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.3
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

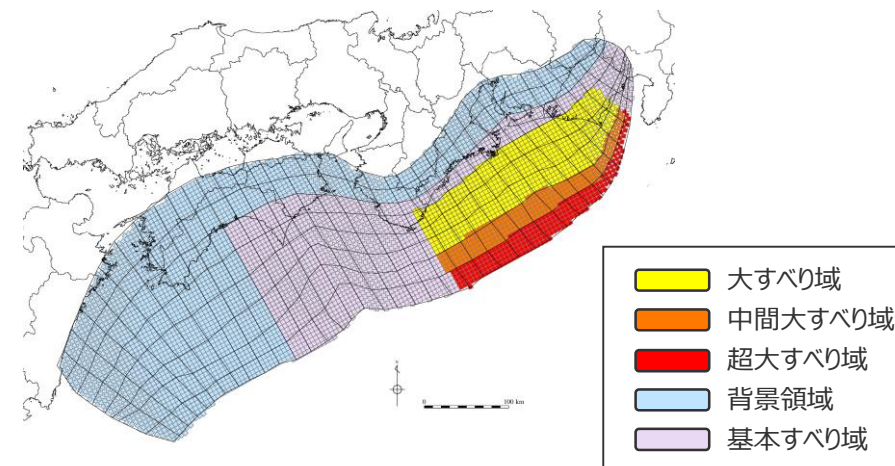
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	7.0
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.5
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

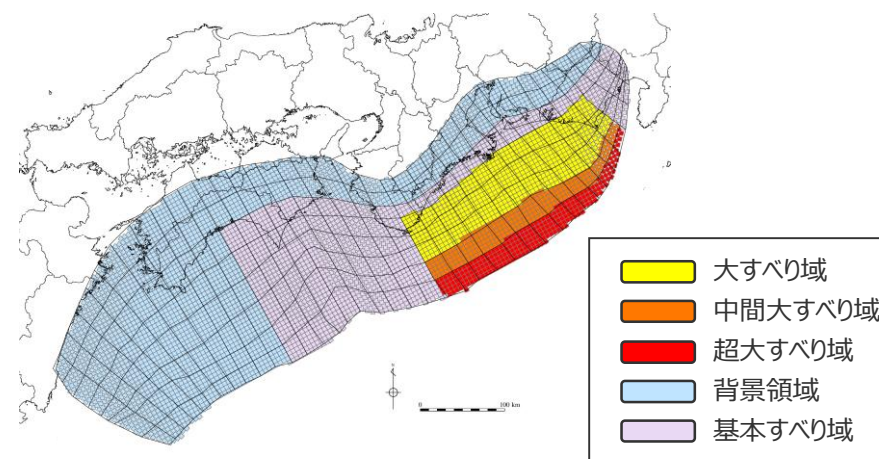
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.9
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.7
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

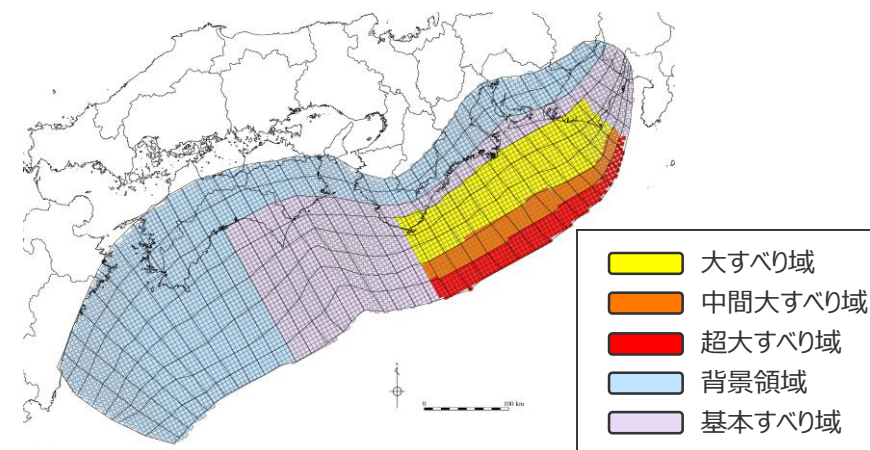
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.9
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.8
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

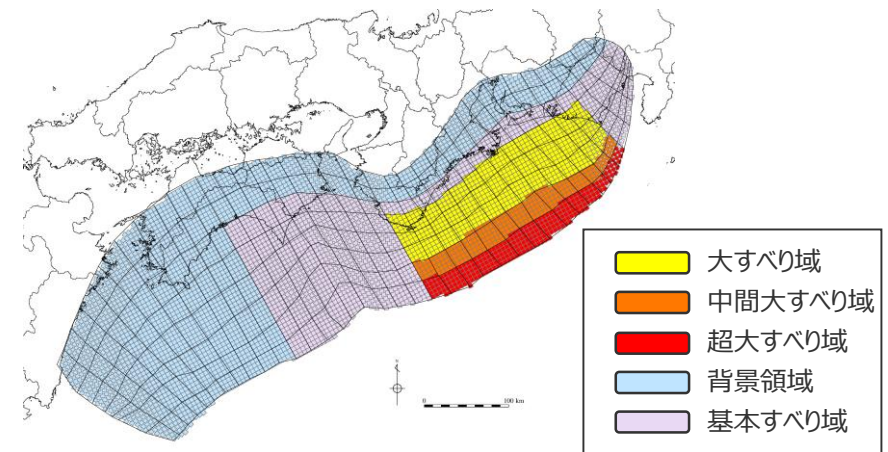
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.8
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.0
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

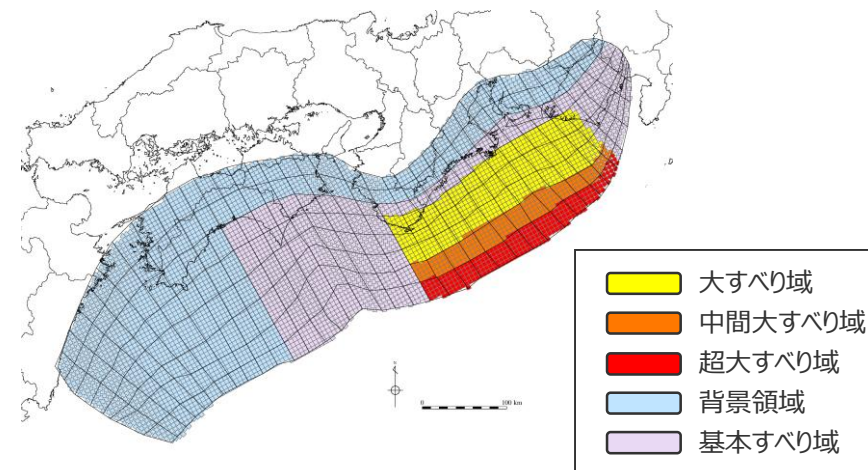
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.8
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

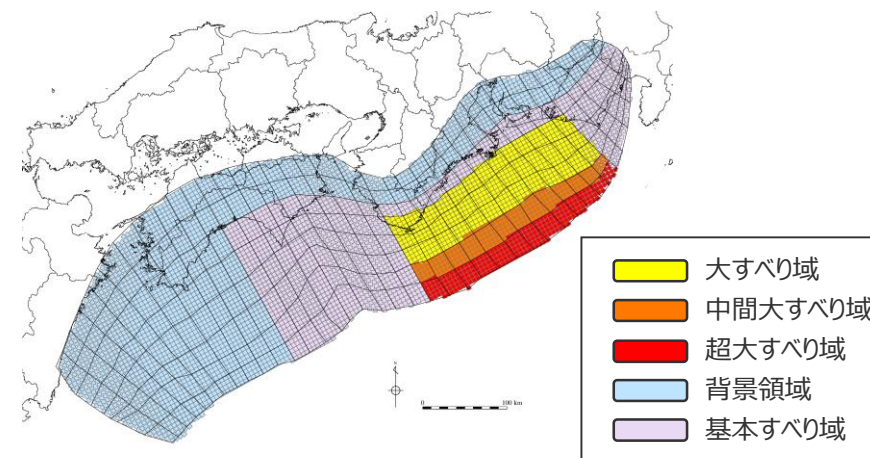
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.9
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.8
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

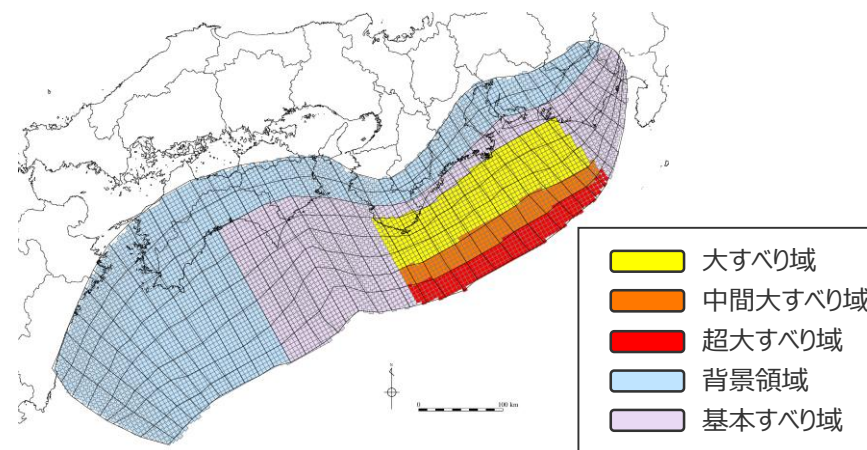
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.8
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

1 検討波源モデルB-2、C、①、②、③の詳細

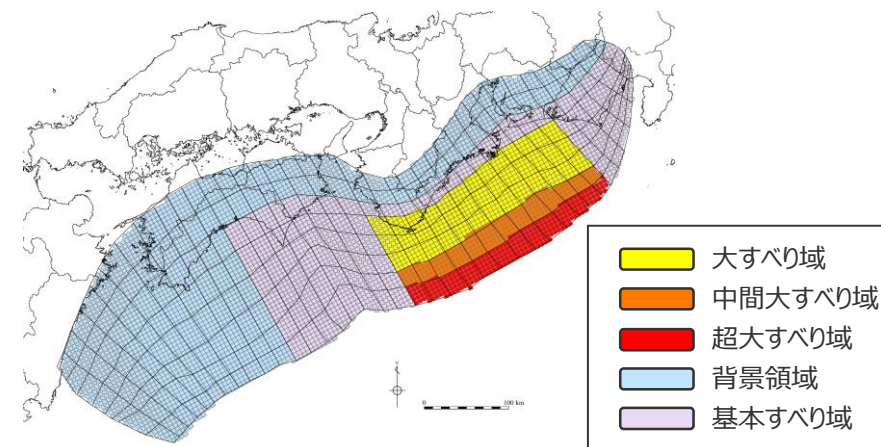
1-5 検討波源モデル③のパラメータスタディモデルの設定

(大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデル③
 (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	8.5
	最大すべり量 (m)	32.2
	剛性率 (N/m ²)	5.0×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	60
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	3.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	6.8
	最大すべり量 (m)	16.1
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	14.0
	最大すべり量 (m)	32.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



検討波源モデル③ (日本海溝の津波評価手法③)
 の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層
 浅部断層：深さ10km以浅の断層

余 白

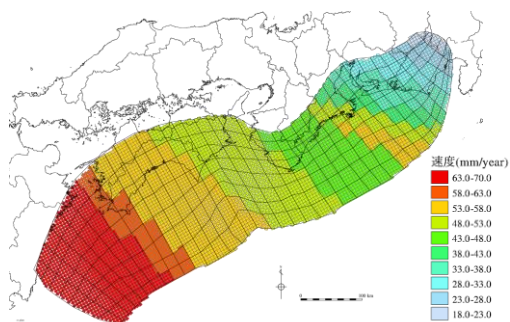
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮したモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度に比例するよう設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



（Loveless and Meade(2010)を基に作成）

各小断層の沈み込速度分布

【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i は、フィリピン海プレートの沈み込み速度に比例し、かつ各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

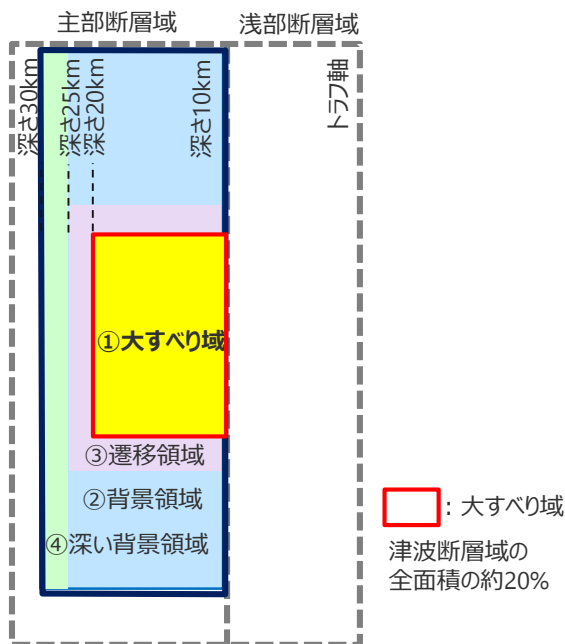
$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量はプレートの沈み込み速度に比例するよう設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 ■ : $2D_i$
- ② 背景領域 ■ : 主部断層（領域①～④）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_b を設定
- ③ ①と②④の遷移領域 ■ : ②側 $(2D_i + D_b) / 2$ 、④側 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$
- ④ 深い背景領域 ■ : $1/2 \times D_b$

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_b : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

- ・今回実施した5ケース（応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。
- ・詳細な設定方法は、以降応力降下量1.5MPaのケースについて例示する。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布概念図

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

■ 各小断層の沈み込み速度に比例したすべり量設定方法を以下に示す。

【STEP1】 最初に沈み込み速度に比例させた各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように各小断層の平均すべり量を設定する。

スケーリング則 $M_0 = 16/(7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ より、
主部断層全体の地震モーメントは以下となる。

$M_0 = 1.46 \times 10^{22}(\text{Nm}) \dots \textcircled{A}$

$\Delta\sigma_m$: 主部断層全体の平均の応力降下量 (1.5MPa)

S_m : 主部断層全体の面積: 82,604km²

主部断層の平均すべり量

$D = 16/(7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma_m \cdot S_m^{1/2} / \mu^1 = 4.3\text{m}$

μ : 剛性率: $4.1 \times 10^{10}(\text{N/m}^2)$



各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が上記スケーリング則から算出した $M_0 \dots \textcircled{A}$ と一致するように係数を算出する。

$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i$

➔ $\textcircled{3} = \mu \times \textcircled{1} \times \textcircled{2}$ を算出

$M_0(\text{調整前}) = 1.71 \times 10^{20}(\text{Nm}) \dots \textcircled{B}$

○ \textcircled{A} と \textcircled{B} が一致するように係数を算出。

係数 $a = \textcircled{A} / \textcircled{B} = 85.6$

○係数 a を各小断層の沈み込み速度に乗じて平均すべり量を設定。

各小断層の平均すべり量 $D_i(\textcircled{4})$
= 各小断層の沈み込み速度 $\textcircled{1} \times a$

1) スケーリング則 $M_0 = 16/(7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ と地震モーメントの式 $M_0 = \mu DS$ から導出



主部断層

各小断層の沈み込み速度 (mm/year) $\dots \textcircled{1}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
40km																																							
30km	1	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	50.3	48.7	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	48.0	42.3	42.3	35.9	35.9	28.4	28.4	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	18.4	
20km	2	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	50.3	50.3	50.3	48.7	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	35.9	35.9	28.4	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	
	3	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	44.9	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	35.9	35.9	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	
10km	4	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	54.1	48.0	48.0	42.3	35.9	35.9	35.9	35.9	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	
	5	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	44.9	54.1	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	35.9	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	
0km	6	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	54.1	54.1	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	35.9	28.4	28.4	25.4	25.4	18.4	
	7	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	46.5	44.9	44.9	54.1	54.1	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	28.4	25.4	25.4	18.4	
8	69.8	69.8	67.5	67.5	65.7	65.7	65.7	59.6	59.6	57.7	57.7	56.2	55.0	53.0	53.0	51.7	51.7	50.3	50.3	48.7	48.7	47.1	47.1	46.5	44.9	44.9	54.1	54.1	48.0	48.0	42.3	42.3	35.9	28.4	25.4	25.4	18.4		

各小断層の面積 S_i (km²) $\dots \textcircled{2}$

(Loveless and Meade(2010))

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
40km																																							
30km	1	370	632	656	800	776	1120	1019	1113	682	707	707	683	608	584	407	535	536	434	770	620	360	257	311	337	283	359	434	383	458	457	583	432	408	307	361	287	319	107
20km	2	530	503	471	547	590	661	759	833	656	656	606	607	608	534	357	461	489	438	620	386	359	258	415	391	416	416	439	462	407	330	431	432	409	361	337	287	340	237
	3	617	539	562	637	710	808	831	882	655	655	681	606	608	609	458	510	510	542	542	387	360	284	313	339	472	288	417	462	458	508	433	359	360	285	260	339	236	
10km	4	484	482	481	455	555	631	605	731	655	604	630	681	580	505	328	404	430	513	541	516	514	492	363	362	360	409	434	484	331	355	482	406	485	411	468	429	331	
	5	406	480	504	454	579	655	780	730	604	704	629	578	554	529	403	404	510	565	514	465	312	336	359	409	382	431	431	482	483	507	556	404	354	381	231	286	134	116
0km	6	253	303	302	327	453	453	503	604	704	654	678	678	553	529	506	432	560	486	462	463	409	432	406	405	404	479	430	455	378	378	428	404	254	308	157	108	87	
	7	604	578	602	477	528	453	328	378	403	453	503	578	703	778	602	353	429	455	454	554	579	578	679	578	528	653	503	378	378	354	280	307	284	236	136	86		
8	351	526	502	351	251	251	377	302	402	402	427	577	677	726	676	752	578	402	502	502	552	602	527	627	527	652	552	727	477	453	378	253	279	229	205	208	134	56	

(内閣府(2012))

各小断層の調整前の地震モーメント M_{0i} (調整前) ($\times 10^{17} \text{Nm}$) $\dots \textcircled{3}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
40km																																								
30km	1	10.6	18.1	18.2	22.1	20.9	30.2	24.9	26.3	15.7	15.9	16.0	14.8	12.9	12.4	8.4	11.0	11.1	8.7	15.4	12.4	6.9	5.0	5.9	6.4	5.2	7.1	7.5	6.6	6.8	6.7	6.8	5.0	4.8	3.6	3.8	3.0	2.4	0.8	
20km	2	15.2	14.4	13.0	15.1	15.9	17.8	18.5	19.7	15.5	15.1	13.7	13.7	13.2	11.3	7.4	9.5	10.1	8.8	12.4	7.7	6.9	5.0	7.9	7.4	7.7	8.2	8.6	8.0	7.1	4.9	6.3	6.4	4.8	4.2	3.9	3.0	3.5	1.8	
	3	17.7	15.4	15.6	17.6	19.1	21.8	20.3	21.5	15.5	15.1	15.7	13.7	13.2	13.2	9.7	10.8	10.5	11.2	10.8	7.7	7.2	5.5	6.0	6.5	8.7	5.3	8.2	9.1	7.9	8.8	7.5	6.4	5.3	4.2	3.3	2.7	3.5	1.8	
10km	4	13.9	13.8	13.3	12.6	15.0	17.0	14.8	17.9	15.5	14.3	14.5	15.3	13.1	11.0	7.0	8.6	8.9	10.6	11.1	10.3	10.3	9.5	7.0	6.9	6.9	7.5	9.6	9.5	6.5	6.6	5.2	7.1	6.0	7.1	4.8	5.5	4.5	2.5	
	5	11.6	13.7	14.0	12.6	15.6	17.6	21.0	17.8	14.8	16.7	14.5	13.3	12.5	11.9	8.8	8.6	10.8	11.7	10.6	9.6	6.2	6.7	6.9	7.8	7.3	7.9	7.9	10.7	9.5	10.0	9.6	7.0	5.2	5.6	2.7	3.3	1.4	1.2	
0km	6	7.2	8.7	8.4	9.1	12.2	12.2	13.5	14.7	17.2	15.5	16.0	15.6	15.3	12.5	11.5	10.7	9.2	11.9	10.0	9.5	9.3	8.2	8.3	7.8	7.7	8.8	9.5	10.1	7.4	7.4	7.4	7.0	3.7	4.5	1.8	1.1	0.9		
	7	17.3	16.5	16.7	13.2	14.2	12.2	8.8	9.2	9.8	11.1	11.9	11.9	13.3	15.9	16.9	13.1	7.5	9.1	9.6	8.9	9.4	11.1	11.2	11.2	12.9	11.0	9.7	12.0	11.1	8.4	7.4	7.0	4.9	5.3	4.2	2.7	1.4	0.9	
8	10.0	15.1	13.9	9.7	7.0	6.8	10.2	8.1	9.8	9.8	10.1	13.7	15.6	16.4	14.7	16.3	12.6	8.5	10.6	10.4	11.4	12.0	10.5	12.1	10.2	12.4	10.2	13.4	10.6	10.0	8.4	5.0	5.5	4.0	3.0	2.4	1.4	0.6		

➔ $\textcircled{3}$ の総和 $M_0(\text{調整前}) \dots \textcircled{3}$ とスケーリング則に基づく $M_0 \dots \textcircled{A}$ から係数 $a = 85.6$ を算出

各小断層の平均すべり量 D_i (m) $\dots \textcircled{4}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
40km																																								
30km	1																																							
20km	2				5.78	5.62	5.62	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71</																											

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

【STEP2】各小断層の平均すべり量に基づき、主部断層に大すべり域等を設定し各小断層のすべり量を以下のとおり設定する。

- 津波断層域の全面積(82,604km²)の約20%となるよう大すべり域の範囲（深度20km以浅～海溝軸×幅（ここでは23～36列））を決定。
- 各小断層の平均すべり量 D_i に対し、以下の関係を与えて調整前の各小断層のすべり量を設定。
- 背景領域のすべり量 $D_b = a \cdot D_i$ を調整前として $a=1$ で設定。

各小断層の平均すべり量 D_i (m) …④

深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
40km	1																																						
30km	2				5.78	5.62	5.62	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.43	2.17	2.17	1.58
20km	3				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	2.17	1.58
10km	4				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.63	4.11	4.11	3.62	3.07	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	1.58	
0km	5				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.03	3.98	3.98	3.84	3.84	4.63	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	2.43	2.43	2.17	2.17	
	6				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.03	4.03	3.98	3.98	3.84	4.63	4.63	4.11	4.11	3.62	3.62	3.07	3.07	2.43	2.17	2.17
	7																																						
	8																																						

主部断層

各小断層の調整前のすべり量 D_i (調整前) (m) …⑤

深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
40km	1																																							
30km	2				2.89	2.81	2.81	2.55	2.47	2.47	2.41	2.35	2.35	2.27	2.21	2.15	2.15	2.15	2.08	2.08	2.02	2.02	1.99	1.99	1.92	2.05	2.05	1.81	1.81	1.54	1.54	1.54	1.22	1.22	1.22	1.09	1.09	0.79		
20km	3				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	5.04	4.98	4.98	4.80	5.14	5.14	4.53	4.53	3.84	3.84	3.84	3.04	3.04	2.97	2.97	1.58		
10km	4				5.78	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	6.15	6.15	6.15	4.86	4.86	3.22	1.58		
0km	5				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.81	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	4.86	3.52	2.17		
	6				5.78	5.62	5.62	5.62	5.10	5.10	4.94	4.94	4.81	4.71	4.71	4.54	4.43	4.43	4.43	4.31	4.31	4.17	6.12	8.06	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	3.52	2.17	
	7																																							
	8																																							

深い背景領域 : $1/2 \times D_b = 0.5a \cdot D_i$

背景領域 : $D_b = a \cdot D_i$

大すべり域 : $2D_i$

遷移領域のすべり量 D (m)の設定方法

遷移領域 : $(2D_i + D_b) / 2$,
 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$

遷移領域の小断層と隣り合う大すべり域の小断層と背景領域の小断層の平均とする。また、隣り合う小断層は可能な限り同じ沈み込み速度の小断層から選定する。

→ 遷移領域のすべり量設定において参照する小断層の位置関係を示す

深度		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																		
40km	1																																					
30km	2				2.08	2.02	2.02	1.99	1.99	1.92	2.05	2.05	1.81	1.81	1.54	1.54	1.54	1.22	1.22	1.22	1.22	1.09	1.09	0.79														
20km	3				4.17	4.17	5.04	4.98	4.98	4.80	4.80	5.14	5.14	4.53	4.53	3.84	3.84	3.84	3.04	3.04	2.97	2.97	1.58															
10km	4				4.17	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	6.15	6.15	6.15	6.15	4.86	4.86	3.22	1.58															
0km	5				4.31	4.17	6.12	8.06	7.96	7.96	7.69	7.69	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	4.86	3.52	2.17															
	6				4.31	4.17	6.12	8.06	8.06	7.96	7.96	7.69	9.26	9.26	8.22	8.22	7.24	7.24	6.15	6.15	4.86	3.52	2.17															
	7																																					
	8																																					

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

【STEP3】調整前の各小断層のすべり量に基づく各小断層の地震モーメントの総和がスケーリング則から算出した地震モーメントと一致するよう背景領域のすべり量の係数aを算定し、各小断層のすべり量を決定する。

スケーリング則 $M_0 = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ より、
主部断層全体の地震モーメントは以下となる。

$$M_0 = 1.46 \times 10^{22} (\text{Nm}) \quad \dots \textcircled{A}$$

$\Delta\sigma_m$: 主部断層全体の平均の応力降下量
(1.5MPa)

S_m : 主部断層全体の面積: 82,604km²

主部断層の平均すべり量

$$D = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma_m \cdot S_m^{1/2} / \mu = 4.3\text{m}$$

μ : 剛性率: $4.1 \times 10^{10} (\text{N/m}^2)$



各小断層の地震モーメント $M_{0(\text{調整前})}$ の総和が上記スケーリング則から算出した $M_0 \dots \textcircled{A}$ と一致するように係数を算出する。

$$M_0 = \sum M_{0(\text{調整前})} = \sum \mu D_i S_i$$

➔ $\textcircled{6} = \mu \times \textcircled{5} \times \textcircled{2}$ を算出

$$M_0 (\text{調整前}) = 1.64 \times 10^{22} (\text{Nm}) \quad \dots \textcircled{C}$$

○AとCが一致するように係数aを算出。

係数aを背景領域のすべり量設定に代入し、各小断層のすべり量を設定。

係数 $a = 0.89$

$$\text{背景領域のすべり量 } D_b (\textcircled{7}) = a \cdot D_b (\text{調整前}) (\textcircled{5})$$

各小断層の調整前のすべり量 $D_{(\text{調整前})}$ (m) $\dots \textcircled{5}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
40km	1																																						
30km	2																																						
20km	3																																						
10km	4																																						
0km	5																																						
	6																																						
	7																																						
	8																																						

各小断層の面積 S_i (km²) $\dots \textcircled{2}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
40km	1																																							
30km	2																																							
20km	3																																							
10km	4																																							
0km	5																																							
	6																																							
	7																																							
	8																																							

各小断層の調整前の地震モーメント $M_{0(\text{調整前})}$ ($\times 10^{19}$ Nm) $\dots \textcircled{6}$

(内閣府(2012))

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
40km	1																																							
30km	2																																							
20km	3																																							
10km	4																																							
0km	5																																							
	6																																							
	7																																							
	8																																							

➔ ⑥の総和 M_0 (調整前) $\dots \textcircled{C}$ とスケーリング則に基づく $M_0 \dots \textcircled{A}$ から係数 $a = 0.89$ を算出

主部断層の各小断層のすべり量 D (m) $\dots \textcircled{7}$

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
40km	1																																							
30km	2																																							
20km	3																																							
10km	4																																							
0km	5																																							
	6																																							
	7																																							
	8																																							

1) スケーリング則 $M_0 = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ と地震モーメントの式 $M_0 = \mu D S$ から導出



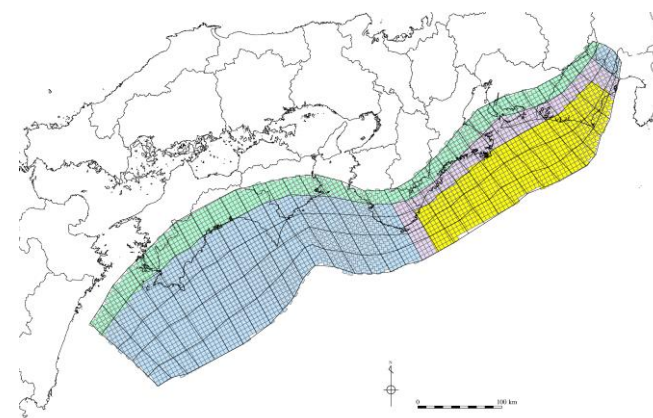
主部断層

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

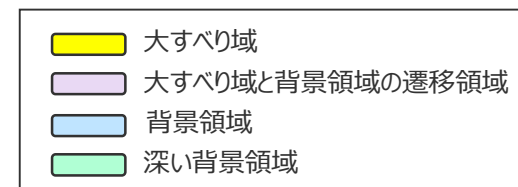
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.5
平均すべり量 (m)	4.4
最大すべり量 (m)	9.3
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.5MPa）

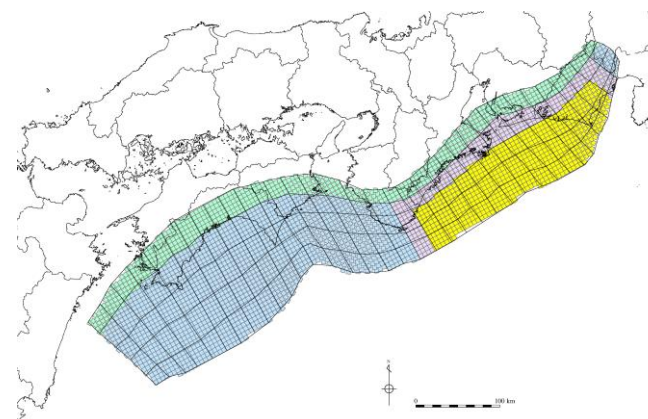


2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

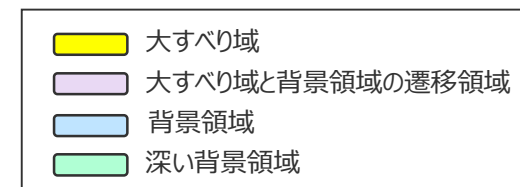
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.6
平均すべり量 (m)	4.7
最大すべり量 (m)	9.9
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



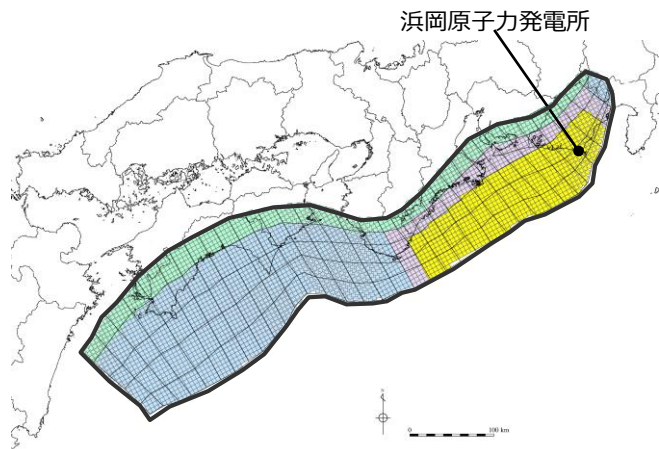
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.6MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.7MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.7MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （平均応力降下量：1.7MPa）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	10.4	5.0

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.7MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38					
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓																																											
	30km↓	1																																										
	20km↓	2				2.9	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8					
		3				5.8	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.8	4.8	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	5.5	5.5	5.5	5.3	5.3	5.6	5.6	5.0	5.0	4.2	4.2	4.2	3.3	3.3	3.3	3.3	1.6				
	10km↓	4				5.8	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	6.6	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	6.9	6.9	6.9	6.9	5.5	5.5	3.5	1.6				
		5				5.8	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	6.6	9.1	9.0	9.0	8.6	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	5.5	3.8	2.2				
	0km↓	6				5.8	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	6.6	9.1	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	3.8	2.2				
		7																																										
	8																																											

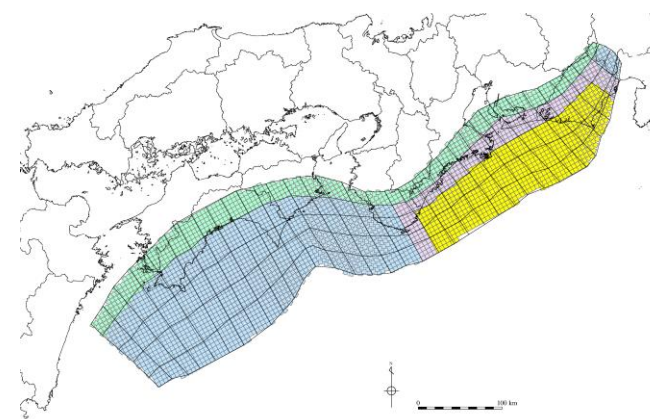
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

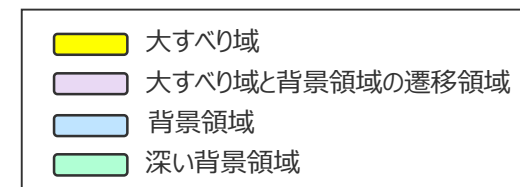
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.7
平均すべり量 (m)	5.0
最大すべり量 (m)	10.4
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



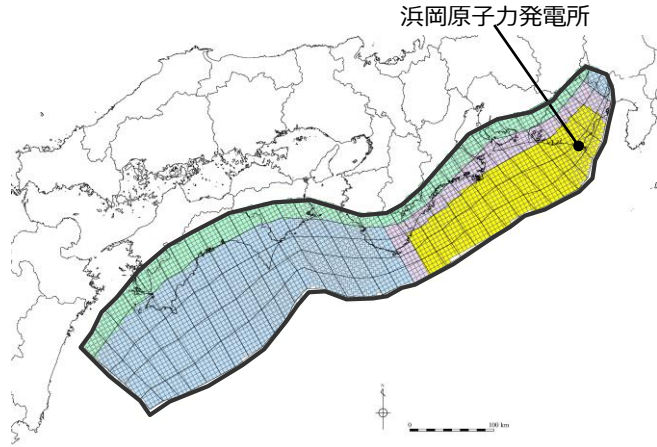
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.7MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （平均応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	11.1	5.3

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ← → 東																																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓	1																																							
	30km↓	2			3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8		
	20km↓	3			6.1	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.1	5.1	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	5.9	5.8	5.8	5.6	5.6	6.0	6.0	5.3	5.3	4.5	4.5	4.5	3.6	3.6	3.5	3.5	1.7		
	10km↓	4			6.1	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	4.4	7.1	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	9.9	9.9	8.7	7.4	7.4	7.4	7.4	5.8	5.8	3.8	1.7			
	0km↓	5			6.1	6.0	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.1	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	7.1	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	5.8	4.1	2.3			
	0km↓	6			6.1	6.0	6.0	6.0	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.4	7.1	9.7	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	4.1	2.3		
	0km↓	7																																							
	0km↓	8																																							

・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

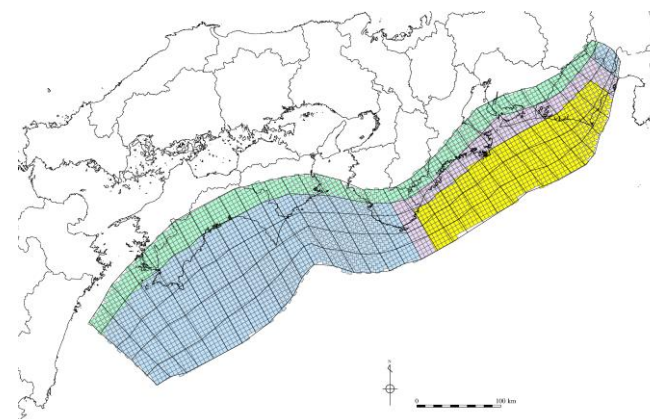
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定

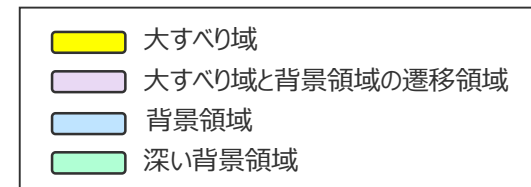
（平均応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.8
平均すべり量 (m)	5.3
最大すべり量 (m)	11.1
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



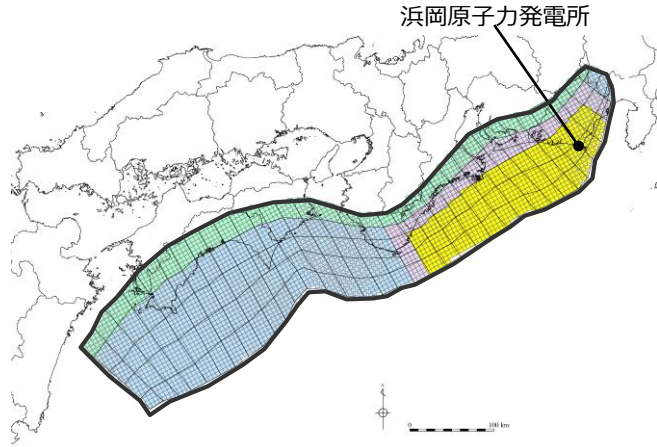
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.8MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.9MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.9MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （平均応力降下量：1.9MPa）	82,604	1.9×10 ²²	8.8	1.9	11.7	5.6

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（平均応力降下量：1.9MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38					
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓																																											
	30km↓	1																																										
	20km↓	2				3.2	3.2	3.2	2.9	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9					
		3				6.5	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	6.2	6.2	6.2	5.9	5.9	6.4	6.4	5.6	5.6	4.8	4.8	4.8	3.8	3.8	3.7	3.7	1.8				
	10km↓	4				6.5	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	7.4	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	7.8	7.8	7.8	7.8	6.2	6.2	4.0	1.8				
		5				6.5	6.3	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.4	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	7.4	10.2	10.1	10.1	9.7	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	6.2	4.3	2.4				
	0km↓	6				6.5	6.3	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	7.4	10.2	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	4.3	2.4					
		7																																										
	8																																											

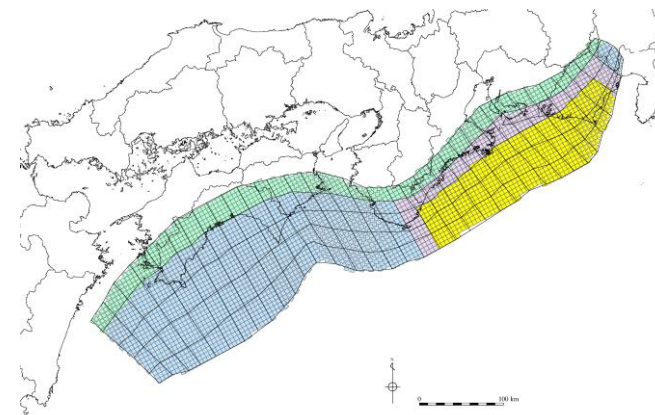
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

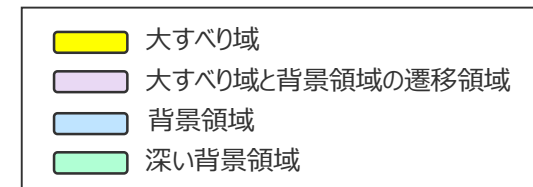
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.9
平均すべり量 (m)	5.6
最大すべり量 (m)	11.7
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



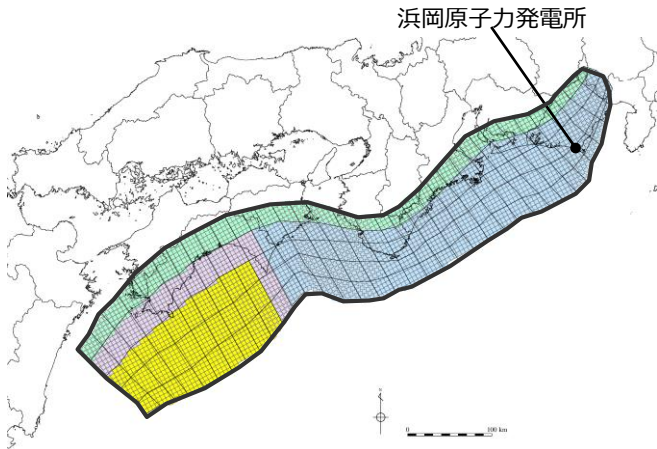
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（平均応力降下量：1.9MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （大すべり域の位置を南海地域としたモデルのすべり量分布の設定）

■「プレートの沈み込み速度を考慮したモデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）

プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮したモデル （大すべり域の位置を南海地域としたモデル）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	13.0	5.0

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

西 ← プレートの沈み込み速度を考慮したモデル（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）の小断層のすべり分布（m） → 東

陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
	30km↓	1																																						
20km↓	2				2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6	
	3				7.6	7.4	7.4	6.7	6.7	6.5	6.3	6.3	6.2	6.2	6.1	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	
10km↓	4				13.0	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	10.6	7.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	3.5	3.1	3.1	2.7	2.3	2.3	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	
	5				13.0	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	10.6	7.0	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	3.5	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	1.8	1.8	1.6	1.6
0km↓	6				13.0	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	7.0	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	2.9	3.5	3.5	3.1	3.1	2.7	2.7	2.3	2.3	1.8	1.6	1.6		
	7																																							
	8																																							

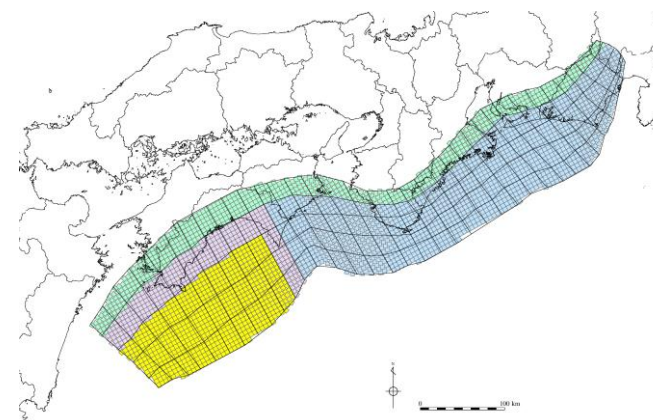
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

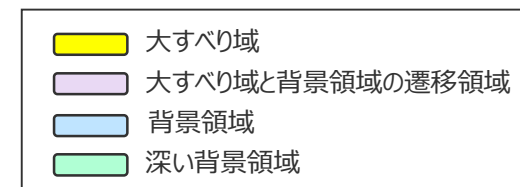
2-1 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （大すべり域の位置を南海地域としたモデルの設定）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
Mw	8.8
平均応力低下量 (MPa)	1.7
平均すべり量 (m)	5.0
最大すべり量 (m)	13.0
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮したモデル
（大すべり域の位置を南海地域としたモデル）



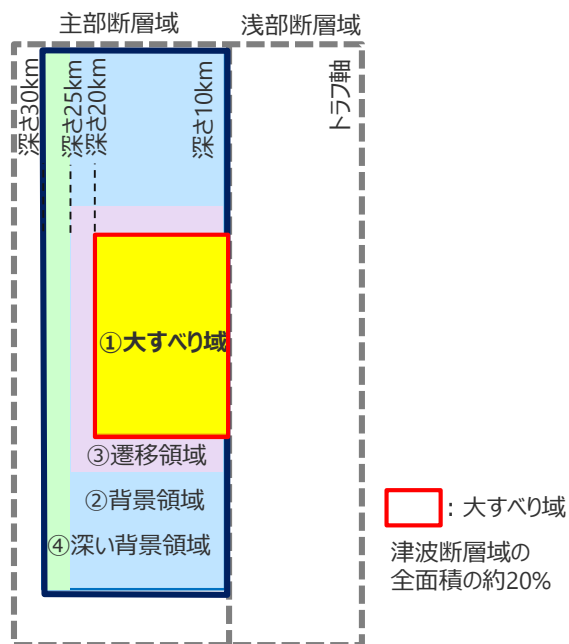
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度を考慮せず設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布概念図

【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を以下の領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量は以下の領域ごとに設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 ■ : $2D_i$
- ② 背景領域 ■ : 主部断層（領域①～④）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_b を設定
- ③ ①と②④の遷移領域 ■ : ②側 $(2D_i + D_b) / 2$ 、④側 $(2D_i + 1/2 \times D_b) / 2$
- ④ 深い背景領域 ■ : $1/2 \times D_b$

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_b : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

- ・今回実施した5ケース（平均応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。
- ・詳細な設定方法は、以降平均応力降下量1.5MPaのケースについて例示する。

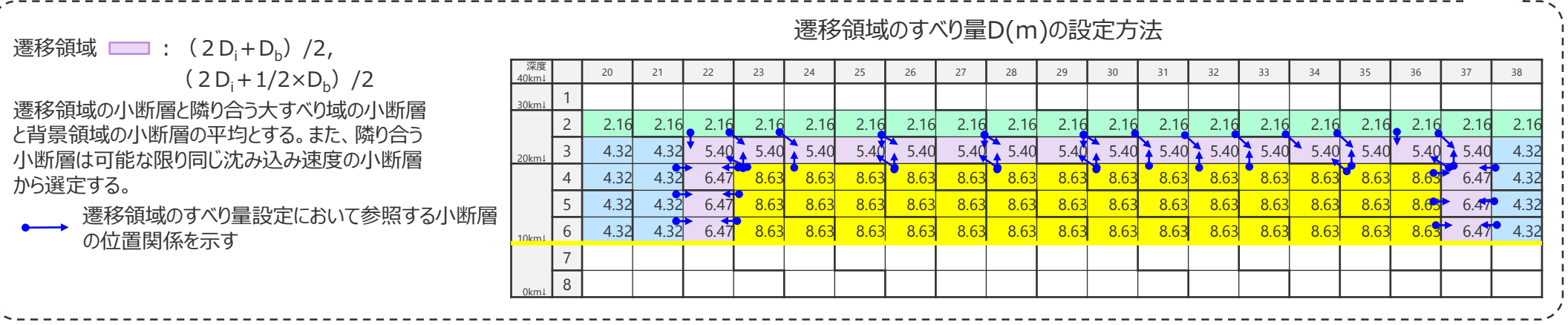
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （すべり量分布の設定）

【STEP1】各小断層の平均すべり量に基づき、主部断層に大すべり域等を設定し各小断層のすべり量を以下のとおり設定する。

スケーリング則 $M_0 = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma \cdot S^{3/2}$ より、主部断層全体の地震モーメントは以下となる。
 $M_0 = 1.46 \times 10^{22} (\text{Nm}) \dots \text{㉑}$
 $\Delta\sigma_m$: 主部断層全体の平均の応力降下量(1.5MPa)
 S_m : 主部断層全体の面積:82,604km²
 主部断層の平均すべり量
 $D = 16 / (7\pi^{3/2}) \cdot \Delta\sigma_m \cdot S_m^{1/2} / \mu = 4.32\text{m}$
 μ : 剛性率: $4.1 \times 10^{10} (\text{N/m}^2)$

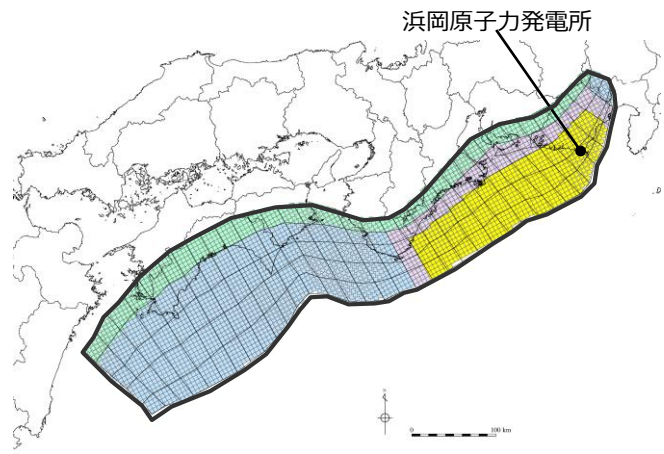
- 津波断層域の全面積(82,604km²)の約20%となるよう大すべり域の範囲（深度20km以浅～海溝軸×幅（ここでは23～36列））を決定。
- 各小断層の平均すべり量 D_i に対し、以下の関係を与えて調整前の各小断層のすべり量を設定。
- 背景領域のすべり量 $D_b = a \cdot D_i$ を調整前として $a=1$ で設定。



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.5MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.5MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.5MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （平均応力降下量：1.5MPa）	82,604	1.5×10 ²²	8.7	1.5	8.6	4.4

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.5MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																						→ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
陸側⇄海溝軸側	深度40km↓																																									
	30km↓	1																																								
	20km↓	2				1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
		3				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
	10km↓	4				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
		5				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
	0km↓	6				3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
		7																																								
	8																																									

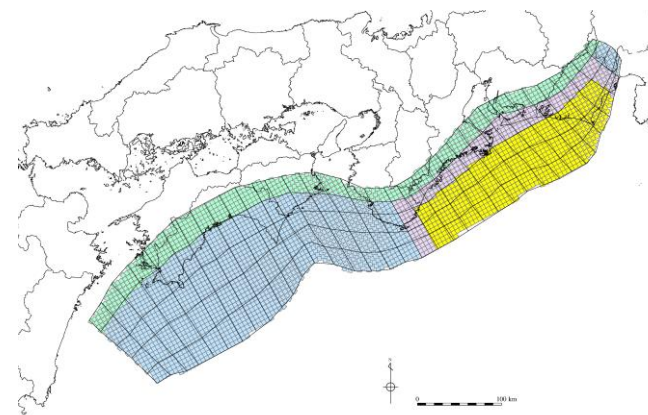
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

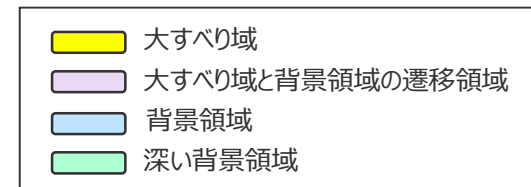
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.5
平均すべり量 (m)	4.4
最大すべり量 (m)	8.6
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



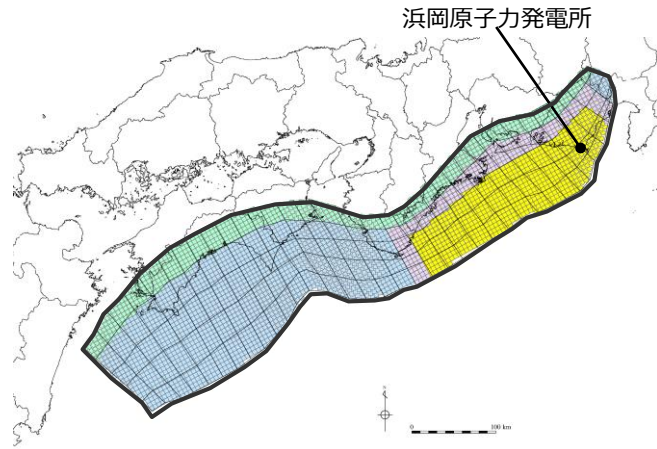
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.5MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.6MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.6MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.6MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （平均応力降下量：1.6MPa）	82,604	1.6×10 ²²	8.7	1.6	9.2	4.7

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.6MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ← → 東																																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38													
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓																																																			
	30km↓	1																																																		
	20km↓	2				1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9					
		3				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8			
	10km↓	4				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	
		5				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	
	0km↓	6				3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
		7																																																		
	8																																																			

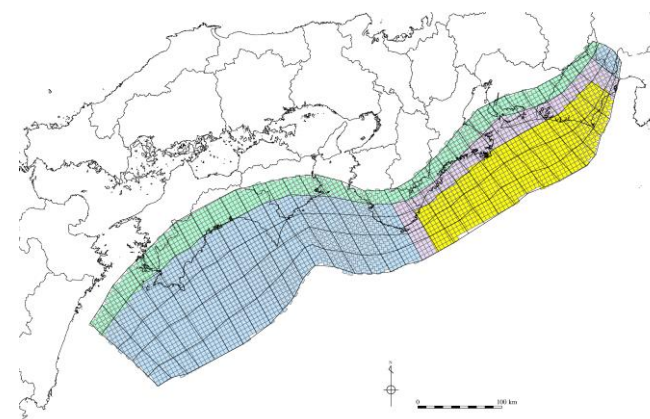
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

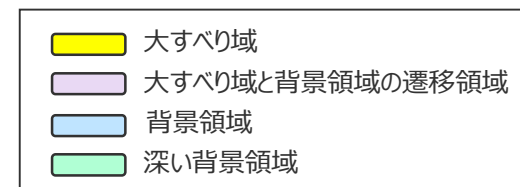
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.6
平均すべり量 (m)	4.7
最大すべり量 (m)	9.2
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.6MPa）

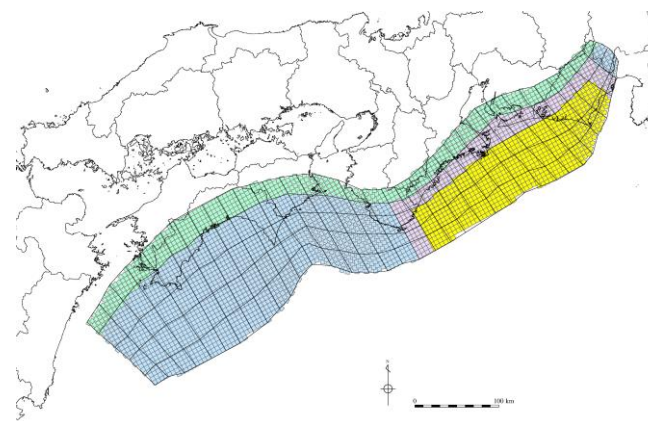


2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

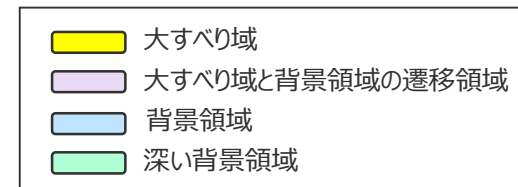
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.7
平均すべり量 (m)	5.0
最大すべり量 (m)	9.8
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



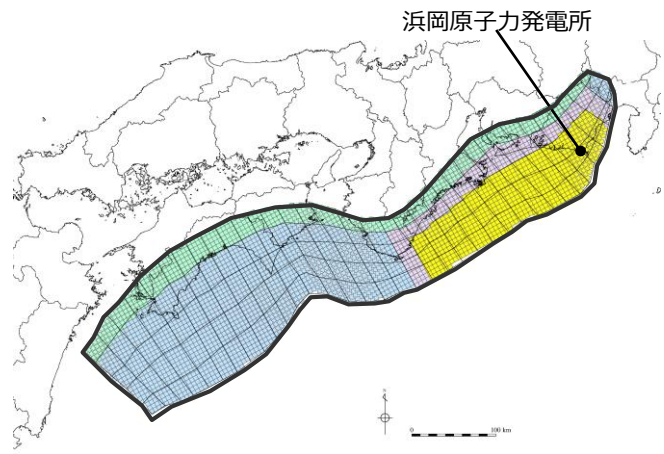
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.7MPa）



2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

■プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルの各小断層のすべり分布は以下のとおり。



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル （平均応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	10.4	5.3

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約20%
- 大すべり域と背景領域の遷移領域：両者の中間のすべり量
- 背景領域
- 深い背景領域：背景領域の1/2のすべり量

プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル（平均応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄海溝軸側	深度40km↓																																								
	30km↓	1																																							
	20km↓	2				2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	
		3				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	
	10km↓	4				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
		5				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
	6				4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
	0km↓	7																																							
8																																									

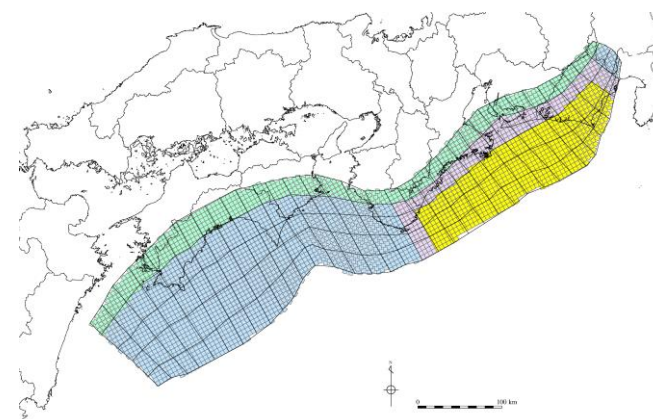
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

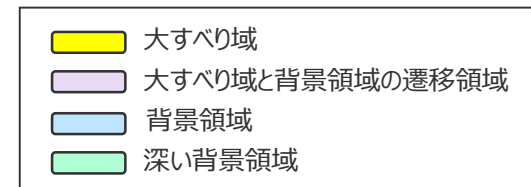
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.8
平均すべり量 (m)	5.3
最大すべり量 (m)	10.4
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

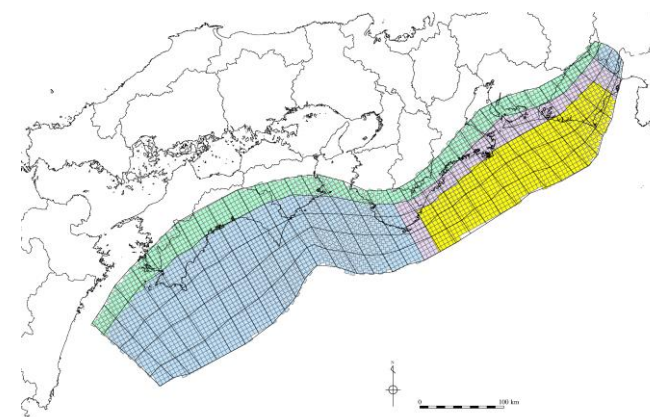


2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

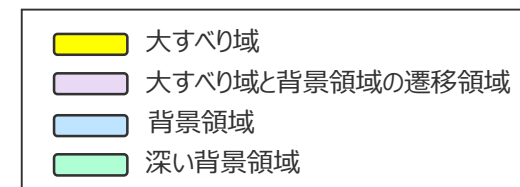
2-2 遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.9
平均すべり量 (m)	5.6
最大すべり量 (m)	10.9
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル
（平均応力降下量：1.9MPa）



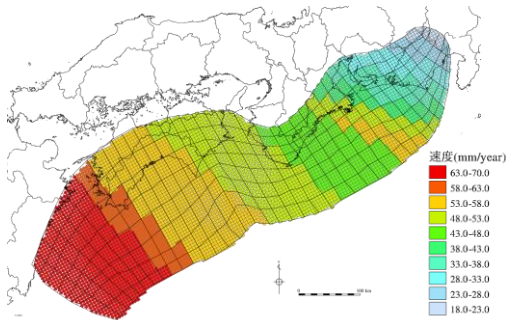
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮したモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

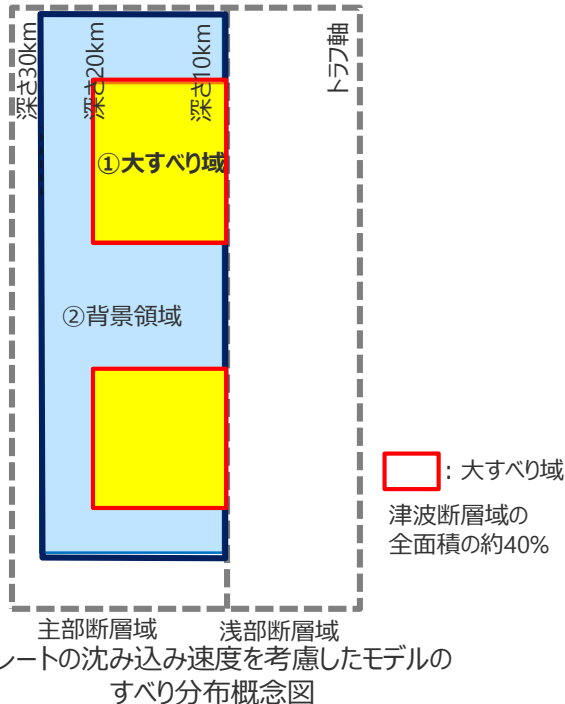
2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 すべり分布の設定

- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度に比例するよう設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮したモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



(Loveless and Meade(2010)を基に作成)

各小断層の沈み込速度分布



【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケーリング則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow$ 小断層毎のすべり量はプレートの沈み込み速度に比例するよう設定。

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 ■ : $2D_i$
- ② 背景領域 ■ : 主部断層（領域①～②）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_0 を設定

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_0 : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケーリングから算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

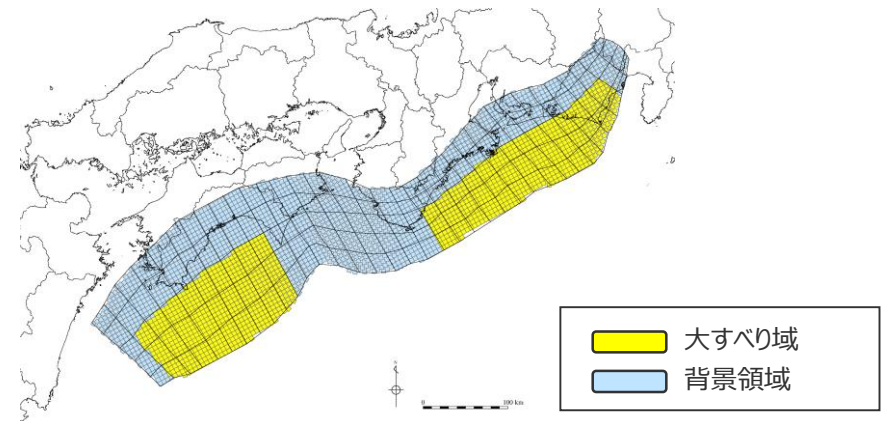
- ・今回実施した5ケース（平均応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.5
平均すべり量 (m)	4.4
最大すべり量 (m)	11.2
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



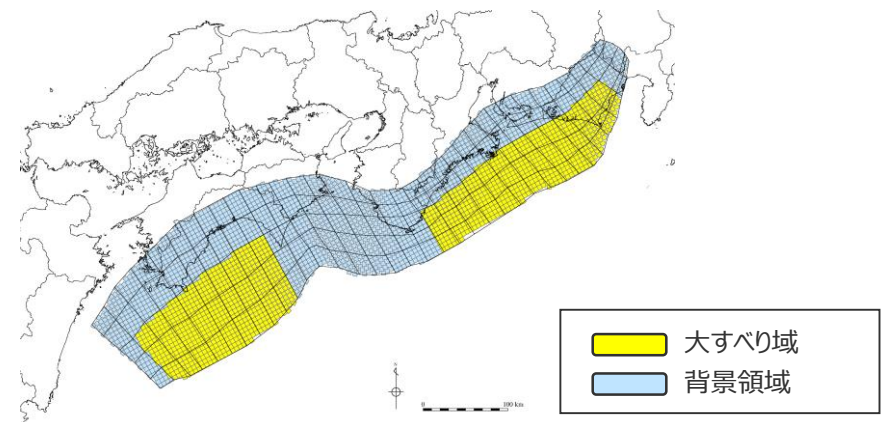
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.5MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.6
平均すべり量 (m)	4.7
最大すべり量 (m)	12.0
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60

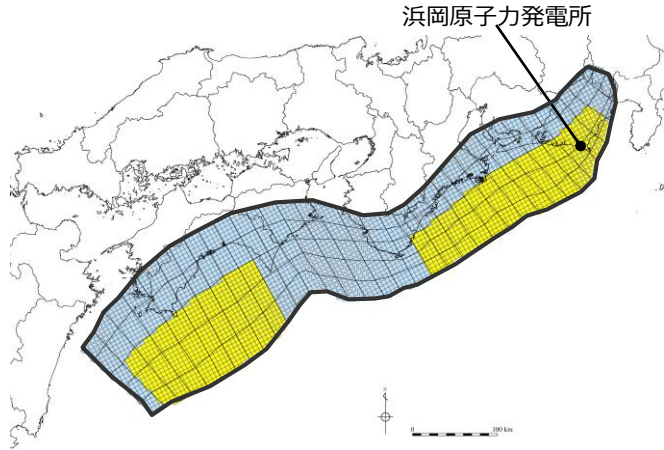


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.6MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.7MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.7MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （平均応力降下量：1.7MPa）	82,604	1.7×10 ²²	8.8	1.7	12.7	5.0

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.7MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																						→ 東	
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇕	30km↓	1																																							
	20km↓	2			2.1	2.1	2.1	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.5	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6		
海溝軸側⇓	10km↓	3			2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.5	1.5	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6		
	5km↓	4			2.1	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	10.6	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	6.9	6.9	6.9	6.9	5.5	5.5	0.8	0.6		
	1km↓	5			2.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	10.8	10.8	10.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	9.1	9.0	9.0	8.6	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	5.5	0.8	0.8		
	0km↓	6			2.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.1	11.1	10.8	10.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	9.1	9.1	9.0	9.0	8.6	10.4	10.4	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	6.9	5.5	0.8	0.8		
	7																																								
	8																																								

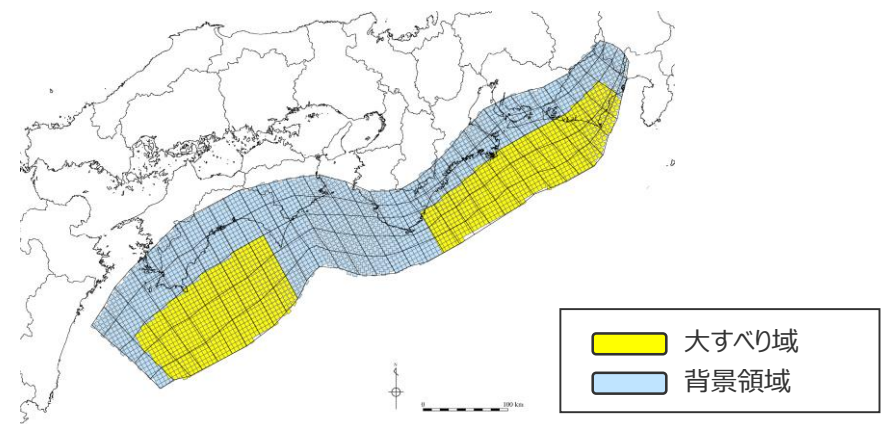
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.7
平均すべり量 (m)	5.0
最大すべり量 (m)	12.7
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60

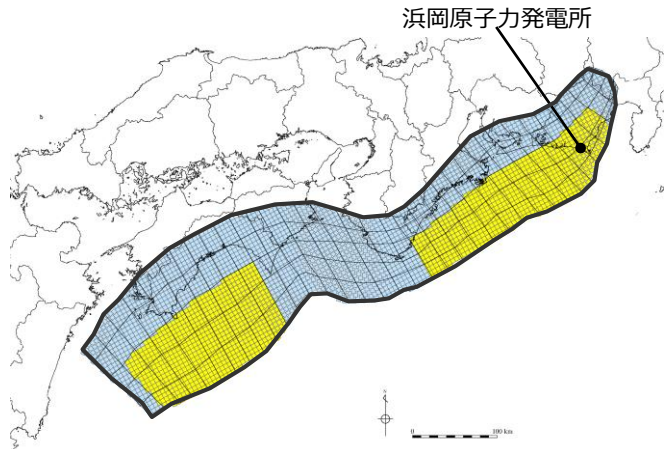


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.7MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.8MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	Mw	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （平均応力降下量：1.8MPa）	82,604	1.8×10 ²²	8.8	1.8	13.5	5.3

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.8MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ← → 東																																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側⇄ 海溝軸側⇄	30km↓	1																																							
	20km↓	2				2.3	2.2	2.2	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.6	1.6	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.6	
		3				2.3	2.2	2.2	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.6	1.6	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.9	0.9	0.6	
	10km↓	4				2.3	13.5	13.5	12.2	12.2	11.9	11.9	11.5	11.3	11.3	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	9.9	9.9	8.7	7.4	7.4	7.4	7.4	5.8	5.8	0.9	0.6
		5				2.3	13.5	13.5	13.5	12.2	12.2	11.9	11.5	11.5	11.3	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	9.7	9.6	9.6	9.2	9.2	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	5.8	0.9	0.9
	0km↓	6				2.3	13.5	13.5	13.5	12.2	12.2	11.9	11.9	11.5	11.3	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	9.7	9.7	9.6	9.6	9.2	11.1	11.1	9.9	9.9	8.7	8.7	7.4	7.4	5.8	0.9	0.9	
	7																																								
	8																																								

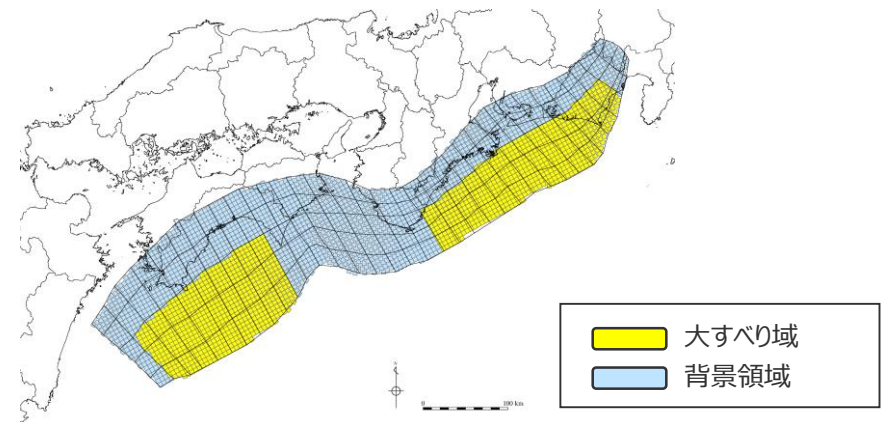
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.8
平均すべり量 (m)	5.3
最大すべり量 (m)	13.5
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60

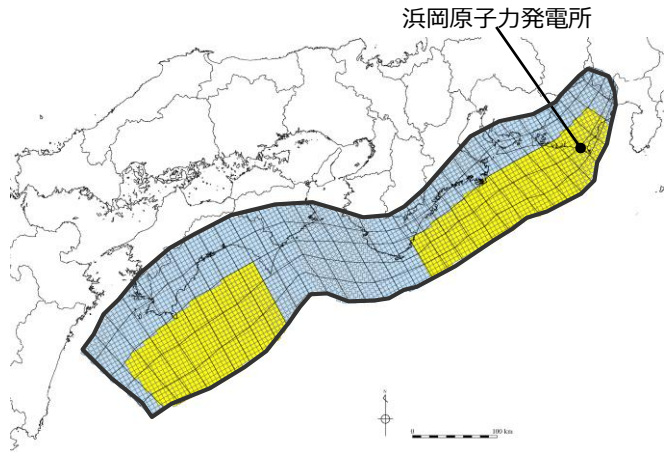


南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

■「南海トラフ広域の痕跡再現モデル」の各小断層のすべり分布は以下のとおり。



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.9MPa）

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.9MPa）のすべり量

断層モデル	面積 (km ²)	M ₀ (Nm)	M _w	Δσ (MPa)	最大 すべり量(m)	平均 すべり量(m)
南海トラフ広域の痕跡再現モデル （平均応力降下量：1.9MPa）	82,604	1.9×10 ²²	8.8	1.9	14.2	5.6

- 津波断層域
- 大すべり域（平均すべり量の2倍）：津波断層域の全面積の約40%
- 背景領域

南海トラフ広域の痕跡再現モデル（平均応力降下量：1.9MPa）の小断層のすべり分布（m）

		西 ←																																				→ 東					
陸側 ⇄		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
海溝軸側 ⇄	深度40km↓																																										
	30km↓	1																																									
	20km↓	2				2.4	2.3	2.3	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.7				
		3				2.4	2.3	2.3	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	1.0	1.0	0.9	0.9	0.7				
	10km↓	4				2.4	14.2	14.2	12.9	12.9	12.5	12.5	12.2	11.9	11.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	7.8	7.8	7.8	7.8	6.2	6.2	0.9	0.7		
		5				2.4	14.2	14.2	14.2	12.9	12.9	12.5	12.2	12.2	11.9	2.0	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	10.2	10.1	10.1	9.7	9.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	6.2	0.9	0.9		
	0km↓	6				2.4	14.2	14.2	14.2	12.9	12.9	12.5	12.5	12.2	11.9	2.0	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	10.2	10.2	10.1	10.1	9.7	11.7	11.7	10.4	10.4	9.2	9.2	7.8	7.8	6.2	0.9	0.9			
		7																																									
	8																																										

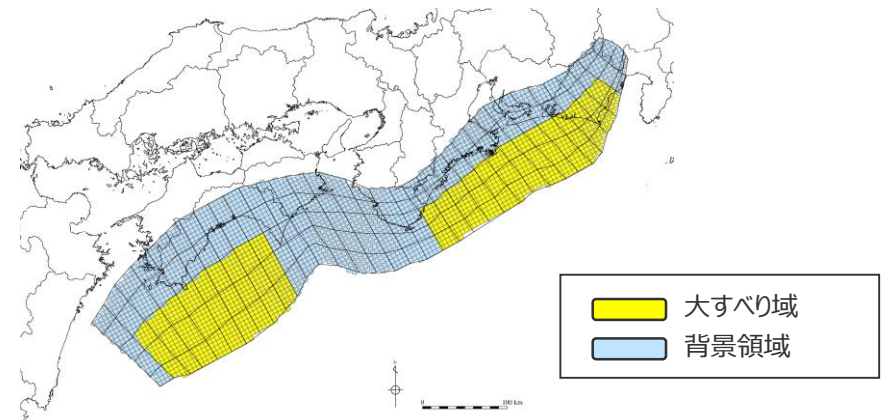
・すべり分布の番号は上記波源モデル図の各小断層に対し西側から東側に順に1列から38列まで設定。陸側から海溝軸側に1行から8行まで設定。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-3 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮したモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.9
平均すべり量 (m)	5.6
最大すべり量 (m)	14.2
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.9MPa）

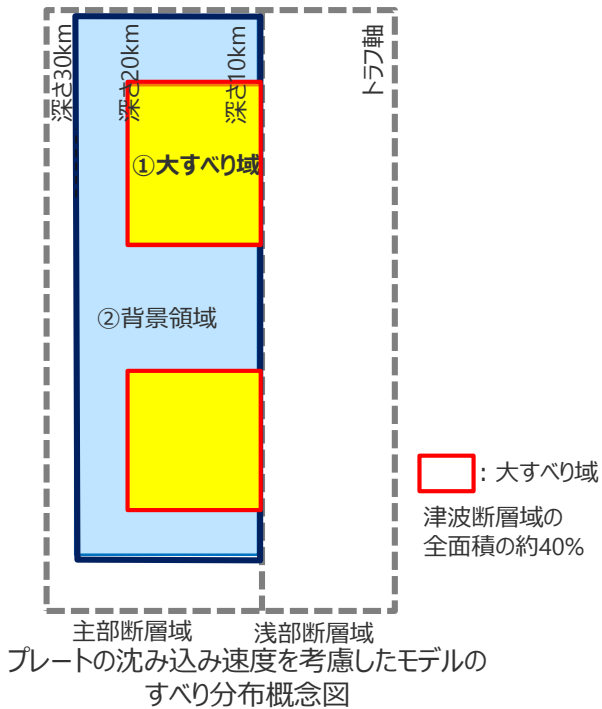
2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル (プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル) の設定

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定（すべり量分布の設定）

- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定については、各小断層のすべり量をフィリピン海プレートの沈み込み速度を考慮せず設定し、大すべり域には平均すべり量の2倍のすべり量を設定した。
- プレートの沈み込み速度を考慮しないモデルのすべり分布の設定の詳細は以下のとおり。



【主部断層のすべり量の設定】

まず、各小断層の平均すべり量 D_i を領域ごとに設定し、各小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が主部断層のスケール則から求められる地震モーメント M_0 になるように設定。

$$M_0 = \sum M_{0i} = \sum \mu D_i S_i \rightarrow \text{小断層毎のすべり量は以下の領域ごとに設定。}$$

次に、各小断層の平均すべり量 D_i に対して、以下の関係を与えて各小断層のすべり量を設定。

- ① 大すべり域 : $2D_i$
- ② 背景領域 : 主部断層（領域①～②）の小断層の地震モーメント M_{0i} の総和が、 M_0 となるすべり量 D_0 を設定

D_i : 各小断層の平均すべり量 D_0 : 各背景領域のすべり量(= aD_i , a は定数) S_i : 各小断層の面積
 M_0 : スケール則から算定される主部断層の地震モーメント M_{0i} : 各小断層の地震モーメント

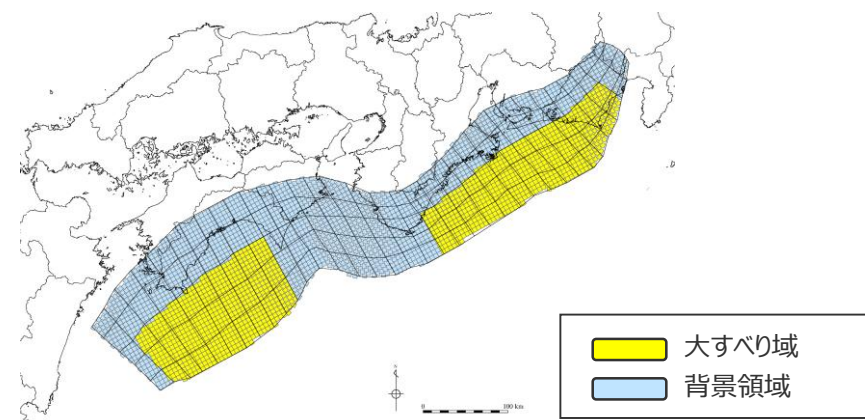
- ・今回実施した5ケース（平均応力降下量1.5MPa、1.6MPa、1.7MPa、1.8MPa、1.9MPa）とも、同様の考え方ですべり量設定を行っている。

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.5MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.5×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.5
平均すべり量 (m)	4.4
最大すべり量 (m)	8.6
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



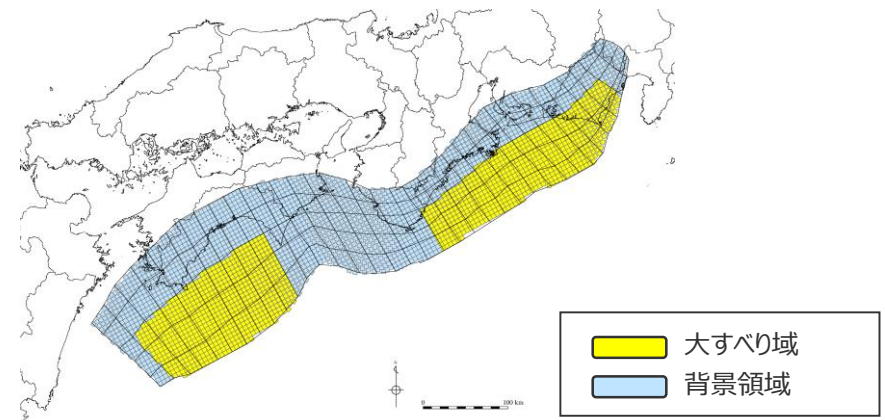
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.5MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.6MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
Mw	8.7
平均応力降下量 (MPa)	1.6
平均すべり量 (m)	4.7
最大すべり量 (m)	9.2
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



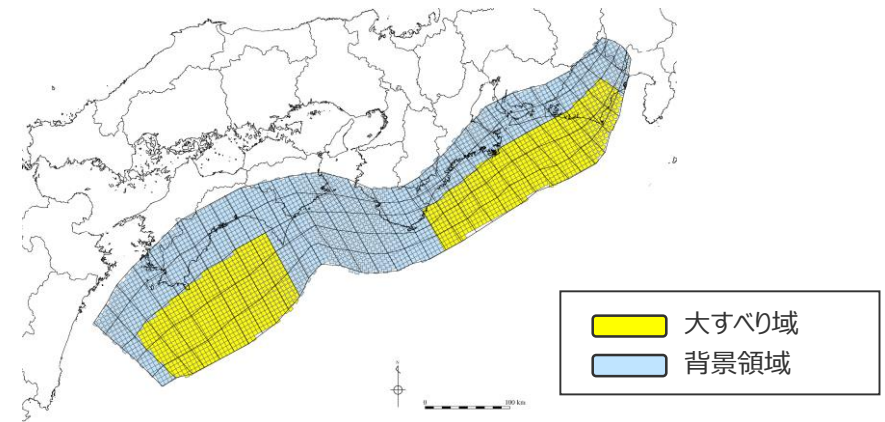
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.6MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.7MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.7
平均すべり量 (m)	5.0
最大すべり量 (m)	9.8
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



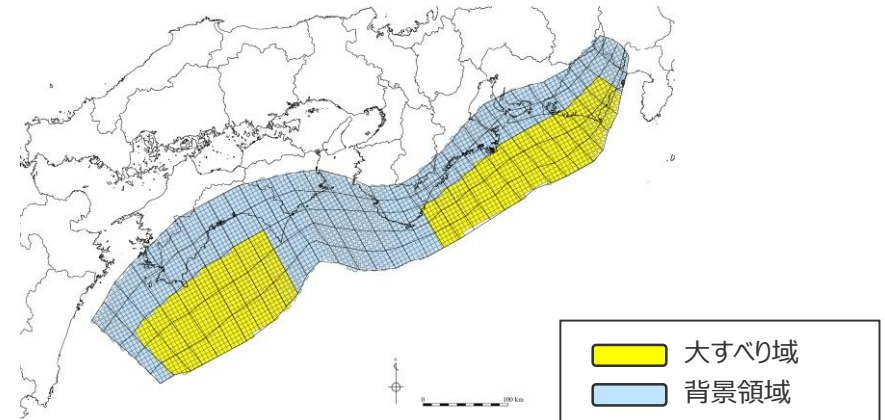
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.7MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.8MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.8
平均すべり量 (m)	5.3
最大すべり量 (m)	10.4
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



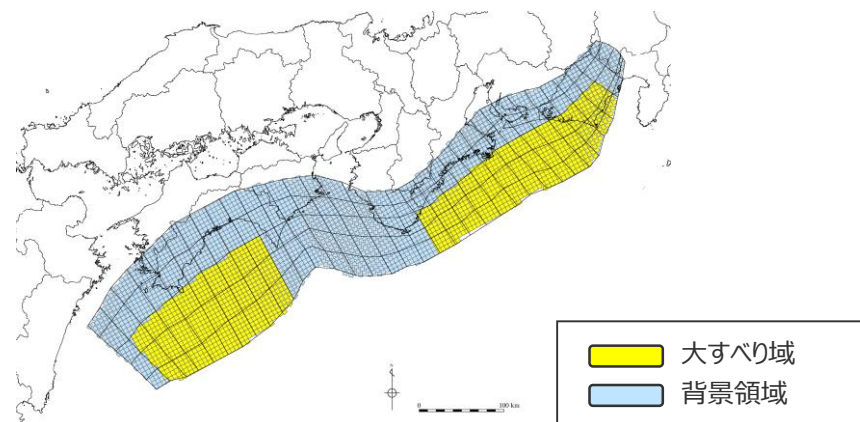
南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.8MPa）

2 痕跡再現モデルの波源モデルの詳細

2-4 南海トラフ広域の痕跡再現モデル（プレートの沈み込み速度を考慮しないモデル）の設定 （平均応力降下量：1.9MPa）

断層パラメータ

項目	設定値
面積 (km ²)	82,604
地震モーメント (Nm)	1.9×10^{22}
Mw	8.8
平均応力降下量 (MPa)	1.9
平均すべり量 (m)	5.6
最大すべり量 (m)	10.9
剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
破壊伝播速度 (km/s)	2.0
ライズタイム (s)	60



南海トラフ広域の痕跡再現モデル
（平均応力降下量：1.9MPa）



中部電力